

第31回 韓日・日韓經濟人會議

THE 31ST KOREA-JAPAN & JAPAN-KOREA
BUSINESS CONFERENCE

1999. 4. 8～10 SEOUL, KOREA

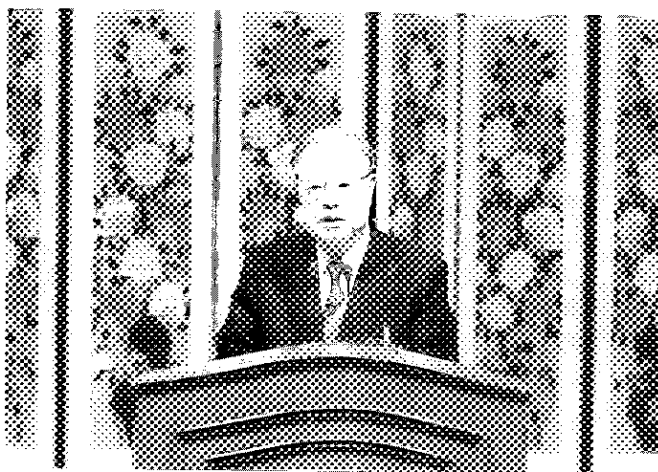
報 告 書

(社)韓日經濟協會

第31回 韓日・日韓經濟人會議



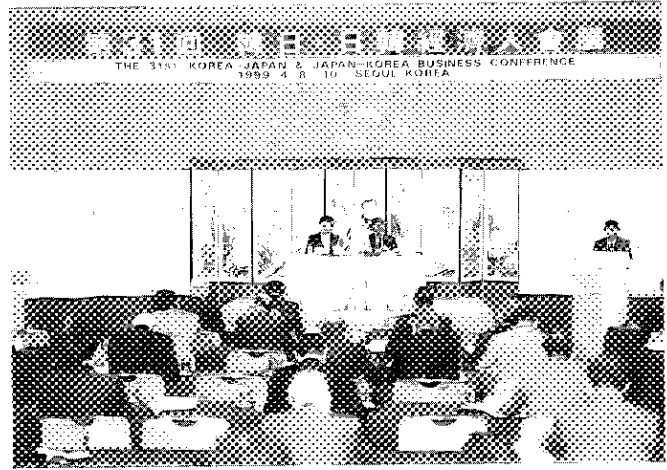
開會式



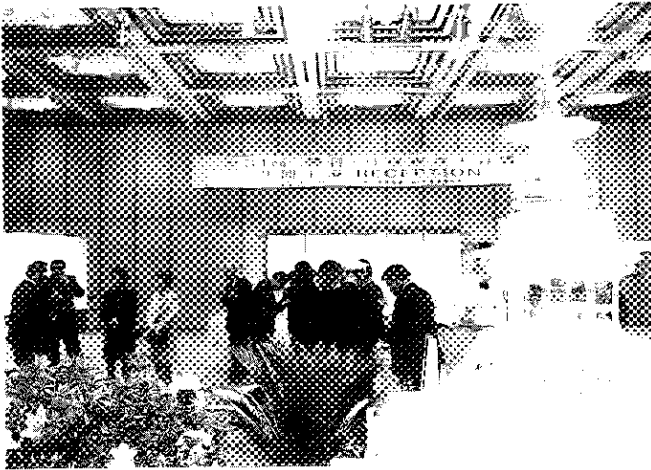
開會人事하는 金相廈 韓國側 團長



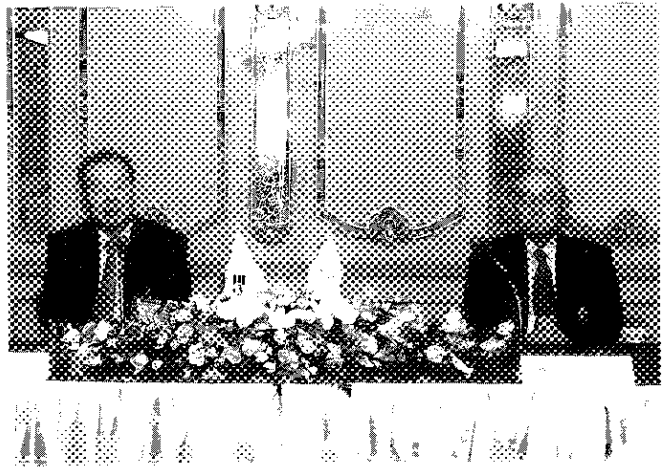
韓日兩側 顧問團斗 來賓



分科會 進行 모습



환담을 나누고 있는 兩側 人士



會議를 마치고 記者會見하는 兩側 團長

目 次

1. 共同聲明	5
2. 日 程	9
3. 議 題	13
4. 兩側 代表團 名單	15
5. 開會式	33
(1) 團長人事	
金 相 廈 韓國側 代表團 團長	35
藤村 正哉 日本側 代表團 團長	37
(2) 來賓祝辭	
朴 泰 俊 自由民主聯合 總裁	41
小倉 和夫 駐大韓民國日本國特命全權大使	44
(3) 顧問人事	
金 宇 中 全國經濟人聯合會 會長	46
畠山 襄 日本貿易振興會 理事長	48

6. 基調演說

- (1) 『21世紀 아시아의 비전과 韓日 協力』
趙 錫 來 (株)曉星 會長 55
- (2) 『經濟 改革과 日韓 協力』
牛尾 治朗 (社)經濟同友會 代表幹事 64

7. 全體會議 ①

- (1) 一般經過報告 75
- (2) 各專門委員會 報告
 - ① 韓日·日韓貿易投資委員會 78
 - ② 韓日·日韓機械工業委員會 80
 - ③ 韓日·日韓中堅中小企業委員會 84
 - ④ 韓日·日韓產業一般委員會 86

8. 第 1 分科會 (貿易關聯分野)

- (1) 韓國側 백그라운드 페이지
『韓日 自由貿易地帶 創設의 影響과 展望』
金 道 卿 LG經濟研究院 經濟研究2室 室長 兼 研究委員 91
- (2) 韓國側 백그라운드 페이지에 대한 自由討論 108
- (3) 日本側 백그라운드 페이지
『今後의 日韓 Business alliance에 대하여』
中村 喜起 SEOUL JAPAN CLUB 理事長, 三菱商事(株) 서울支店長
..... 124
- (4) 日本側 백그라운드 페이지에 대한 自由討論 145

9. 第 2 分科會 (產業協力分野)

(1) 韓國側 백그라운드 페이지

『韓日 兩國의 建設協力 方向』

趙 恒 九 三扶土建(株) 代表理事 社長 147

(2) 韓國側 백그라운드 페이지에 대한 自由討論 160

(3) 日本側 백그라운드 페이지

『日本企業은 韓國의 投資環境을 어떻게 보고 있는가?』

海老名 誠 富士總合研究所(株) 國際調查部長 177

(4) 日本側 백그라운드 페이지에 대한 自由討論 193

10. 合同分科會 (交流增進分野, 其他)

(1) 主題發表

① 『韓國의 投資環境 變化 - 21世紀 韓日 經濟關係의 展望과 더불어 -』

吳 盈 敎 産業資源部 貿易擔當次官補 211

② 『輸銀의 對韓金融支援의 實績과 日韓 Business alliance 支援構想』

波多野琢磨 日本輸出入銀行 營業第1部 部長 225

③ 『APEC 投資博覽會 (開催意義와 期待效果)』

白 昌 坤 大韓貿易投資振興公社 外國人投資支援센터 所長 · 230

④ 『日韓文化交流에 대하여』

熊谷 直博 (財)日韓文化交流基金 理事長 252

(2) 提案

① 『産業貿易會議 新設에 관하여 (共同提案)』

村上 弘芳 (社)日韓經濟協會 專務理事 259

② 『韓日中堅經濟人交流促進團 誘致』	
薛 元 鳳 大韓製糖(株) 會長	262
③ 『韓國訪日輸出促進團・産業技術交流促進미션 派遣』	
李 吉 鉉 (株)HOTEL 新羅 社長	265
④ 『青少年交流韓日大學生 相互訪問 (共同提案)』	
下出 道雄 (社)日韓經濟協會 理事・調査部長	268

11. 全體會議 ②

(1) 第 1 分科會 報告

① 韓國側 코디네이터	
李 漢 久 大宇經濟研究所 社長	273
② 日本側 코디네이터	
麻生 泰 麻生시멘트(株) 社長	277

(2) 第 2 分科會 報告

① 韓國側 코디네이터	
金 都 亨 産業研究院 前任研究委員	279
② 日本側 코디네이터	
大慈彌省三 石川島播磨重工業(株) 副社長	282

12. 閉會式

(1) 團長人事

金 相 廈 韓國側 代表團 團長	287
藤村 正哉 日本側 代表團 團長	289

共 同 聲 明

第31回 韓日・日韓經濟人會議는 1999年 4月 8日, 9日 兩日間 大韓民國 서울에서 韓國側으로부터는 金相廈 團長外 134名이, 日本側으로부터는 藤村正哉 團長外 125名이 參席하여 開催되었다.

1. 全體會議에서는 一般經過報告 後 4個 專門委員會의 活動狀況에 대한 報告가 있었으며, 모두 異議없이 諒解되었다.

- (1) 第25回 韓日・日韓貿易投資委員會 (1998年 11月 日本 東京)
- (2) 第24回 韓日・日韓機械工業委員會 (1999年 2月 日本 東京)
- (3) 第16回 韓日・日韓中堅中小企業委員會 (1999年 3月 日本 東京)
- (4) 第 6回 韓日・日韓産業一般委員會 (兩委員長間 往復書簡으로 合意確認)

2. 먼저, 이번 會議에서 兩國 經濟人들은 兩國經濟와 兩國關係를 둘러싼 諸般問題에 관해 다음과 같이 基本認識을 함께 하였다.

韓國經濟는 昨年 1年間 企業, 金融, 勞動, 公共의 4個 部門에서 構造調整과 改革을 斷行하고 彈力的인 財政金融政策을 驅使함으로서 危機狀況에서 徐徐히 벗어나면서 國際社會의 信認도가 크게 向上되었다.

한편 日本經濟는 公共投資, 減稅 等の 景氣浮揚策, 金融機關에 대한 公的資金投入과 企業의 構造調整努力 등으로 長期不況에서 脫皮할 수 있는 契機를 마련하였다.

現在 兩國은 實物經濟가 多少 回復되고 있으나 同時에 金融機關을 包含한 企業의 過當競爭體質에서 비롯된 過剩債務, 過剩設備, 過剩人力調整과 企業支配構造(Corporate governance)의 改善 等 어려운 課題가 山積해 있다.

兩國이 이러한 構造的 問題를 解決하여 自律成長軌道에 進入하기 위해서는 지금까지와 같은 政府主導의 構造改革만이 아니고 産業과 企業이 從來의 延長線上的 改善・改良이 아닌 보다 創造的이고 다이내믹한 競爭力을 創造하고 國境을 超越한 眞正한 企業間 競爭과 協力에 積極 同參해야 한다.

IMF體制以後의 日本의 一連의 對韓 金融支援, 兩國頂上의 相互訪問을 비롯 한 兩國 政府 高位級의 協調와 이를 위한 兩國 企業人들의 環境整備 努力은 過去에 볼 수 없을 程度로 刮目한 것이며, 이러한 兩國間에 造成된 善隣友好關係가 아시아의 再生, 東아시아의 安定과 發展으로 具體化되기 위해서는 우선 兩國間의 자유롭고 開放된 經濟活動을 制約해 온 各種의 潛在的인 障礙要因을 果敢히 除去하기 위한 政府와 民間의 努力이 加一層 要請된다.

同時에 새로운 밀레니엄을 맞이하면서 아시아의 正當한 主張이 世界的 去來 規範(Global standard)에 公正하게 反映되도록 하기 위해서도 아시아經濟共同 體 形成이라는 遠大한 目標를 향해 韓日 兩國이 지금 以上으로 緊密하게 相互 協調해야 한다.

3. 基調演說, 貿易關聯, 産業協力 및 交流增進 等 各 分科會에서의 意見發表와 討論을 통해 兩國은 現在의 構造改革을 加速化함과 同時에 이에 따른 弊害를 極小化하기 위해 새로운 分野에 果敢히 挑戰하는 經營姿勢와 이를 可能케 하는 兩國 固有의 보다 柔軟한 經營시스템을 構築, 相互 切磋琢磨하는 關係로 前進해야 한다는 것을 確認하고 다음과 같은 事項에 理解를 같이 했다.

(1) 市場經濟體制아래 競爭力을 提高하는 責任은 어디까지나 民間에 있으며 자유로운 活動을 妨害하는 既存의 물이나 制度는 果敢하게 撤廢함으로써 글로벌라이제이션에 對應하는 한편 消費者 保護, 弱者救濟, 公正競爭이 可能하도록 民主主義와의 調和가 可能한 體制를 整備해 가야 한다. 同時에 經營에 대한 責任과 規律이 그 어느 때 보다 要請된다. 아시아의 風土와 傳統 속에서 이러한 市場經濟의 改革이 어떠한 創造的인 아시아모델을 實現할 수 있을 것인지 兩國 經濟人들은 자유로운 論議에 同參할 때이다.

(2) 世界的으로 擴散되고 있는 地域統合의 움직임 속에서 最近 아시아危機를 함께 經驗하고 있는 韓日 兩國이 아시아域內協力を 한층 強化하는 手段으로서 自由貿易協定の 必要性이 急速히 提起되고 있다. 이미 兩國間 投資協定은 조만간 實現될 可能性이 높고 自由貿易協定은 短期的으로는 規制와 保護障壁이 높은 業種일수록 摩擦이 豫想되지만 中長期的으로는 相互 利益을 확보해 줄 것이다. 今年 3月, 韓日首腦會談時 合意된 「經濟 Agenda 21」은 將來의 自由貿易協定の 可能性을 염두에 두면서 投資協定, 租稅條約, 基準・認證 및 知的所有權 等の 分野에 대해서 兩國間 經濟活動의 當面한 障害를 除去해 가는 것을 確認한 것이지만, 同時에 이것은 兩國

이 아시아經濟의 再生 等 共通의 課題에 같은 視線으로 對處하고자하는 體制構築을 指向하는 것이기도 하다. 우리 經濟人은 스스로의 積極的인 行動으로 兩國 政府의 眞摯한 努力에 부응하지 않으면 안된다.

(3) 最近 韓國은 從來의 外資 規制에서 積極的인 外資誘致로 一大轉換을 試圖하여 各種 인센티브를 擴大하고 支援體制를 強化하고 있으며, 이에 따라 歐美의 對韓投資가 急速히 擴大되고 있다. 日本은 景氣後退로 體力이 弱화되고 있음에도 不拘하고 M&A를 비롯한 對韓 直接投資가 增加하고, 韓日・日韓産業技術協力財團을 中心으로 서포팅 인더스트리의 技術人力養成 協力 等の 成果를 着實히 蓄積해 오고 있다. 앞으로 韓國은 韓國企業固有의 經營戰略, 商慣行, 法, 制度 等の 國際的 調和의 어려움을 克服하고 日本은 그 努力을 評價하고 韓日官民合同投資促進協議會 等を 통해서 投資의 促進에 努力한다.

(4) 兩國의 業界가 構造改革과 産業再編을 實施해 나갈 때, 現在와 같이 自國內의 業界와 設備만을 對象으로 할 것이 아니라 國際競爭力의 視點에서 國境을 超越한 business alliance의 構築을 圖謀하고, 戰略的效果를 達成한다는 새로운 次元에서의 對應이 政府의 支援을 包含해서 必要하다.

4. 各 分科會에서의 提案 等に 關해 別添事項에 合意하였다.

5. 다음 會議는 來年 日本에서 開催한다.

1999年 4月 9日

韓國側 代表團 團長 金相廈

日本側 代表團 團長 藤村正哉

〈別 添〉

合 意 事 項

- (1) 今年 3차례에 걸친 「訪日輸出促進團」派遣과 그 受容에 協力하는 件
- (2) 兩國의 産業技術協力財團事業에 대해 協力하는 件
- (3) 「韓日中堅經濟人交流促進團」의 日本 派遣과 그 受容에 協力하는 件
- (4) 「靑少年交流事業」으로서 韓日 兩國의 大學生을 相互派遣하고, 그 受容에 協力하는 件
- (5) 「産業貿易會議」開催에 協力하는 件
- (6) APEC投資博覽會 開催에 대해 協力하는 件
- (7) 其他 各種 協力・交流事業을 韓日・日韓 兩經濟協會 合意下에 推進하는 件

以 上

日 程

4月 8日 (木)

16 : 30 - 17 : 10 開會式 ----- 2F DYNASTY I

(1) 開會

(2) 兩側 團長人事

韓國側：金 相 廈 團長

日本側：藤村 正哉 團長

(3) 來賓祝辭

韓國側：朴 泰 俊 自由民主聯合 總裁

日本側：小倉 和夫 駐大韓民國日本國特命全權大使

(5) 顧問人事

韓國側：金 宇 中 全國經濟人聯合會 會長

日本側：畠山 襄 日本貿易振興會 理事長

(6) 議長選出

(7) 議題採擇：金 相 廈 團長

17 : 10 - 18 : 10 兩側 基調演說

韓國側：趙 錫 來 (株)曉星 會長

『21世紀 아시아의 비전과 韓日 協力』

日本側：牛尾 治朗 (社)經濟同友會 代表幹事

『經濟改革과 日韓協力』

18 : 10 - 18 : 50 全體會議 ①

(1) 一般經過報告

(2) 各專門委員會 報告

1) 韓日貿易投資委員會

2) 韓日機械工業委員會

3) 韓日中堅中小企業委員會

4) 韓日產業一般委員會

19 : 00 - 20 : 30 RECEPTION (兩經濟協會 共同主催) ---- 2F DYNASTY II・III

4月 9日 (金)

09 : 00 - 12 : 00 各分科會別 會議

- 第1分科會(貿易關聯分野) ----- 2F DYNASTY II

코디네이터 韓國側 : 李 漢 久 大宇經濟研究所 社長

日本側 : 麻生 泰 麻生시멘트(株) 社長

- 第2分科會(産業協力分野) ----- 2F DYNASTY III

코디네이터 韓國側 : 金 都 亨 産業研究院 先任研究委員

日本側 : 大慈彌省三 石川島播磨重工業(株) 副社長

《分科會別 細部日程》

09 : 00 - 09 : 10	韓國側 코디네이터 說明
09 : 10 - 09 : 15	日本側 코디네이터 補充코멘트
09 : 15 - 09 : 35	韓國側 백그라운드 페이지 要約發表
09 : 35 - 09 : 40	코디네이터 코멘트
09 : 40 - 10 : 20	自由討論
10 : 20 - 10 : 40	COFFEE BREAK
10 : 40 - 11 : 00	日本側 백그라운드 페이지 要約發表
11 : 00 - 11 : 05	코디네이터 코멘트
11 : 05 - 11 : 45	自由討論
11 : 45 - 12 : 00	兩側 코디네이터 總括

12 : 00 - 14 : 00 午餐會

- 顧問・團長團・各專門委員會 委員長 (共同聲明案 審議)

----- 3F LILAC

- 團 員 ----- 迎賓館 1F TOPAZ・RUBY

14 : 00 - 15 : 50 合同分科會(交流增進分野, 其他) ----- 2F DYNASTY I

共同議長 韓國側 : 李 奭 熙 副團長

日本側 : 大庭 浩 副團長

《合同分科會 細部日程》

14 : 00 - 14 : 05	兩側共同議長 人事
14 : 05 - 14 : 25	韓國側 主題發表①
14 : 25 - 14 : 45	日本側 主題發表①
14 : 45 - 14 : 55	韓國側 主題發表②
14 : 55 - 15 : 15	日本側 主題發表②
15 : 15 - 15 : 30	質疑應答
15 : 30 - 15 : 50	提案 및 議長總括

15 : 50 - 16 : 10 全體會議 ② (分科會 報告) ----- 2F DYNASTY I

16 : 10 - 16 : 30 COFFEE BREAK (共同聲明 配布)

16 : 30 - 17 : 10 閉會式 ----- 2F DYNASTY I
(1) 共同聲明 採擇
(2) 兩側 團長人事
(3) 閉會

17 : 30 - 18 : 30 共同記者會見 (兩側團長) ----- 3F MARRONNIER

4月 10日 (土) * OPTION PROGRAM

(Ⅰ) 觀光

10 : 00 - 10 : 30 HOTEL - 昌德宮 (BUS)

10 : 30 - 11 : 30 昌德宮 見學

(Ⅱ) 特別行事

07 : 30 - 14 : 00 親善交流活動 (GOLF)

議 題

1. 第 1 分科會（貿易關聯分野）

韓國側：『韓日 自由貿易地帶 創設의 影響과 展望』

金 道 卿 LG經濟研究院 經濟研究2室 室長 兼 研究委員

日本側：『今後의 日韓 Business alliance에 대하여』

中村 喜起 SEOUL JAPAN CLUB 理事長

三菱商事(株) 서울支店長

2. 第 2 分科會（產業協力分野）

韓國側：『韓日 兩國의 建設協力 方向』

趙 恒 九 三扶土建(株) 代表理事 社長

日本側：『日本企業은 韓國의 投資環境을 어떻게 보고 있는가?』

海老名 誠 富士總合研究所(株) 國際調查部長

3. 合同分科會（交流增進分野, 其他）

韓國側：『韓國의 投資環境 變化 - 21世紀 韓日 經濟關係의 展望과 더불어 -』

吳 盈 敎 產業資源部 貿易擔當次官補

『APEC 投資博覽會 (開催意義와 期待效果)』

白 昌 坤 大韓貿易投資振興公社 外國人投資支援센터 所長

日本側：『輸銀의 對韓金融支援의 實績과 日韓 Business alliance 支援構想』

波多野琢磨 日本輸出入銀行 營業第1部 部長

『日韓文化交流에 대하여』

熊谷 直博 (財)日韓文化交流基金 理事長

〈 提 案 〉

(1) 「産業貿易會議 新設에 關하여 (共同提案)」

村上 弘芳 (社)日韓經濟協會 専務理事

(2) 「韓日中堅經濟人交流促進團 派遣」

薛 元 鳳 大韓製糖(株) 會長

(3) 「韓國訪日輸出促進團・産業技術交流促進mission 派遣」

李 吉 鉉 (株)HOTEL 新羅 社長

(4) 「青少年交流韓日大學生 相互訪問 (共同提案)」

下出 道雄 (社)日韓經濟協會 理事・調查部長

韓國側 代表團 名單

順：職責順

區 分	姓 名			團 體 會社職位	團體 / 會社名
顧問	金	宇	中	顧問 會長	(社)韓日經濟協會 全國經濟人聯合會
"	金	在	哲	顧問 會長	(社)韓日經濟協會 (社)韓國貿易協會
"	朴	相	熙	顧問 會長	(社)韓日經濟協會 中小企業協同組合中央會
團 長	金	相	廈	會 長 會 長	(社)韓日經濟協會 大韓商工會議所
副團長	羅	應	燦	副會長 副會長	(社)韓日經濟協會 新韓銀行
"	朴	世	英	副會長 會 長	(社)韓日經濟協會 韓國PANTLAND(株)
"	朴	泳	逸	副會長 顧問	(社)韓日經濟協會 (株)美都波
"	徐	敏	錫	副會長 會 長	(社)韓日經濟協會 東一紡織(株)
"	薛	元	鳳	副會長 會 長	(社)韓日經濟協會 大韓製糖(株)
"	梁	在	奉	副會長 會 長	(社)韓日經濟協會 大信證券(株)
"	劉	常	夫	副會長 會 長	(社)韓日經濟協會 浦項綜合製鐵(株)
"	李	孟	基	副會長 會 長	(社)韓日經濟協會 大韓海運(株)

區 分	姓 名			團 體 會社職位	團體 / 會社名
副 團 長	李 RHEE	爽 SUK	熙 HI	副 會 長 相 談 役	(社)韓日經濟協會 (株)大字
"	趙 CHO	錫 SUCK	來 RAI	副 會 長 會 長	(社)韓日經濟協會 (株)曉星
"	崔 CHOI	用 YONG	權 KWON	副 會 長 會 長	(社)韓日經濟協會 三煥企業(株)
特別參加	姜 KANG	晉 JIN	求 KU	理 事 會 長	(財)韓日產業技術協力財團 三星電機(株)
"	李 LEE	春 CHOON	林 LIM	理 事 常任顧問	(財)韓日產業技術協力財團 現代綜合商事(株)
團 員	姜 KANG	信 SHIN	雨 WOO	會 長	(株)三一
"	姜 KANG	信 SHIN	浩 HO	會 長	東亞製藥(株)
"	金 KIM	德 DUK	吉 KIL	會 長	大永產業開發(株)
"	金 KIM	永 YOUNG	煥 HWAN	會 長	韓永建設產業(株)
"	金 KIM	周 JOO	仁 IN	會 長	城南商工會議所
"	金 KIM	鎭 JIN	汰 TAE	會 長	(社)韓國優良製品振興協會
"	金 KIM	炯 HYUNG	璧 BYUK	會 長	現代重工業(株)
"	金 KIM	泓 HONG	殖 SHIK	會 長	(株)金福酒
"	朴 PARK	承 SEUNG	復 BOK	會 長	譽王食品(株)
"	朴 PARK	容 YONG	晟 SUNG	會 長	OB麥酒(株)

區 分	姓 名	團 體 會社職位	團體 / 會社名
團 員	鄭 圭 寅 JHUNG KYU IN	會 長	京畿北部商工會議所
"	韓 京 洙 HAN KYUNG SOO	會 長	韓國機械工業協同組合 聯合會
"	曹 圭 河 CHO KYU HA	理 事 長	韓國科學文化財團
"	金 圭 七 KIM KYU CHIL	院 長	產業技術情報院
"	金 重 雄 KIM JOONG WOONG	院 長	現代經濟研究院
"	金 淳 KIM SOON	常 勤 副 會 長	韓國機械工業振興會
"	金 東 訓 KIM DONG HOON	常 勤 副 會 長	韓國CALS/EC協會
"	金 英 大 KIM YOUNG TAE	副 會 長	大成產業(株)
"	金 孝 成 KIM HYO SUNG	常 勤 副 會 長	大韓商工會議所
"	金 熙 勇 KIM HI YONG	副 會 長	碧山GROUP 東洋物産企業(株)
"	孫 炳 斗 SOHN BYUNG DOO	常 勤 副 會 長	全國經濟人聯合會
"	尹 鎭 YOON JIN	常 勤 副 會 長	韓國測定器機校正協會
"	李 源 浩 LEE WON HO	常 勤 副 會 長	中小企業協同組合中央會
"	李 平 宇 LEE PYOUNG WOU	副 會 長	世亞GROUP
"	崔 明 煥 CHOI MYUNG HWAN	副 會 長	興和工業(株)

區 分	姓 名			團 體 會社職位	團體 / 會社名
團 員	金 KIM	炅 KYUNG	元 WON	代表理事	三養化成(株)
"	金 KIM	道 DO	植 SIK	社 長	日野産業(株)
"	金 KIM	東 DONG	哲 CHUL	社 長	成門電子(株)
"	金 KIM		正 JUNG	社 長	HANWHA流通(株)
"	盧 NOH	泳 YOUNG	旭 WOOK	社 長	大韓送油管公社
"	朴 PARK	鍾 CHONG	憲 HUN	社 長	(株)三養제믹스
"	安 AHN	宗 CHONG	原 WON	社 長	(株)雙龍
"	廉 YUM	正 JUNG	泰 TAE	代表理事	雙龍情報通信
"	龍 YONG	乙 EARL	植 SHIK	代表理事	南德物産(株)
"	柳 YU	建 KUN	相 SANG	代表理事	(株)TS建設
"	李 LEE	吉 GIL	鉉 HYUN	社 長	(株)HOTEL新羅
"	李 LEE	秉 BYUNG	圭 KYU	代 表	(株)先技空壓機械
"	李 LEE	奉 BONG	珍 JIN	代 表	LEE ENGINEERING
"	李 LEE	潤 YOUN	鎬 HO	代 表	亞太企業諮問
"	李 LEE	漢 HAHN	久 KOO	社 長	大宇經濟研究所

區 分	姓 名			團 體 會社職位	團體 / 會社名
團 員	林 RIM	成 SUNG	澤 TACK	社 長	三南石油化學(株)
"	鄭 JUNG	奎 KYU	晃 HWANG	代 表	(株)M.E.C
"	趙 CHO	恒 HANG	九 KU	代表理事	三扶土建(株)
"	崔 CHOI		賢 HYUN	代表理事	(株)三德ENGINEERING
"	秋 CHOO	浩 HO	錫 SUK	社 長	大字重工業(株)
"	金 KIM	都 DO	亨 HYUNG	先 任 研究委員	産業研究院
"	李 LEE	昌 CHANG	在 JAE	先 任 研究委員	對外經濟政策研究院
"	金 KIM	善 SUN	祐 WOO	監 事	SEOUL言論財團
"	李 RHEE	鐘 CHONG	允 YUN	教 授	韓國外國語大學校
"	程 CHUNG		勳 HOON	教 授	仁川大學校
"	孫 SOHN	峻 JUN	源 WON	專務理事	東洋錫鋅(株)
"	申 SHIN	德 DUCK	鉉 HYUN	專務理事	(社)韓日經濟協會
"	鄭 CHUNG	淵 YOUN	廈 HA	專務理事	韓國熱處理工業協同組合
"	權 KWON	俊 JOHN	華 HWA	常務理事	(社)韓國貿易協會
"	裴 BAE	利 LEE	東 DONG	常務理事	全國經濟人聯合會

區 分	姓 名			團 體 會社職位	團體 / 會社名
團 員	尹 YOON	殷 EUN	赫 HYUK	常務理事	現代綜合商事(株)
"	鄭 JUNG	大 DEA	熙 HEE	常務理事	韓國生物產業協會
"	孫 SON	仲 SHIN	明 MYUNG	理 事	(株)豐山
"	李 LEE	孝 HYO	次 CHA	理 事	中小企業協同組合中央會
"	朴 PARK	忠 CHOONG	燮 SUP	振興本部長	韓國機械工業振興會
"	張 CHANG	國 KOOK	鉉 HYUN	國際本部長	全國經濟人聯合會
"	柳 RYU	鍾 JONG	佑 WOO	室 長	韓國染色技術研究所
"	金 KIM	道 DO	卿 KYOUNG	研究委員	LG經濟研究院
"	崔 CHOI	龍 YONG	石 SOK	責任研究員	對外經濟政策研究院
"	李 LEE	鍾 JOHNG	一 IHL	技術移轉部長	韓國產業技術評價院
"	申 SHIN	榮 YOUNG	敏 MIN	總務管理部長	(社)韓日經濟協會
"	許 HUN	南 NAM	整 JUNG	產業協力部長	(財)韓日產業技術協力財團
隨 行 員	趙 CHO	敬 KYUNG	東 DONG	常任監事	大永產業開發(株)
"	鄭 JUNG	成 SUNG	模 MO	處 長	中小企業協同組合中央會
"	金 KIM	章 JANG	漢 HAN	室 長	(社)韓國貿易協會

區 分	姓 名			團 體 會社職位	團體 / 會社名
隨 行 員	安 AHN	英 YOUNG	俊 JUN	部 長	(株)曉星
"	李 LEE	南 NAM	熙 HEE	部 長	中小企業協同組合中央會
"	鄭 CHUNG	盛 SUNG	基 KI	部 長	(社)韓國貿易協會
"	趙 CHO	成 SUNG	俊 JOON	部 長	大韓製糖(株)
"	蘇 SO	仁 IN	永 YOUNG	次 長	(株)三養社
"	李 LEE	相 SANG	台 TAE	次 長	現代綜合商事(株)
"	朴 PARK	鍾 JONG	甲 KAB	팀 長	大韓商工會議所
"	朴 PARK	勇 YONG	男 NAM	課 長	浦項綜合製鐵(株)
"	李 LEE	鍾 JONG	元 WON	課 長	(社)韓國貿易協會
"	張 CHANG	文 MOON	秀 SU	課 長	(株)三德ENGINEERING
"	許 HUH	宰 JEA	豪 HO	課 長	三星電機(株)
"	李 LEE	鎬 HO	信 SHIN	責任研究員	産業技術情報院
"	申 SHIN	亥 HAE	鎭 JIN	代 理	大韓商工會議所
"	任 IM	宰 JAE	賢 HYUN	代 理	全國經濟人聯合會
事 務 局	柳 RYU	奉 BONG	雨 WOO	交流協力팀長	(社)韓日經濟協會

區 分	姓 名			團 體 會社職位	團體 / 會社名
事 務 局	金 KIM	汝 YEO	種 JONG	技術協力員長	(財)韓日産業技術協力財團
"	宋 SONG	成 SUNG	基 GI	企劃調整員長	(財)韓日産業技術協力財團
"	趙 CHO	德 DUCK	卯 MYO	企劃調整次長	(社)韓日經濟協會
"	金 KIM	彰 CHANG	彬 BIN	總務管理課長	(財)韓日産業技術協力財團
"	金 KIM	正 JUNG	鎬 HO	産業協力課長	(社)韓日經濟協會
"	張 CHANG	震 JIN	旭 UK	技術協力課長	(財)韓日産業技術協力財團
"	朴 PARK	賢 HYUN	粲 CHAN	技術協力課長	(社)韓日經濟協會
"	金 KIM		瑋 TAK	交流協力課長	(財)韓日産業技術協力財團
"	劉 YOO	崇 SUNG	勳 HUN	總務管理代理	(財)韓日産業技術協力財團
"	沈 SHIM	揆 KYU	榛 JIN	交流協力代理	(社)韓日經濟協會
"	康 KANG	素 SO	貞 JEONG	企劃調整員	(財)韓日産業技術協力財團

日本側 代表團 名單

敬稱省略・順不同

団 長	藤 村 FUJIMURA	正 哉 MASAYA	(株)日韓経済協会会長 三菱マテリアル(株)取締役会長
副 団 長	梅 村 UMEMURA	正 司 SHOJI	(株)日韓経済協会副会長 日興証券(株)顧問
副 団 長	米 倉 YONEKURA	功 ISAO	(株)日韓経済協会副会長 伊藤忠商事(株)相談役
副 団 長	渡 里 WATARI	杉 一 郎 SUGIICHIRO	(株)日韓経済協会副会長 日韓産業一般委員会委員長 (株)東芝相談役
副 団 長	大 庭 OHBA	浩 HIROSHI	(株)日韓経済協会副会長 川崎重工業(株)取締役会長
顧 問	牛 尾 USHIO	治 朗 JIRO	(株)日韓経済協会顧問 (株)経済同友会代表幹事
顧 問	畠 山 HATAKEYAMA	襄 NOBORU	(株)日韓経済協会顧問 日本貿易振興会理事長
参 与	梅 田 UMEDA	善 司 ZENJI	(株)日韓経済協会参与 川崎重工業(株)相談役
相 談 役	赤 澤 AKAZAWA	璋 一 SHOICHI	(株)日韓経済協会相談役 (株)機械産業記念事業財団顧問

団 員	李 熙 健 LEE HEUI KEON	信用組合関西興銀会長
団 員	寄 木 正 敏 YORIKI MASATOSHI	月島機械(株)相談役
団 員	山 地 進 YAMAJI SUSUMU	日本航空(株)相談役
団 員	小 原 敏 人 KOHARA TOSHIHITO	日本ガイシ(株)代表取締役会長
団 員	秋 山 富 一 AKIYAMA TOMIICHI	住友商事(株)相談役
団 員	上 林 孝 典 KAMBAYASHI TAKASUKE	タキロン(株)相談役
団 員	三 好 正 也 MIYOSHI MASAYA	(社)経済団体連合会参与
団 員	内 田 公 三 UCHIDA KOZO	(社)経済団体連合会事務総長
団 員	麻 生 泰 ASO YUTAKA	麻生セメント(株)代表取締役社長
団 員	大 慈 彌 省 三 OJIMI SHOZO	日韓機械工業委員会委員長 石川島播磨重工業(株)代表取締役副社長
団 員	桜 井 健 司 SAKURAI TAKESHI	三菱商事(株)取締役副社長
団 員	飯 島 英 胤 IIJIMA HIDETANE	東レ(株)専務取締役
団 員	新 井 省 三 ARAI SHOZO	川鉄商事(株)専務取締役

団 員	飯 田 IIDA	邦 彦 KUNIHICO	丸紅(株)専務取締役
団 員	藤 本 FUJIMOTO	明 夫 AKIO	(株)関西経済連合会専務理事
団 員	小 島 KOJIMA	幹 生 MIKIO	日韓貿易投資委員会委員長 (株)日本貿易会専務理事
団 員	長 網 CHOAMI	良 晃 YOSHITERU	九州旅客鉄道(株)専務取締役
団 員	長 友 NAGATOMO	泰 明 YASUAKI	(株)九州・山口経済連合会常務理事
団 員	塩 見 SHIOMI	健 三 KENZO	川崎重工業(株)常務取締役
団 員	朝 来 野 ASAKINO	泰 宏 YASUHIRO	石川島播磨重工業(株)常務取締役
団 員	関 SEKI	哲 夫 TETSUO	新日本製鐵(株)常務取締役
団 員	木 村 KIMURA	伸 一 SHINICHI	三井物産(株)常務取締役韓国代表
団 員	清 水 SHIMIZU	紘 一 郎 KOICHIRO	(株)ホテルオークラ常務取締役 兼副総支配人
団 員	篠 原 SHINOHARA	徹 TORU	日本商工会議所常務理事
団 員	伊 藤 ITO	昭 AKIRA	立命館大学常務理事
団 員	竹 澤 TAKEZAWA	勝 三 郎 KATSUSABURO	オリエンタル酵母工業(株)特別顧問

団員	河合 英史 KAWAI HIDEMI	日本輸出入銀行理事
団員	狩野 英夫 KARINO HIDEO	日興証券(株)執行役員 事業法人営業担当兼海外担当
団員	松本 重敏 MATSUMOTO SHIGETOSHI	(株)日本貿易会国際・調査部長
団員	稲垣 宏一 INAGAKI KOICHI	(株)東芝国際関係部参与
団員	河上 継一 KAWAKAMI KEIICHI	(株)東京三菱銀行海外地域部長
団員	枝廣 泰俊 EDAHIRO YASUTAKA	(株)東京三菱銀行韓国総支配人 兼ソウル支店長
団員	金 容 泰 KIM YONG TAI	(株)東京三菱銀行韓国地区顧問
団員	柿坪 良造 KAKITSUBO RYOZO	(株)東京三菱銀行プサン支店長
団員	守野 友造 MORINO TOMOZO	日本貿易振興会主任調査研究員 兼事業推進主幹
団員	竹元 源信 TAKEMOTO MOTONOBU	トヨタ自動車(株)海外営業3部長
団員	高木 健二 TAKAGI KENJI	(株)日立製作所韓国支店韓国支店長
団員	中村 喜起 NAKAMURA YOSHIOKI	韓国三菱商事社長
団員	松本 明久 MATSUMOTO AKIHISA	伊藤忠商事(株)ソウル支店韓国代表

団 員	大 津	嘉 男	韓国丸紅(株)代表理事社長
	OHTSU	YOSHIO	
団 員	桑 野	博 僖	韓国住友商事(株)代表取締役社長
	KUWANO	HIROKI	
団 員	塚 原	弘 造	日商岩井(株)ソウル支店支店長
	TSUKAHARA	KOZO	
団 員	三 宅	通 方	ニチメン(株)ソウル支店長
	MIYAKE	MICHIMASA	
団 員	達 山	宜 弘	兼松(株)ソウル支店支店長
	TATSUYAMA	YOSHIHIRO	
団 員	百 野	恵 三	豊田通商(株)ソウル支店長
	MOMONO	KEIZO	
団 員	唐 沢	治 郎	(株)第一勧業銀行ソウル副支店長
	KARASAWA	JIRO	
団 員	岩 倉	知 明	日本商工会議所ソウル事務所所長
	IWAKURA	TOMOAKI	
団 員	大 石	新 太 郎	日本貿易振興会ソウルセンター所長
	OISHI	SHINTARO	
団 員	木 村	茂	日本貿易振興会秘書室長
	KIMURA	SHIGERU	
団 員	小 野 田	照 義	九州旅客鉄道(株)経営企画部企画課長
	ONODA	TERUYOSHI	
団 員	石 原	増 男	(財)日韓産業技術協力財団顧問
	ISHIHARA	MASUO	
団 員	西 村	和 義	(財)日韓産業技術協力財団専務理事
	NISHIMURA	KAZUYOSHI	

団 員	成 田 NARITA	洋 助 YOSUKE	(助)日韓産業技術協力財団常務理事・ 事務局長
団 員	村 上 MURAKAMI	弘 芳 HIROYOSHI	(社)日韓経済協会専務理事
団 員	井 野 INO	正 義 MASAYOSHI	(社)日韓経済協会理事・事務局長
団 員	下 出 SHIMODE	道 雄 MICHIO	(社)日韓経済協会理事・調査部長
特別参加	熊 谷 KUMAGAI	直 博 NAOHIRO	(助)日韓文化交流基金理事長
特別参加	菅 野 KANNO	利 徳 TOSHINORI	日韓中堅・中小企業委員会委員長 全国中小企業団体中央会専務理事
特別参加	海 老 名 EBINA	誠 MAKOTO	富士総合研究所(株)国際調査部長

(企業名五十音順)

随 員	木 下 KINOSHITA	英 夫 HIDEO	石川島播磨重工業(株)ソウル事務所長
随 員	古 川 FURUKAWA	和 雄 KAZUO	石川島播磨重工業(株)国際本部 業務部部長代理
随 員	後 藤 GOTO	次 幹 TSUGIMOTO	伊藤忠商事(株)海外・開発部 アジア・中国・大洋州室室長代行
随 員	大 原 OHARA	誠 一 SEIICHI	川崎重工業(株)ソウル事務所長
随 員	上 田 UEDA	功 ISAO	川崎重工業(株)秘書室課長

随 員	堅 山	良 宏	川崎重工業(株)秘書室
	TATEYAMA	YOSHIHIRO	
随 員	辻 井	重 信	川鉄商事(株)ソウル支店長
	TSUJII	SHIGENOBU	
随 員	田 嶋	典 明	(株)九州・山口経済連合会企画室 調査役
	TAJIMA	NORIAKI	
随 員	田 原	繁	(株)九州・山口経済連合会開発部 副調査役
	TAWARA	SHIGERU	
随 員	島 野	英 明	九州旅客鉄道(株)経営企画部主査
	SHIMANO	HIDEAKI	
随 員	太 田	誠	(株)経済団体連合会国際本部 アジア大洋州グループ員
	OTA	MAKOTO	
随 員	山 口	修 一	(株)経済同友会代表幹事秘書
	YAMAGUCHI	SHUICHI	
随 員	藤 田	徹	住友商事(株)対外企画部部長代理
	FUJITA	TORU	
随 員	藤 島	寛 仁	月島機械(株)プラント事業部プラント 営業室企画グループ課長
	FUJISHIMA	KANJI	
随 員	浅 見	俊 之	トヨタ自動車(株)海外営業3部 第2アジア室第7営業グループ課長
	ASAMI	TOSHIYUKI	
随 員	藤 原	正 樹	東レ(株)在韩国東レ代表
	FUJIWARA	MASAKI	
随 員	GEORGE	A I	日興証券(株)ソウル駐在員事務所所長
随 員	徳 田	光 治	日本ガイシ(株)電力事業本部海外営 業部第1課課長
	TOKUDA	KOUJI	

随 員	宇 佐 美 USAMI	喜 昭 YOSHIAKI	日本貿易振興会中国・北アジアチ ームリーダー代理
随 員	保 科 HOSHINA	聡 宏 TOSHIHIRO	日本貿易振興会ソウルセンター所員
随 員	篠 山 SHINOYAMA	善 行 ZENKOU	日本輸出入銀行営業第 1 部調査役
随 員	小 林 KOBAYASHI	啓 郎 KEIO	(株)ホテルオークラマーケティング 部国際セールス課課長代理
随 員	杉 田 SUGITA	欣 二 KINJI	丸紅(株)業務部部長補佐
随 員	小 林 KOBAYASHI	直 人 NAOHITO	韓国丸紅(株)理事企画室長
随 員	岩 佐 IWASA	洋 一 YOICHI	三井物産(株)業務部国際業務室課長
随 員	森 原 MORIHARA	康 夫 YASUO	韓国三菱商事業務部課長代理
随 員	青 盛 AOMORI	規 TADASU	三菱マテリアル(株)秘書室長
随 員	芝 SHIBA	恭 介 KYOSUKE	三菱マテリアル(株)総務部総務課長
随 員	金 子 KANEKO	左 紀 夫 SAKIO	韓国MMCエレクトロニクス(株) 専務取締役
随 員	上 妻 KOZUMA	亨 TORU	立命館大学東京オフィス副所長
随 員	日 置 HIOKI	正 治 MASAHARU	立命館大学理事長室課長
随 員	及 川 OIKAWA	勝 MASARU	全国中小企業団体中央会国際部副参事

事務局	安 藤 ANDO	悠 YU	(株)日韓経済協会業務部部长
事務局	向 井 MUKAI	林 太 郎 RINTARO	(株)日韓経済協会業務部部长
事務局	大 村 OMURA	摂 夫 SETSUO	(株)日韓経済協会業務部部长
事務局	保 坂 HOSAKA	昭 寿 AKITOSHI	(株)日韓経済協会調査部主任調査役
事務局	佐 藤 SATO	芳 孝 YOSHITAKA	(株)日韓経済協会調査部主任調査役
事務局	桂 KATSURA	真 治 SHINJI	(株)日韓経済協会調査部調査役
事務局	吉 野 YOSHINO	建 夫 TATEO	(株)日韓経済協会総務部长
事務局	伊 藤 ITO	美 千 代 MICHIO	(株)日韓経済協会総務部員
荻 野 OGINO	芳 毅 YOSHIKI		韓国ウシオ(株)代表理事／副社長
仙 石 SENGOKU	俊 男 TOSHIO		日製産業(株)ソウル支店長
椎 野 SHIINO	謙 次 KENJI		野村総合研究所ソウル支店長
姜 英 之 KANG YOUNG JI			東アジア総合研究所所長
田 島 TAJIMA	崇 男 TAKAO		三国R・K精密(株)代表理事社長

開 會 式

〈開會式〉

團 長 人 事



韓國側 代表團
團長 金相廈

저는 먼저 이곳 서울에서 開催되는 第31回 韓日・日韓經濟人會議에 參加해 주신 藤村正哉 團長님을 비롯한 日本 代表團 여러분께 歡迎의 말씀을 드립니다. 또한公私多忙하신 데도 不拘하고 參席하시어 자리를 빛내주신 小倉和夫 駐韓日本國特命全權大使님과 朴泰俊 自由民主聯合 總裁님을 비롯한 內外貴賓 여러분께도 感謝의 말씀을 드리는 바입니다.

지난 '69年 서울에서 처음 開催된 이래 올해로 31회를 맞이하게 된 韓日・日韓經濟人會議는 兩國의 經濟交流 擴大와 友好增進에 많은 寄與를 해 왔습니다. 특히今年 會議는 韓國과 日本 兩國이 經濟的으로 많은 어려움을 겪고 있는 時期에 開催되어 그 意義가 더욱 크다 하겠습니다.

尊敬하는 兩國의 代表團 여러분!

돌이켜보면 韓國과 日本은 오랜 期間 동안 經濟는 물론 政治・社會・文化 等 各方面에서 交流와 協力の 場을 넓혀 오고 있습니다. 特히 昨年 10月 金大中 大統領의 訪日과 今年 3月의 오부치 總理의 訪韓을 통해 韓日 두 나라는 그 어느 때 보다 敦篤한 同伴者關係로 발전해 나가고 있습니다. 그러나 昨今の 兩國 經濟 現實은 우리 經濟人들의 더 큰 奮發과 緊密한 協力體制를 要求하고 있습니다.

韓國의 경우 IMF事態라는 史上初有의 經濟危機에 直面하여 지난 1年餘 동안 뼈를 깎는 變化와 苦痛을 겪어야 했습니다. 最近 多少 回復의 氣味가 나타나고 는 있으나 여전히 많은 어려움에 놓여 있는 實情입니다. 온 國民이 하나가 되어 構造調整과 經濟再建에 渾身の 힘을 쏟고 있으나 그 어느 때 보다 國際社會, 특히 日本의 協助가 切實히 必要하다 하겠습니다. 이 자리를 빌어 그 동안 緊急資金 支援, 對韓投資 擴大 등을 통해 日本 政府와 財界가 보여 주셨던 誠意있는 協力에 대해 感謝의 말씀을 드리며 앞으로도 持續的인 聲援을 當付드리는 바입니다.

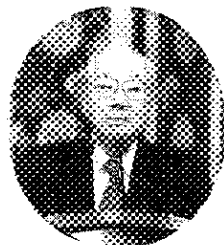
兩國 代表團 여러분!

비록 지금은 두 나라가 모두 어려운 處地에 놓여 있다고는 하나 한때 韓日 두 나라를 中心으로한 東北亞 經濟圈은 21世紀 世界經濟의 中心軸이 될 것으로 期待되었습니다. 이제 韓日 兩國이 하나가 되어 그러한 活力과 힘을 되살리기 위해 더욱 努力해 나가야겠으며, 이는 兩國의 繁榮은 물론 世界經濟 發展에도 커다란 寄與를 하게 되리라 믿습니다. 이러한 面에서 今番 31回 韓日・日韓經濟人會議는 우리의 現實을 冷徹히 點檢해보고 앞으로 나아갈 方向을 提示하는 뜻깊은 契機가 되리라 믿습니다.

끝으로 日本 代表團 여러분께서 서울에 머무시는 동안 不便함이 없이 有益하고 즐거운 日程이 되시기를 祈願하며, 다시 한번 參席해 주신 모든 분들께 感謝의 말씀을 드리는 바입니다.

〈開會式〉

團 長 人 事



日 本 側 代 表 團
團 長 藤 村 正 哉

제31회 일한·한일경제인회의의 개최에 즈음하여 일본측을 대표하여 한마디 인사 말씀을 올리겠습니다.

존경하는 金相廈 단장님을 비롯한 한국측 고문 여러분, 그리고 대표단원 여러분, 저희 일본측 대표단을 따뜻하고 성대하게 환영해 주셔서 대단히 감사합니다. 또한 내빈으로 참석해 주신 박태준 자유민주연합 총재님과 오구라 가즈오(小倉和夫) 주대한민국 일본국 특명전권대사님께서 多忙하신데도 불구하고 임석해 주셔서 크나큰 영광으로 생각합니다. 그리고 본 회의 개최를 위하여 진력해 주신 한일경제협회 임직원들 비롯한 관계자 여러분에게도 심심한 사의를 표하고자 합니다.

또한 우시오 지로(牛尾治朗) 경제동우회 대표간사를 비롯한 일본측 대표단 여러분께도 바쁘신 가운데 본 회의에 참석해 주신 점에 대해 진심으로 감사드립니다. 일한 양국 경제인들이 이처럼 한 자리에 모이는 것은 작년의 미야자키(宮崎) 회의 이래 1년만입니다. 오랜만에 여러분을 뵙게 되어 반가운 마음 금치 못하고, 또한 여러분들의 건강한 모습을 뵙 수 있음을 진심으로 기쁘게 생각합니다.

작년에는 일한 관계에 관련된 몇 가지 중요한 일이 있었습니다. 우선 2월 25일에는 제15대 문민·민선 대통령으로 金大中 대통령께서 취임하셨습니다. 4월

에는 미야자키에서 종래의 “일한·한일민간합동경제위원회 회의”가 제30회라는 기념할만한 해를 맞이한 것을 계기로 “일한·한일경제인회의”로 명칭을 바꾸어 개최되었습니다. 5월에는 일본측으로부터 관민 합동의 한국투자환경조사단이 파견되어 귀국의 경제 정세에 관해 여러모로 공부를 하고 돌아왔습니다.

문화 교류 면에서도 9월에는 한일문화교류정책자문위원회 주최 심포지엄이 이곳 서울에서 개최되었으며, 저도 일한문화교류기금의 회장 취임 인사차 서울을 방문했습니다. 그리고 10월에는 金大中 대통령 각하께서 취임 이후 처음으로 국빈으로서 일본을 방문하시고, 다음달 11월에는 가고시마에서 일한 양국의 총리를 비롯한 관계 각료들이 모여 간담을 나누고, 이어서 12월에는 제1회 일한관민합동 투자추진회의가 이 곳 서울에서 개최되는 등 양국간 교류의 확대, 긴밀화를 위한 커다란 전진이 있었던 한 해였습니다.

그 중에서도 특히 획기적인 일은 金大中 대통령 각하의 방일이었습니다. 10월 8일의 정상회담에서는 오부치 총리대신이 과거의 역사적 사실을 겸허하게 받아들이 최초로 文書로 반성과 사죄의 뜻을 밝혔고, 金大中 대통령께서는 이를 진지하게 받아들여 높게 평가하고 양국 관계의 미래지향적 발전을 위해 서로 노력할 것을 제창했습니다. 이로써 20세기에 일어난 역사 문제를 금세기 중에 해결하기 위한 기초가 다져졌다고 할 수 있는 것입니다.

그리고 양국 정상은 21세기를 향하여 새로운 파트너십 구축을 지향할 것임을 공동으로 선언하고, 그 실현을 위한 광범위하고 구체적인 행동계획도 밝혔습니다. 이 행동계획에 입각하여 이미 폭 넓은 분야에서 일한 공동작업이 추진되고 있음은 여러분도 아시는 바와 같습니다. 지난 달 말에는 오부치 총리가 총리 취임 후 처음으로 한국을 방문하여 金大中 대통령과 이 공동선언과 행동계획의 진척 상황을 점검하고, 앞으로 21세기를 향하여 미래지향적인 새로운 일한 파트너십을 가일층 견고한 것으로 만들어 나가기로 다짐한 것은 실로 기쁜 일입니다.

저는 올해 2월에 일한협력위원회 부회장으로서 회장인 나카소네 전총리를 수행하여 이 곳 서울을 방문하고 청와대로 金大中 대통령 각하를 예방드릴 기회를 얻었습니다. 그 날은 마침 1년 전에 대통령 취임식을 거행한 같은 날짜인 2월 25일이었습니다. 1년 전과 마찬가지로 하늘에 구름 한 점 없는 맑고 아름다운 날

이었습니다. 그러나 저는 1년 전과는 다른 분위기를 피부로 느꼈습니다. 거리는 활기를 되찾았고, 국민들의 표정은 밝고 자신감이 넘쳤으며 자동차의 흐름도 1년 전과는 달라진 것 같았습니다. 1년 전은 마침 금융위기가 한창 심화되었을 때였고, IMF 관리체제 하에 들어간 직후였던 관계로 기대감과 불안감이 뒤섞인 일종의 긴장감이 감돌고 있었으며, 시내를 오가는 사람들의 표정에서도 또 자동차의 흐름에서도 어딘가 모르게 이런 느낌이 느껴졌습니다.

그러나 그 후에 귀국에서는 금융 개편 등 제반 개혁이 급속도로 추진되어 빅딜(재벌간 기업 교환)로 대표되는 경제계의 경영 구조개혁도 과감하게 실시되고 있다고 듣고 있습니다. 이러한 관민 일체를 이룬 거국적인 노력이 주효하여 무역수지와 경상수지는 흑자 폭이 확대되고, 그 밖의 경제지표도 개선되고 있어 외국의 투자기관에 의한 신용평가도 상향 수정되었다고 합니다. 그리고 한국경제에 밝은 전망이 보이기 시작하여 '99년도는 GDP도 흑자로 전환될 전망이라고 하니 기쁘기 그지없습니다.

한편 일본측의 움직임으로 눈을 돌리면 거품경제 붕괴의 영향은 심각하여 일본 경제는 장기화되는 불황 속에서 고전을 계속하고 있는 실정입니다. 지난 3월 12일에 일본의 경제기획청이 발표한 '98년 10~12월기(제3/4분기)의 국내총생산(GDP)은 전년대비 0.8%, 연율 환산 3.2%로 각각 감소되어 5分期 연속 마이너스 성장을 기록, 전후 최장 기록을 갱신했다고 전해집니다. 이는 공공투자는 크게 늘어났으나 개인 소비와 설비 투자 등 민간 수요가 모두 마이너스여서 국내 수요를 지탱하기에는 역부족이었기 때문이라고 설명되고 있습니다. 그러나 사카이야 다이치(堺屋太一) 경제기획청 장관도 말했듯이 경제 침체의 하강세는 멈춘 듯한 감이 있으며, “경제 회복의 태동이 느껴진다”는 견해도 나타나고 있습니다.

또한 3월 16일에 발표된 3월의 월례 經濟報告에서는 여전히 어려운 상황이라는 시각에는 변화가 없으나 “변화의 태동”이라는 표현으로부터 “최근 하강세가 멈춰가고 있다”라는 표현으로 상향 수정되어 발표된 바가 있었습니다. 3월 말에는 15개 주요 시중은행에 대해 7조엔 이상에 달하는 공적 자금을 투입하여 금융 안정화를 도모했습니다. 경기대책에 관해서도 소득세, 법인세, 주택세 감면을 포함한 政策 減稅까지 실시하기로 했으며, 총액 27조엔에 달하는 경기부양대책이 실시됨에 따라 작년 10~12월이 바닥이었다는 견해가 강해지고 있습니다.

이처럼 어려운 경제상황을 타파하고자 정계, 관계, 재계 등 모든 분야에서 다양한 대책을 입안하여 경제 회복을 위한 최대한의 노력을 경주하고 있습니다. 우리 경제인들에게는 각 기업 차원에서 수익 개선을 위한 자구노력을 과감하게 추진할 것이 요구되고 있으며, 현재 기업의 존립을 걸고 과감한 구조개혁, 리스트라를 추진 중입니다. 이 구조 개혁은 당연히 아픔을 수반하는 힘든 작업이 되겠습니다만, 생존과 장래 발전을 걸고 대담하게 실시해야 한다는 각오로 임하고 있습니다.

이렇게 귀국과 일본이 서로 협력하고 도우면서 경제 회복을 이루어, 지난 번 양국 정상의 공동선언에도 있었듯이 아시아 태평양지역 나아가서 국제사회 전체의 평화와 번영을 위해 21세기를 향한 새로운 일한 파트너십을 공동 목표로 구축하여 발전시켜 나갑시다. 특히 양국 경제인은 그 리더 역할을 수행할 의무가 있다고 생각합니다.

일본 속담에 “겨울이 왔으니 봄이 멀지 않을 것이다”라는 말이 있습니다. 이제 추운 겨울이 지나고 이곳 서울에도, 한국에도, 또 일본에도 봄이 찾아와 지금 벚꽃이 한창 아름다운 때입니다. 金大中 대통령 각하의 저서 “인동초” 중에 인동초 이야기가 나옵니다. 인동초는 일본에서도 스리카즈라라는 이름으로 친숙합니다만, 가을에 빨간 열매를 달고 겨울이 되면 눈 속에서 한층 더 아름다운 모습을 간직한 채 혹독한 겨울 추위를 견뎌냅니다. 인동초의 견디는 힘의 원천은 머지않아 봄이 온다는 믿음에 있다, 그리고 곧 다가올 봄의 도래를 믿으며 준비를 게을리 하지 않는 것이 중요하다고 대통령께서는 말씀하셨습니다.

일한 양국 경제를 둘러싼 환경은 대단히 열악합니다만, 우리들도 인동초처럼 봄의 도래를 믿으며 각기 분야에서 최선을 다함으로써 이제 큰 景氣 회복의 꽃을 피울 수 있기를 염원하고 있습니다. 그런 의미에서 본 회의는 상호이해를 심화시키고 양국 발전이라는 미래를 논하며 꿈을 주고받는 회의이기도 합니다. 참석자 여러분께서 솔직하고 전향적인 의견 교환을 활발하게 전개하여 목전에 다가온 21세기를 향하여 일한 양국의 우호 증진과 협력체제 구축을 위한 많은 성과를 낼 수 있도록 기원 드리면서 저의 인사말로 가름하겠습니다. 경청해 주셔서 감사합니다.

〈開會式〉

來賓祝辭



自由民主聯合
總裁 朴泰俊

후지무라 마사야 日韓經濟協會 會長, 아카자와 쇼이치 相談役을 비롯한 日本
代表團 여러분! 金相廈 韓日經濟協會 會長을 비롯한 韓國側 代表團 여러분!

오늘 第31回 韓日經濟人會議에 參席하여 祝賀의 말씀을 드리게 된 것을 기쁘게
생각합니다.

저는 1981년 2월에 出帆한 韓日經濟協會의 責任을 맡아 10년 가까이 여러분과
함께 두 나라간의 經濟協力을 위해 일하다가, 자리를 떠난지 9년만에 政治人의
資格으로 다시 여러분 앞에 서게 되니 깊은 感懷를 느끼게 됩니다.

1969년 두 나라의 뜻있는 經濟界 先輩들에 의해 韓日・日韓民間合同經濟委員會
가 시작된 이래 오늘에 이르기까지 本 會議가 兩國間の 友好協力 關係를 深化
시키는 中心的인 機構로 成長해 온 점을 높이 評價하면서 여러분 모두에게 敬意
를 표합니다.

지난 1997년말 韓國은 國家不渡의 深刻한 外換危機에 直面하였습니다만, 日本
역시 景氣沈滯의 어려움을 겪고 있는 가운데서도 迅速하고도 友好的인 支援을
통해 韓國이 危機를 벗어날 수 있도록 도움을 주셨습니다.

아직樂觀하기에는 이르지만, 지난 1년에 걸친 韓國 國民과 政府의 團結된 努力을 바탕으로 이제 韓國經濟는 危機를 克服하고 서서히 安定의 方向으로 나아가고 있습니다.

여기에는 日本政府와 日本 經濟界를 主導하고 계신 여러분의 積極的인 聲援이 큰 힘이 되었다고 믿으며 이 자리를 빌어 여러분에게 感謝의 말씀을 드립니다.

친애하는 兩國 代表團 여러분!

1965년 兩國國交가 正常화된 이래 두 나라 關係는 政治, 經濟, 社會, 文化의 모든 部門에 걸쳐 持續적으로 發展해 왔습니다만, 두 나라 關係를 얘기할 때면 언제나 “가깝고도 먼 나라”라는 바람직스럽지 못한 修飾語가 붙어 다녔습니다.

그러나 지난 해 가을, 韓國의 金大中 大統領이 日本을 公式訪問하여 오부치 首相과 ‘21세기를 향한 새로운 파트너십’ 構築에 合意함으로써 두 나라 關係가 眞正으로 “가깝고도 가까운 나라”로 발전할 수 있는 바탕이 마련되었다고 생각합니다.

흔히 21세기를 가리켜 ‘아시아·太平洋의 時代’라고 얘기합니다.

이처럼 韓日 두 나라가 힘을 합해 새로운 世紀를 主導해 나가야 할 歷史的인 고비에서 兩國關係가 해묵은 宿題를 풀고 未來指向的인 새로운 協力の 발판을 構築하게 된 것은 뜻깊은 일이라 하겠습니다.

앞으로 兩國 사이에 眞正한 協力關係 構築을 위한 多樣的인 프로그램이 展開될 것입니다.

그러나 兩國間 協力の 幅을 넓히고 이를 質적으로 深化시키는 一次的인 役割은 바로 經濟人의 몫이라는 점에서 이번 第31回 韓日經濟人會議에 거는 韓日 兩國民의 期待는 어느 때보다도 크다고 하겠습니다.

존경하는 兩國 經濟界 指導者 여러분!

世界的 不況, 특히 아시아의 經濟를 主導하고 있는 日本經濟의 回復이 不透明하고, 中國의 景氣가 沈滯되어 있는 상황은 韓國의 經濟回復과 아시아 經濟의 正常化에 적지 않은 影響을 주고 있습니다.

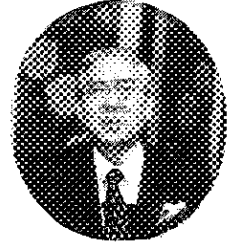
이러한 時期에 이번 第31回 韓日・日韓經濟人會議에 參席하신 여러분께서는 虛心坦懷하고도 眞摯한 討論을 통해 본 會議가 親睦圖謀를 넘어서서, 問題를 解決하는 次元높은 會議로 發展할 수 있도록 努力해 주시기를 간곡히 부탁드립니다.

끝으로 이번 會議에 참석하신 日本 代表團 여러분의 모든 日程이 韓國에 대한 愉快한 記憶들을 간직할 수 있는 機會가 되기를 바라면서 이상으로 祝辭에 하고자 합니다.

대단히 감사합니다.

〈開會式〉

來賓祝辭



駐韓日本國特命全權大使
小倉 和夫

제31회 일한·한일경제인회의의 개최에 즈음하여 인사말씀을 올립니다. 제가 한국에 부임한지 약 1년반이 지났습니다. 그간 일본경제도 한국경제도 성질의 차이는 있으나 모두 상당한 어려움을 겪어 왔습니다.

정부도 산업계에 계시는 여러분도 그러한 어려움을 극복하기 위해 절실한 노력을 경주해 왔습니다. 말하자면 과거 1년간은 경제의 해였다고 말씀드릴 수가 있습니다.

다행히도 여러 지표를 보면 한국경제의 침체상황은 최악의 상황을 탈피하여 이제 상승기류를 타기 시작한 것 같습니다. 또한 금융, 노동, 산업 등 각 분야의 구조개혁도 거의 순조롭게 진행되고 있는 것처럼 느껴집니다. 이러한 경제회복과 개혁의 진전은 이 자리에 계시는 한국경제계 여러분의 보퉁이 아닌 노력의 결과라고 생각합니다. 이 자리를 빌어서 경의와 축하의 뜻을 표하고자 합니다.

과거 1년간을 보면 일한관계에도 큰 진전이 있었습니다. 작년 10월의 金大中 대통령 방일은 일한관계를 더욱 높은 차원으로 발전시키게 한 획기적인 것이었습니다. 양국은 과거의 문제에 일단 종지부를 찍고 21세기를 향한 새 파트너십을 구축하였습니다. 金大中 대통령의 진지하신 태도는 일본국민의 한국에 대한 인식을 극적으로 변화시켰습니다.

이러한 파트너십은 경제면에서 가장 잘 나타나 있습니다.

먼저 對韓투자 촉진에 관해 큰 진전이 있었습니다. 작년 4월에는 서울재판클럽에 의해 「외국인직접투자의 애로요인 및 건의사항」이 발표되어 이를 출발점으로 해서 작년 12월에는 「관민합동투자촉진협의회」가 개최되었습니다. 이로 인해 지금까지 일본계 기업이 느껴 왔던 여러 가지 투자장벽을 본격적으로 의논할 수 있는 장이 마련되기에 이르렀습니다. 한국에 대한 투자를 촉진시키기 위해서는 무엇보다 먼저 한국을 잘 이해하고 애착을 가지고 있는 일본의 對韓진출기업이나 주재원의 의견을 들을 필요가 있습니다. 한국 정부와 산업계 여러분이 적극적인 반응을 나타내 주신데 대해 감사를 드립니다.

최근에는 또 하나의 큰 진전이 있었습니다. 그것은 小淵 총리의 방한의 성과로서 나온 「일한 경제 Agenda 21」입니다. 「일한 경제 Agenda 21」은 투자협정교섭의 촉진, 기준·인증 분야에서의 공동작업, 지적재산권 분야에서의 협력, WTO 차기교섭에 향한 협력 등을 수행하려는 것입니다.

지난 1년 사이에 일어난 제 3의 진전은 장기적 구상으로서의 일한자유무역협정에 관한 구상입니다. 이제 일본의 JETRO·아시아연구소와 한국의 KIEP(대외경제정책연구원)이 공동으로 「21세기 일한경제관계 연구회」를 발족시켜 일한자유무역협정을 포함한 장래전망에 대해 연구를 시작했습니다.

이렇게 지난 1년간에 걸쳐서 큰 진전이 있는 후인만큼 이번 일한·한일경제인회의의 개최는 실로 시의적절하며 의의 깊은 것이라 할 수 있습니다. 일한간의 경제관계가 가일층 심화될 것이 불가결합니다. 그리고 그것을 실현시킬 수 있는 사람은 바로 이 자리에 모이신 여러분 외에는 없습니다.

이번 회의를 계기로 여러분께서 일한경제관계를 가일층 폭넓고 깊은 것으로 만들기 위해 여러 가지 아이디어를 내시고, 또한 양국관계에 대해 제언을 해주시도록 부탁드립니다. 일본 정부로서는 그러한 여러분께서요망이나 조언에 대해 가능한 한 지지와 협력을 해 나가고자 생각하고 있습니다.

마지막으로, 향후의 일한경제관계의 가일층의 발전과 이 자리에 참석하신 여러분의 건승을 기원하면서 인사로 가름하고자 합니다.

〈開會式〉

顧問人事



全國經濟人聯合會
會長 金宇中

올해로 서른 한 번재를 맞는 本 회의는 양국 기업의 공통 관심사항을 협의하고 상호이해를 돈독히 하는 대화의 장으로서 중요한 역할을 해왔습니다.

최근 일본경제가 경기침체를 벗어나기 위해 부단한 노력을 경주하고 있는 것처럼 한국경제 또한 모든 경제주체의 단합된 의지와 노력으로 경제회생의 기틀을 마련하고 있습니다.

한국은 지난해 수출확대에 총력을 기울인 결과, 400억불이라는 사상 초유의 경상수지 흑자를 기록했으며, 금년 3월말 현재 외환보유고도 545억불을 상회하게 되었고 연초부터 금년 3월말까지 71억불의 경상수지 흑자를 기록하고 있습니다. 또한 환율과 금리, 물가 등 제반 경제지표도 하향 안정세가 지속되고 있습니다. 이 같은 성과에 힘입어 한국은 세계 각국의 금융권과 평가기관으로부터 아시아국가 中 가장 빠른 속도로 경제위기를 극복하고 있는 나라로 인식되고 있기도 합니다.

그러나 한국경제를 둘러싼 외부환경은 아직도 불안정한 모습을 보여주고 있습니다. 특히 유럽과 중남미, 그리고 아시아 각국에서 나타나고 있는 경제적 침체가 아직도 세계경제에 폭넓은 영향을 주고 있다는 점에서 한국은 앞으로도 위기극복을 위한 지속적인 노력이 필요한 상태입니다.

한국기업이 폭넓은 구조조정을 추진하려는 이유도 이러한 위기를 새로운 도약의 기회로 삼기 위해서입니다. 한국기업도 대내외 환경변화에 부단히 적응하면서 기업활동을 영위해온 지 어느덧 30년을 맞고 있습니다. 기업활동의 한 세대로 일컬어지는 30년은 보다 근본적인 혁신이 필요한 시점이란 의미를 지닙니다. 이러한 점에서 지난 30년 동안의 경제발전과 기업활동의 역사는 90년대 들어 자발적인 구조조정의 계기를 마련해 주었습니다. 그리고 여기에 IMF 체제라는 외부 환경변화가 더해짐에 따라 지난해부터 각 기업들은 구조조정의 속도를 한층 높여가고 있습니다.

이러한 성과와 노력들을 기반으로 현재 진행되고 있는 금융, 대기업, 정부 및 공기업, 노사부문 등 4대 부문의 구조개혁이 완결되면 2000년 이후 한국경제는 더욱 내실 있는 선진경제체제의 면모를 갖추게 될 것입니다.

한편 한일 양국의 관계를 한 차원 높이기 위해서는 최근 양국 정상의 상호 교환방문을 계기로 구체화된 「미래지향적」인 한일관계를 정립해나가는 데에 많은 노력을 기울여야 할 것입니다.

올 들어 양국은 정상회담을 통해 「자유무역협정 체결」의 전초단계로서 「한일 투자협정(BIT)의 연내 합의」를 도출함으로써, 세계화시대를 함께 개척하는 「동반자」의 위상을 더욱 확고히 다지게 되었습니다.

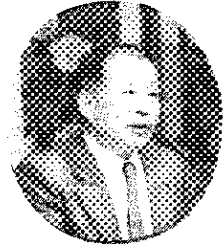
이러한 진전과 함께 양국의 보다 원대한 발전을 위해서는 아시아 전체에서의 역할에 대한 적극적인 고려도 필요합니다. 현재 아시아 경제의 어려운 국면은 양국의 발전에도 큰 장애가 된다는 점에서 일본은 앞으로 적극적인 리더십을 보여줄 필요가 있다고 생각합니다. 이를 통해 아시아 경제가 새로운 활력을 얻게 된다면 그것은 일본경제의 활성화에도 좋은 계기를 마련해 줄 수 있을 것입니다.

세기의 전환을 목전에 두고 열리는 이번 회의가 양국기업의 발전적 협력은 물론, 아시아 전체의 경제회생을 위한 계기가 될 수 있도록 구체적이고 건설적인 의견 개진이 이뤄지기를 기대합니다.

한일·일한 경제인회의의 무궁한 발전과 양측 대표 여러분의 건승을 기원합니다. 감사합니다.

〈開會式〉

顧問人事



日本貿易振興會
理事長 畠山 襄

방금 소개받은 JETRO의 하타케야마(畠山)입니다.

내빈 여러분, 그리고 일한 양국 대표 여러분, 일본과 한국의 경제인이 한자리에 모이는 본 회의가 올해로 31회를 맞이하고 오늘 일한·한일경제인회의가 이렇듯 성대하게 개최됨을 진심으로 기쁘게 생각합니다. 이와 같은 회의에서 일본측 고문으로서 인사를 드리는 大任을 맡게 되었음을 커다란 영광으로 생각하는 바입니다.

먼저 작년 10월에 김대중 대통령 각하께서 국민으로 방일하신 결과, 일한 양국 정상을 위시하여 국민들에게 이르기까지 21세기를 향해 일한 양국의 굳건한 발전을 지향하자는 機運이 과거에 유례가 없을 정도로 힘차게 솟아났습니다. 貴國에서는 정부를 비롯한 경제계에서도 이러한 방향을 향하여 온갖 지혜를 모으고 일본과 한국의 공동 이익을 추구하기 위한 진지한 노력을 경주하고 계시는 것으로 알고 있습니다. 일본에서도 金大中 대통령 각하의 의향을 받들어 새로운 시대에 걸맞는 양국의 이상적 모습을 최선을 다하여 모색하고 있는 바입니다.

작년 11월 하순에는 일한 양국의 총리를 비롯한 각료들이 가고시마(鹿兒島)에 모여 양국의 관계 강화를 위한 간담회를 개최했습니다. 이 회의에서 투자협정에

관한 예비협상을 시작하자는데 합의하고 오부치(小淵) 총리의 귀국 방문에 따라 本 협상이 시작되었다고 듣고 있습니다.

JETRO로서도 이러한 커다란 조류 속에서 일한 양국의 경제, 무역, 투자, 기술 교류의 확대를 위하여 미약하나마 최대한의 노력을 경주하고 있습니다. 새로운 움직임에 대응한 신규사업에 힘쓰고 있습니다.

요사노 가오루(与謝野 馨) 통산대신, 후지무라 마사야(藤村 正哉) 일한경제협회 회장님과 함께 저는 작년 12월 서울에서 개최된 일한관민합동투자촉진협의회에 참석했습니다. 동 회의에서는 투자촉진을 위한 협의회의 상설화, JETRO 및 KOTRA에 의한 “투자상담창구” 설치, “일한투자촉진리포트” 작성 등이 결정된 바 있습니다.

또 본 회의에서는 JETRO가 스타트시킨 T.T.P.P.(Technology Tie-Up Promotion Program)에 대하여 요사노 통산성 대신이 그 중요성에 관한 관심을 환기시켰으며, 또 김은상 KOTRA 사장님께서서는 이 프로그램에 관련된 협력을 요청하셨습니다.

T.T.P.P.에 관하여 간단하게 설명을 올리자면, 일본 기업 및 외국 기업을 대상으로 하며, 기술을 제공하고자 하는 일본 및 외국 기업과 반대로 기술을 제공받 고자 하는 일본 및 외국 기업이라는 네 가지 입장의 모든 기업의 리스트를 컴퓨터에 등록해 놓고 각각 상대를 찾는 시스템입니다. 이 시스템은 일방 통행이 아니라 쌍방향에서 상호간의 기술교류를 도모할 수 있게끔 되어 있으며 올해 1월에 스타트시킨 것입니다. 이 시스템은 일본 국내뿐 아니라 그 미러 사이트를 뉴욕 과 런던, 그리고 귀국 서울에도 설치하고 한국 내에서도 직접 관련 정보를 입수 할 수 있게 했습니다.

그밖에 상세한 말씀은 생략하겠습디만, JETRO의 서울센터는 한국으로부터의 투자유치사절단 수용 협력, 역(逆)견본시 개최, 구체적인 대한투자계획을 갖는 일본 기업에 대한 지원사업(JOIN사업), 해외 각국의 지방, 지역과 일본 지방과의 산업교류를 촉진하기 위한 Local to Local사업 등을 일본으로부터 파견된 해외투자 어드바이저의 자문 등을 활용하면서 전개하고 있습니다.

한편 무역 면에서는 WTO 각료회의가 11월말부터 12월초에 미국 시애틀에서 개최되어 2000년 이후의 협상 관련 논의가 시작될 예정입니다. 현재 WTO의 골격을 이루고 있는 것은 UR협상입니다만, 동 협상이 1986년에 시작된 이래 오늘날에 이르기까지의 기간 동안 세계 정세는 극적으로 변화하였습니다. 냉전의 종식과 정보화 사회의 급속한 발전, 아시아에서의 외환 위기 발생, 유로 통화의 탄생, 그리고 자유무역협정의 확산 등이며, 앞으로의 WTO협상에서는 이들 요소를 적절하고 확실하게 반영시켜야 합니다.

그 중에서 마지막의 자유무역협정과 관련하여 말씀을 드리면, 세계의 주요 무역국 중 상위 30개 국가 및 지역 중에서 자유무역협정(관세동맹을 포함함)에 가입하지 않은 것은 일본과 한국, 중국, 대만뿐입니다. 일본은 지금까지 자유무역협정 가입 권유를 받아도 가입하지 않는다는 입장이었습니다. 이는 다음과 같은 생각이 있었기 때문이 아니었던가 싶습니다.

자유무역지구는 “자유”라고는 하지만 그것은 회원국들만의 “자유”이며, 비회원국에 대해서는 차별이 되는 측면이 있습니다. 따라서 이는 적어도 GATT 1조의 자유무차별원칙의 정신에 위배되는 것입니다. 그러므로 일본은 자유무역협정과 같은 지역주의(regionalism), 쌍무주의가 아닌 WTO 다자간주의를 실행한다는 주의였던 것입니다. 또한 말씀 드릴 나위도 없습디만, APEC은 자율적 지역협력을 통해 자유화를 추진하자는 것으로 자유무역협정은 아닙니다. 이러한 상황에서 작년에 金大中 대통령각하의 訪日이 이루어졌던 것입니다. 그리고 그 역사적 대성공의 열기가 채 가시기 전에 한국정부는 일본정부에 대하여 “일한 경제관계를 긴밀화하기 위해 공부를 하자, 공부할 내용 중에 자유무역협정 문제도 포함시키자”는 제안을 하였습니다. 이 문제에 관한 저의 개인적인 생각은 다음과 같습니다.

WTO에서는 여러분도 아시는 바와 같이 GATT 24조에 의거하여 자유무역협정을 일정한 기준에 따라 심사한 후에 승인하고 있습니다. 그러나 주요 무역국 중에서 자유무역협정을 체결한 나라와 그렇지 않은 나라의 구성비가 26대 4인 현 상태에서는 비율 면에서 보더라도 한국, 일본의 自由와 無差別을 主唱하는 “正論” 혹은 理想論이 통용될 수는 없습니다. 그리고 자유무역협정 실시국들이 자유무역협정을 통하여 근린 국가로 한정되어 있다고는 하되 수입을 완전히 자유화

함으로써 이를 WTO로까지 점차 확대시켜 나가겠다는 논리도 일리가 있다는 생각이 듭니다.

일본 정부가 이상과 같이 생각했는지의 여부는 모르겠습니다만, 어쨌든 한국의 제안을 받아들인 일본 정부의 요청에 따라 일본무역진흥회(JETRO)의 아시아 경제연구소 내에 “21세기 일한 긴밀화 연구회”를 설치하고, 자유무역협정을 포함, 양국 경제를 긴밀화하기 위한 조사 및 연구를 하게 되었습니다. 또 귀국에서도 대외경제정책연구원(KIEP)이 관련 조사와 연구를 하신다고 듣고 있습니다.

말씀드릴 나위도 없습니다만, 세계의 무역진흥기관 중에서 JETRO의 최유력 파트너의 하나인 KOTRA와의 협력관계도 종전 이상으로 긴밀해 지고 있으며, 상당수의 사업을 함께 스크램을 짜고 좋은 팀워크를 이루면서 실시하고 있습니다.

일한 양국의 협력증진을 위하여 새롭게 힘찬 기운이 솟아나고 있는 이 시기에 JETRO가 실시하고 있는 각종 신규사업에 관하여 소개 드렸습니다. 아시아 경제의 활성화를 위해서 일한 양국이 수행하는 역할은 적지 않습니다. JETRO는 그 중의 극히 일부를 수행하고 있는데 불과합니다만, 성심 성의껏 노력을 경주하고 있습니다.

저희들의 시도가 일한 양국의 관민 연계를 한층 더 진전시키고, 광범위하고 밀접한 협력관계를 구축하는데 도움이 된다면 더 이상 기쁜 일이 없겠습니다.

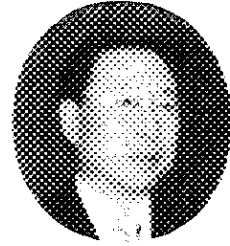
본 경제인회회가 많은 결실을 거두고, 앞으로의 일한 경제관계, 나아가서 아시아 경제의 가일층의 발전에 이바지하기를 기원드리면서 저의 인사를 마치겠습니다.

감사합니다.

基 調 演 說

〈基調演說〉

21世紀 아시아의 비전과 韓日 協力



(株) 曉 星
會長 趙 錫 來

존경하는 후지무라 마사야 회장님, 김상하 회장님, 그리고 한일 양국을 대표하는 경제계 지도자 여러분. 저는 오늘 이 자리에서 「21세기 아시아의 비전과 한일 협력」이라는 주제로 말씀드리게 된 것을 매우 뜻깊고도 영광스럽게 생각합니다.

20세기 세계경제와 아시아

올해는 1000년대의 마지막 해이며, 20세기를 마감하는 의미 있는 한 해입니다. 이러한 시점에서 양국의 경제인들이 지난 한 세기를 되돌아보는 것도 의의 있는 일이라고 생각합니다.

경제적으로 20세기는 영국의 주도권이 쇠퇴하고, 미국의 주도권이 확립된 세기였습니다. 미국은 경제공황을 극복하고 1, 2차 세계대전을 거치면서 세계 최대 경제대국의 위치를 확고히 하였습니다. 미국의 달러가 영국의 파운드를 대신하여 기축통화가 되었고, 미국경제의 움직임은 세계경제 전체에 막대한 영향을 미치게 되었습니다.

한편으로 20세기 후반에는 아시아 지역의 경제적 역동성이 증가하여 세계경제 성장의 견인차 역할을 하기 시작하였습니다. 일본에 이어 네 마리의 용으로 불리우는 한국, 대만, 홍콩, 싱가포르가 고성장을 거듭하였고, 말레이시아, 인도네시아, 태국, 중국 등도 이에 가세하였습니다. 그 결과 세계에서 아시아 국가들의 위상이 크게 높아졌고, 다가오는 21세기에는 아시아가 세계의 주역으로 떠오를 것이라는 희망찬 기대를 모으기도 했습니다. 그러나 '97년에 시작된 금융위기로 인해 이제 아시아는 새로운 도약이나 아니면 성장신화의 종말이나 하는 기로에서 21세기를 맞이하고 있습니다.

21세기 세계의 조망 : 세계화와 지역주의

21세기를 눈앞에 둔 오늘날, 세계는 자유시장경제체제 하에서 세계화(Globalization)와 지역주의(Regionalism)가 가장 중요한 흐름으로 나타나고 있습니다. 세계화가 자유경쟁을 추구하는 한편, 지역주의는 교역확대의 혜택이 역내 국가에만 적용되고 역외 국가에게는 상대적인 불이익을 안겨줌으로써 진정한 세계화와는 맞지 않는 면도 가지고 있습니다. 서로 상반되어 보이는 이 두 가지 흐름은 각국의 이해관계에 따라 동시에 추진되고 있습니다.

현재 지역화가 가장 많이 진전된 곳은 유럽입니다. 유럽연합의 결성으로 역내에서는 상품과 자원의 이동, 그리고 모든 경제활동이 보다 자유로워졌고 화폐도 단일통화로 전환되고 있습니다. 체코, 폴란드, 헝가리 등 동유럽 국가들도 향후 유럽통합에 참여할 것으로 보입니다. 한편, 미주지역에서는 북미의 NAFTA, 남미의 MERCOSUR가 결성되었습니다.

또한 이들 지역경제협력체들은 상호연대를 통해 그 세력을 더욱 확장하려는 경향도 보이고 있습니다. EU와 NAFTA가 2005년부터 통합할 예정이고, EU와 MERCOSUR도 2010년까지 통합키로 합의하는 등 유럽과 미주의 지역경제협력체들이 서로 연결되어 凡大西洋 경제권을 형성하려는 움직임도 있습니다. 이처럼 구미의 국가들이 강력한 지역경제권을 구축하고 이를 더욱 강화하려는 움직임을 보임에 따라 지역경제통합체를 갖추지 못한 아시아 국가들은 상대적으로 불리해질 것으로 예상됩니다.

더욱이 구미 강대국들이 세계화를 Slogan으로 내세우면서도 때에 따라서는 국제거래규범을 자국 위주로 만들고 이를 강행할 경우, 아시아 국가들에게는 그것이 또 다른 걸림돌이 될 것입니다. 최근 부활된 미국의 슈퍼 301조와 같은 조항은 자유무역 수행을 위한 것이라고는 하지만 그 적용에 있어서 아시아 국가들에게는 무역장벽이 될 수도 있어 우려됩니다.

아시아 경제의 과제

이러함에도 불구하고 아시아에서는 서로 협력하여 경제통합체를 구성하기 위한 노력이 지극히 미흡합니다. 그 동안 아시아의 여러 나라들은 내수 규모가 작기 때문에 수출 주도형 경제로 발전해 왔습니다. 미국과 유럽 국가들이 아시아의 상품을 잘 사주는 동안에는 이 수출주도 정책도 성공적일 수 있었습니다. 특히, 아시아 금융위기 이후에는 역내 국가들의 수요감소와 일본의 경기침체로 인하여 아시아 여러 나라의 대미의존도가 더욱 높아지고 있습니다. 그러나 2,000억불에 가까운 무역역조를 보이고 있는 미국과 지역주의가 더욱 공고해지고 있는 EU가 더 이상 아시아 국가에 수입시장을 확대해 줄 것을 기대하기는 어렵습니다.

한편 아시아 국가들은 산업발전과정에서 외국상품의 수입을 대체하고 세계를 향한 수출드라이브 정책을 펴면서 생산시설을 경쟁적으로 늘렸습니다. 그 결과로 심각한 Overcapacity 문제를 안게 되었으며, 지역 내 국가끼리 채산성이 없는 출혈경쟁을 하기에 이르렀습니다. 또 자금 면에서도 아시아 여러 나라들은 자체 자본이 취약하여 경제발전에 필요한 자금의 상당부분을 단기성의 구미자본에 의존함으로써 경제시스템에 불안정성을 가져왔습니다. 이러한 문제들이 복합적으로 얹혀 결국 아시아는 지난 '97년 금융위기를 겪었으며, 아직까지도 큰 어려움에 처해 있습니다.

따라서 이제 아시아는 역내에서 자율적으로 성장할 수 있는 메커니즘을 구축해야 합니다. 이를 위해서 EU와 같은 공동시장의 형성을 생각해 볼 필요가 있습니다. 아시아는 각국 경제의 높은 상호의존성으로 보아 역내 협력체제 구축이 충분히 가능한 여건을 가지고 있습니다. 아시아 경제공동체의 구성은 아시아의 정당한 주장이 세계적 거래규범(Global Standard)에 공정하게 반영되도록 하기

위해서도 필요합니다. 만일 아시아에 경제공동체가 구성되어 지역경제를 활성화하고 대외 협상능력을 높일 수 있다면 이것은 곧 아시아지역에만 도움이 되는 것이 아니라 세계경제 발전에도 기여하게 될 것입니다.

그러나 정치, 문화, 종교 등이 많이 다르고, 경제발전단계에서 큰 차이가 있는 나라들이 경제공동체를 형성하는 것은 쉽지 않은 일입니다. 아시아 보다 공통점이 많고 상호연관도 훨씬 높았던 EU의 경우도 1950년대부터 꾸준히 단계적인 노력을 거쳐 오늘의 성과를 거둔 것입니다. 그러므로 아시아 경제공동체 형성이라는 원대한 목표를 이루기 위해서는 경제규모나 그 영향력이 크고, 문화적·지리적으로 가장 가까운 한국과 일본이 먼저 긴밀하게 상호 협조를 이루어 경제공동체라는 큰 기틀의 씨앗이 되어야 할 것입니다.

한일 경제현황과 협력의 필요성

그러나 한국과 일본은 지금 경제적으로 큰 어려움에 직면해 있습니다. 한국은 '97년 말에 발생한 외환·금융위기에서 비롯된 경제적 어려움에서 아직도 벗어나지 못하고 있습니다. 다행히 새 정부 출범 이후 경제 전반에 걸친 구조개혁을 추진함으로써 환율, 금리 등이 안정되어 위기를 맞고 있는 여러 나라 가운데에서 가장 빠른 회복세를 보이고 있기는 하나, 재무구조 개선, 실업문제 해소, 국제경쟁력 강화 등 해결해야 할 과제들은 아직도 많이 남아있습니다.

일본도 여전히 경기침체의 어두운 터널을 벗어나지 못하고 있는 것 같습니다. 잇따른 경기부양책에도 불구하고 지난 2월에는 4.6%라는 전후 최악의 실업률을 기록하였으며, 일부에서는 작년에 이어 올해 경제성장도 마이너스가 될지 모른다는 어두운 전망을 내놓고 있기도 합니다.

이와 같이 한일 양국이 나같이 큰 어려움을 겪고 있는 이때에 두 나라가 단합하여 힘을 합치는 것은 절대적으로 필요하다고 생각합니다.

한일관계의 새로운 패러다임

이러한 가운데 지난 해 10월에 있었던 김대중 대통령의 방일과 올해 3월 오부치 총리의 방한으로 양국의 협력을 추진하기 위한 여건은 과거 어느 때보다도 성숙되어가고 있다고 봅니다.

이러한 우호적인 분위기를 살리고, 한일간의 협력이 실질적인 결실을 거두기 위해서는 무엇보다도 먼저 양국간에 굳건한 신뢰관계를 구축하는 것이 필수적입니다.

이를 위해 한국은 불행했던 과거사에 더 이상 얽매어서는 안되겠습니다. 한국이 과거사에 사로잡혀 이를 문제 삼으면 그것은 일본의 對한국 투자와 협력에 걸림돌이 될 뿐이며, 한국에 아무런 도움이 되지 않습니다. 또한 일본이 한국에 대한 투자를 꺼리게 하는 노사관계와 수많은 규제, 그리고 민간자율경제를 제약하는 요인들을 하루라도 빨리 개선하여 일본 기업이 한국을 매력 있는 투자 대상국으로 선호하도록 만들어 나가야 합니다. 이와 같은 노력이 결실을 거둘 때 우리는 보다 희망찬 내일을 설계할 수 있게 될 것입니다.

한편, 일본도 앞으로 과감하고 참신한 변화를 보여주어야 합니다. 2차대전 후 독일이 일찍 그 진심을 의심할 여지가 없도록 명백히 반성하는 태도를 표명함으로써 이웃나라들과의 허심탄회한 협력관계를 이루는데 성공했습니다.

일본은 한국을 대하는데 있어서 부정적인 태도를 버려야 합니다. 이제 한국의 가치를 올바르게 평가하고 참다운 파트너십을 이루어야 할 것입니다. 근래의 경제발전 뿐 만 아니라 경제위기 이후 구조조정 등을 통해서 보여준 한국인의 결단력과 역동성은 구미에서 높게 평가를 받고 있습니다. 이러한 한국의 특성과 아울러 양국의 필연적인 상호의존성을 감안하면 한국이 어느 나라보다도 중요하고 필요한 파트너라는 사실을 일본은 인식해야 합니다.

독일과 프랑스는 가장 가까운 이웃이면서도 오랫동안 전쟁과 대립을 일삼아 왔었습니다. 그러나 2차 대전 이후 서로의 중요성을 인식하여, 과거에 있었던 반목과 대립의 역사를 청산하였습니다. 이를 바탕으로 독일과 프랑스는 오늘날 유럽

통합을 주도하는 핵심이 되었습니다. 저는 일본과 한국도 상호신뢰를 바탕으로 땀과 땀 수 없는 전략적 동반자로서 아시아의 단결과 통합의 핵심이 되기를 바라마지 않습니다.

또한 일본은 아시아에서 그 경제력에 상응하는 지도력을 발휘하는 모습을 보여주어야 하겠습니다. 일본은 전후 정치, 경제의 모든 면에서 미국과의 긴밀한 협조를 최우선으로 추구했습니다. 이 과정에서 아시아 국가들을 소홀히 대했다는 인상을 준 것도 사실입니다. 아시아가 나같이 큰 어려움을 겪고 있는 이때에 일본은 인식의 변화를 통해 진정한 아시아의 지도적 위치에 바로 서서 아시아의 발전을 위하여 앞장서 나가야 합니다.

이를 위한 가장 효율적인 방법은 일본이 주도하여 아시아 역내시장을 확대하는 것입니다. 지금 아시아는 경제위기로 내부수요가 감소하고 있습니다. 이러한 때에 경제력이 가장 큰 일본이 아시아 지역에 대한 수요를 적극적으로 흡수해야 할 것입니다. 일본이 아시아 지역으로부터 수입을 늘리면 구매력이 늘어난 아시아 국가들은 다시 일본 상품의 고객이 되고, 이러한 순환은 아시아가 자생적 성장기반을 확보하는데 큰 도움이 될 것입니다.

자유무역협정의 체결

이러한 맥락에서 저는 오늘 한일 양국간의 자유무역협정을 제안하고자 합니다. 한일 협력관계에 있어서 획기적 전환점이 될 자유무역협정은 관세 및 비관세장벽의 완전한 철폐를 지향하며, 투자협정을 통한 자본교류의 자유화와 더불어 궁극적으로 두 나라의 경제적 통합을 가져 올 것입니다.

자유무역협정의 체결은 두 나라에 막대한 시장창출효과를 가져 올 것입니다. 무역장벽이 해소되면 양국간 교역이 증대되어 외부시장에 대한 의존도가 줄어들며, 시장이 커짐으로써 규모경제에 의한 효율성이 높아질 것입니다. 또한 통합된 시장에서는 자유로운 경쟁을 통해 생산성이 높아지고 기술발전이 촉진될 것입니다.

한국의 일부에서는 양국간 자유무역협정이 체결되면 일본의 높은 경쟁력으로 한일 무역역조가 더욱 심화되지는 않을까 우려하고 있습니다. 그러나 한국의 10배나 되는 일본시장이 열리고 그 가운데 10%만 한국이 갖는다 하더라도 한국의 시장규모가 2배로 커지는 효과가 있습니다. 또 일본의 투자가 활성화되고 기술이 들어오게 되면 경쟁력이 높아져 전반적인 수출이 늘어날 것입니다.

일본의 입장에서 볼 때도 한국의 경제규모는 작지만, 한일교역 및 경제교류가 크게 확대된다면 그 효과는 마이너스 성장으로 시달리고 있는 일본경제에 커다란 성장요인이 될 것입니다.

산업구조조정, Overcapacity의 해소

역내 시장확대와 더불어 한국과 일본이 시급히 해결해야 할 과제는 산업구조조정입니다. 양국은 과잉투자와 경제성장 둔화로 어려움을 겪고 있으며, 이를 극복하기 위해서는 산업구조조정이 하루빨리 강도 높게 추진되어야 합니다.

양국간의 산업구조조정은 두 가지 면에서 추진되어야 할 것이라고 생각합니다. 그 하나는 공급과잉상태에 있는 산업에서 한국과 일본의 기업들이 합병에 적극적으로 나서는 것입니다. 현재 제휴를 추구하고 있는 일본 기업들은 주로 서구기업들을 대상으로 이를 모색하고 있습니다. 그러나 한일 양국의 긴밀한 경제협조가 이루어지면 한국기업과의 합병 또는 제휴가 훨씬 효과적일 것입니다. 한국과 일본 두 나라는 자동차, 반도체, 철강, 조선, 석유화학 등으로 산업구조가 비슷하기 때문에 이들 분야에서 능동적인 합병을 통해 극한적인 출혈경쟁을 피하고 수익성을 높일 수 있을 것입니다.

산업구조조정의 또 한가지 방안은 양국간에 효율적인 분업구조를 구축하여 양국 산업구조를 상호보완적으로 만들어 가는 것입니다. 지금 일본은 高費用構造를 해소하고 보다 부가가치가 높은 산업으로 이전해야 하는 단계에 와 있습니다. 또한 일관생산체제를 지양하고 한국과의 분업구조를 보다 고도화할 필요가 있습니다. 자본과 기술개발, 생산, 시장개척 등의 면에서 경쟁우위에 있는 부문을 각자가 맡아서 전문화에 의한 협조체제를 갖는 것이 서로에게 도움이 된다고 생각합니다.

투자교류 활성화

한편 한국을 포함한 아시아 국가들은 금융위기에서 비롯된 경제난을 극복하기 위해 해외 투자자본이 절실하게 필요합니다.

그 동안 일본은 높은 저축률과 무역수지 흑자를 통해 축적된 자본의 대부분을 미국에 투자해 왔습니다. 이것은 일본의 투자가 안전성을 중요시하여 비교적 위험도가 높은 아시아에 투자하기를 꺼려왔다는 것을 의미합니다. 그러나 일본의 장기성 자금이 저리로 미국에 투자되고, 미국의 단기성 자금이 높은 이율로 아시아에 투자되는 오늘의 국제자본 흐름은 아시아로서는 바람직하지 않습니다.

일본의 민간 투자자금이 아시아에 직접 투자되도록 하기 위하여 일본은 정책적으로 적극적인 투자촉진책을 마련해야 할 것입니다. 아시아에 대한 투자는 위험도가 높을 수도 있습니다만 수익이 큰 만큼, 일본 정부가 높은 수익의 일부를 활용하여 리스크에 대비하는 정부보증제도를 도입한다면 민간투자가 늘어날 뿐 아니라 자금의 안정성도 높아질 것입니다. 또한 아시아에 대한 일본의 투자확대는 엔화의 기축통화로서의 지위향상에도 크게 도움이 될 것입니다. 이러한 일본의 아시아 투자는 그 수익에서 오는 혜택에 그치지 않고 아시아 경제의 활성화에 따른 보다 큰 이득을 일본경제에 가져올 것입니다.

맺 음 말

일본과 한국의 존경하는 경제인 여러분.

한일 협력에 대해서는 그간 수없이 많은 이야기가 있었습니다. 제가 여기서 드리고 싶은 말씀은 이제는 이론적인 토론을 떠나서 서로가 흥금을 털어놓고 새로운 패러다임을 구축하여 한일 두 나라를 굳건한 동반자로 결속시키자는 것입니다. 상호신뢰를 기초로 한 파트너십을 통해 한일양국이 자유무역협정과 투자협정 등 협력에 관한 Rule을 확립하고 두 나라의 경제를 완전한 통합체로 만들면 아시아경제공동체 형성의 튼튼한 초석이 될 것입니다. 이를 바탕으로 역내의 모

든 나라에 문호를 개방하고 같은 조건으로 가입을 원하는 나라들을 받아들여 자
립기반을 갖춘 아시아 경제공동체를 이루면 아시아는 NAFTA 경제권, EU 경제
권과 더불어 세계 3대 경제권의 하나로 부상하게 될 것입니다. 이는 보다 균형
된 세계화에 기여할 뿐 아니라, 아시아가 금세기 후반에 보여준 힘찬 역동성을
회복하여 새로운 21세기에 세계경제의 주도적인 역할을 다할 수 있는 토대가 될
것입니다. 저는 이것이 쏠아시아인이 힘을 합쳐 반드시 실현시켜야 할 아시아의
비전이라고 생각합니다.

오늘 한일 양국의 경제인들이 한자리에 모였습니다. 그러나 같은 곳에서 출발
하더라도 바라보는 곳이 다르면 다른 곳에 도착하기 마련입니다. 저는 오늘 한
일 양국 경제인들이 21세기와 새 천년을 경영하기 위한 공동의 꿈과 비전을 발견
할 수 있기를 바랍니다. 그리고 이 자리가 아시아의 새로운 성장신화를 만들기
위한 천년의 파트너를 만나는 감격스러운 자리가 되기를 진심으로 기원합니다.

감사합니다.

〈基調演說〉

經濟 改革과 日韓 協力



(社) 經濟 同 友 會
代表幹事 牛尾 治朗

머리말

김상하 회장님과 후지무라 마사야 회장님을 비롯한 내빈 여러분, 그리고 일한·한일경제인회의의 멤버 내외분 여러분. 오늘 제31회 일한·한일경제인회의가 이렇듯 거행됨을 진심으로 축하 드리면서 일한 경제계의 우호 친선과 교류를 위해 커다란 역할을 수행해 온 본 회의에서 말씀 드릴 수 있는 영광스러운 기회를 얻었음을 진심으로 감사 드립니다.

오늘 저는 다음 세가지 점에 관하여 사건을 말씀 드리고자 합니다. 첫째는 “일한 관계와 아시아 경제에 관하여”, 둘째는 “일본의 경제 재생 방안과 21세기를 향한 구조 개혁에 관하여”, 셋째는 “글로벌화와 아시아의 전통 문화에 관하여”입니다.

새로운 국면을 맞이한 일한 관계

작년 10월의 金大中 대통령의 방일은 일한 관계에 커다란 획기적 변혁을 가져왔습니다. 일본 국민들은 대통령의 인품에 접하고 민주주의를 스스로 쟁취하신

설득력 있는 리더십과 헌신적이고 애국적인 정치 자세에 대해 깊은 감명을 받았습니다. 솔직하게 진실을 논하는 성실함도 감동적이었습니다. 그리고 그 때 발표된 “일한 공동선언 - 21세기를 향한 새로운 일한 파트너십”에 의해 일한 관계가 새로운 단계로 향하는 이정표를 얻었음을 실로 기쁘게 생각합니다.

그리고 금번 오부치 총리의 방한은 이 이정표에 따라 양국의 견실한 협력관계를 심화시키는 것이었습니다. 21세기를 향하여 일한 경제관계를 긴밀화하기 위해 오부치 총리가 제안한 “일한 경제 Agenda 21”에 합의함에 따라 일한 관계는 무역·투자 등의 경제활동을 가일층 활발화하고 경제 관계 긴밀화를 도모하며 21세기를 향한 일한 경제 파트너십을 더욱 확고하게 한다는 방향성을 찾았습니다.

양국 국내의 제반 규제 문제, 경제 활동의 기반이 되는 여러 제도상의 차이 등이 일한간 경제 활동의 장애가 된다는 인식 하에 이러한 장애 요소를 가능한 한 제거해 나가자는 점에서 공감대를 형성할 수가 있었습니다. 투자 촉진, 이중과세 방지 조약(조세조약), 기준 인증 문제에 관한 협력, 지적재산권 분야에서의 협력, WTO 차기 협상을 향한 협력 등에 관해서도 가일층 추진하기로 결의하였습니다.

이처럼 지금은 일한 양국에게 대단히 중요한 국면이며, 이 기회를 民間인 우리가 심분 활용하여 구체화시킬 필요성을 통감하는 바입니다.

또 오늘의 주제 그 자체는 아니므로 한마디로 그치겠습니다만, 우리는 한반도의 평화가 갖는 중요성을 한시라도 잊어서는 안됩니다. 그 점에서 우리는 金大中 대통령의 “포용정책”을 높이 평가하고 있습니다. 북미협상, 4자 회담이 진전을 보이고 남북관계가 개선되기를 희망하고 있습니다.

아시아 경제 위기와 일한 협력

아시아의 경제 위기는 일한 양국이 직면한 도전이며, 아시아 경제의 재생을 위해 일한 양국의 경제 회복은 불가결한 것입니다. 일본과 한국 각국의 노력과 더불어 일보 전진한 협력 체제가 매우 중요하다고 우리는 인식하고 있습니다.

한국에서는 외환·금융위기를 극복하는 과정에서 대담한 정부기구 축소 개편, 노동시장 개혁, 금융시스템 개혁, 재벌 개혁 등 일련의 경제구조 개혁을 위해 官과 民이 매우 적극적으로 힘써 오셨습니다. 그 노력과 성과는 일본의 官民뿐 아니라 널리 국제사회로부터도 높이 평가되고 있습니다. 또 아주 스피디하고 대담한 각종 개혁은 金大中 대통령을 중심으로 한 官民 각 분야 리더들의 강력한 지도력에 힘입은 것이라 사려되어 탐복하고 있습니다. 저희들도 한국경제의 한시라도 빠른 재생과 안정을 위해 계속 협력해 나갈 것을 官民과 더불어 결의하고 있는 바입니다.

일본의 행동은 흔히 “too little, too late”, 너무 느리고 게다가 규모가 작다는 야유를 받습니다. 그러나 작금의 한국의 경제위기 시에는 일본으로서 만첩하게 행동했다고 볼 수 있습니다. 97년 12월에는 100억불의 IMF와의 협조 지원을 표명했으며, 5월 27일에는 일본으로부터의 수입대금 결제를 위해 1,300억엔의 수출입은행 용자계약을 체결했습니다. 또 '98년 5월에는 일한경제협회 후지무라 회장님을 단장으로 한 100명 이상의 투자환경조사단을 한국에 파견했습니다. 金大中 대통령 방일시의 30억불 상당의 수출입은행 용자 등의 합의를 포함하여 이러한 지원들이 앞으로 2000년을 향해 어떤 형태로 구체적으로 결실을 맺을 것인가가 매우 중요한 테마임을 우리들은 알고 있습니다.

현재 일한 관계는 한국의 외환 금융위기에 따른 원화 가치 하락 등으로 인해 한국측에서 본 무역불균형 문제는 상대적으로 잠잠해지고 있습니다. 그러나 일본은 미국 다음가는 한국의 무역상대국이라는 점을 충분히 인식하여 일본의 만성적 수출 초과를 여하히 구조적으로 개혁할 것인가에 관하여 정부뿐 아니라 민간 차원에서도 적극적으로 논의할 필요가 있다고 생각합니다.

귀국에 대한 투자에서 일본은 미국에 이어 제 2위이며, 1998년의 일본으로부터의 투자는 금액 기준으로 전년 동기대비 9할 증가를 기록했습니다. 이는 경제위기에 따라 기존 합작회사의 한국측 보유 주식을 일본측이 취득하는 사례가 늘었던 것이 주된 요인이라고 분석되고 있으며, 대단히 바람직한 경향이라고 사려됩니다. 앞으로 더욱 투자를 증대시키기 위해서는 현장에서의 문제점, 기업 상호의 매력을 여하히 구체적으로 투자로 연결시킬 것인가를 솔직하게 논의해야 합니다.

조만간 한국 경제의 회복이 진전되면 일본으로부터의 수입이 늘어나서 무역불균형 문제는 양국간 마찰의 요인이 되는 경우도 예상됩니다. 이런 가운데 양국간의 향후 경제 활동의 잠재적 저해 요인을 제거하기 위해서는 투자 촉진, 기준인종 합의, 지적재산권 등에 관하여 양국의 산업구조 면에서 솔직하게 협의하고 또 노동시장 문제에 관하여 구체적으로 논의할 필요가 있습니다. 저는 더욱 먼 앞날을 내다보고 대담하게 한 걸음 더 나아가서 양국간의 共同市場의 지역 구상도 염두에 둔다면 전향적 논의를 기대할 수 있으리라 생각합니다.

일본의 경제 재생 정책

일본 경제의 재생이 한국과 마찬가지로 아시아를 비롯한 세계의 안정과 번영에 매우 중요하다는 점을 인식하고, 일본 정부는 특히 일본의 금융시스템에 대한 신인도 회복과 내수 진작을 지향한 경기 회복을 최우선 과제로 삼고 노력해 왔습니다.

경기 대책에 관해서는 '99년도 정부 예산이 국회를 통과, 전년도 대비 4.5% 증가한 81.9조엔이라는 대규모 예산을 편성했습니다. 稅制 개혁은 개인소득세의 최고 세율을 50%로, 법인세의 실효 세율을 40%로 인하하는 세금 감면을 결정하고, 총액으로 10조엔 가까운 減稅 효과를 발휘하게 되었습니다. 또 '98년도에는 4월에 사업 규모 16조엔, 11월에 17조엔의 공적 투자를 실시함으로써 세금 감면분을 포함하면 43조엔이라는 당면 내수확대 정책을 수립한 바 있습니다.

또 부실자산에 따른 금융시스템 혼란에 대해서는 60조엔의 공적 자금을 마련하여 대응하고, 이미 대부분의 주요 시중은행을 중심으로 7조엔이 넘는 공적 자금이 투입되었습니다. 이런 흐름에 주식시장은 충분히 팔목하여 3월부터는 금융주를 중심으로 일본의 주가도 상승하기 시작, 일본 경제인들은 밝은 방향으로 주식시장이 움직여 주기를 기대하고 있습니다. 이러한 주식시장의 호전이 일본의 개인 소비와 민간 투자를 바람직한 형태로 자극하여 일본의 경기 회복에 가일층 탄력을 가할 수 있다면 실로 바람직한 일일 것입니다.

(日經 평균 : 연초=13415.89엔, 3/31=15836.59엔, 18% 상승)

일본 경제는 금융 경색, 경기의 순환적 요인에 의한 수요 침체, 그리고 경제구조 개혁이라는 세 가지가 동시에 진행되고 있으며, 금번 경제정책으로 금융 경색과 순환적 경기 침체에 관해서는 상당한 부양 효과가 있으리라 보고 있습니다. 그리고 금년도와 내년도의 최대 과제는 이에 뒤이은 경제구조 개혁입니다. 그런 점에서 일본이라는 나라는 낡은 체제를 부정하고 새로운 구조개혁에 자력으로 착수하는 단계를 맞고 있는 것입니다. 이에 경제계 지도자들은 지금, 대담하게 스스로의 아픔을 견뎌내면서 개혁에 매진할 것을 다짐하고 있습니다.

21세기를 향한 일본의 구조개혁

이른바 제3차 세계대전이라고 일컬어지는 냉전 종식 후의 새로운 체제의 골격은 ① 1국 번영주의로부터 글로벌화에 대응한 경제구조로 바꿀 것, ② 이를 통해 구미형 시장경제 규율을 받아들인 民需 主導형 경제체제를 구축할 것, ③ 중앙정부의 업무중 민간이 할 수 있는 것은 대담하게 민간에게 이관할 것, 그리고 나서 중앙 정부의 상당부분을 지방으로 옮기고 정부를 간소하고 작은 것으로 만들 것 등의 방향입니다.

또 글로벌화를 받아들이고 “세계와 더불어 살아갈 결의”를 한다는 것은 정부와 업계의 보호 체제를 최소한도로 줄이고 free, fair, global이라는 사고방식을 시장에 철저히 뿌리내리게 하며, 민주주의와 시장경제가 일체를 이루어 소비자를 보호하고 약자를 구제하며 공정한 경쟁이 실현되는 시장경제 체제를 정비하는 일입니다. 우리 경제단체는 지금까지 그 실현을 강력히 주장해 왔습니다.

오부치 정권도 하시모토 정권에 이어서 이러한 방향에 대해 기본적으로 합의하고, 작년 8월에 설치한 “經濟戰略會議”의 최종 보고가 올해 2월 26일에 발표된 바 있습니다. 이 보고에서는 ① 거품경제의 집중적 청산 기간을 1999년~2000년 말까지, ② 성장궤도로의 복귀, 경제 진전화 기간을 2001년~2002년 말, ③ 2003년부터 6년 동안 財政 재건과 구조개혁을 통한 본격적 재생에 힘쓴다는 스케줄 하에 구체적 민간 주도형 경제와, 글로벌화 방향에 입각한 대담한 정책이 제언되었습니다.

또한 일본 정부는 이 회의의 뒤를 잇는 형태로 새로 “産業競爭力會議”를 설치하고 지난 3월 29일에 첫 번째 모임을 가졌습니다. 여기서는 미래를 전망한 새로운 발전 분야의 추진, 노동력과 고용의 원활한 유동화, 새로운 산업에 의한 고용 창출, 과잉투자의 상각 촉진과 신규 투자 등의 추진을 도모하기 위하여 연내 실시를 목표로 구체적 조치를 강구하게 됩니다.

시장경제에서의 경쟁력은 민간에 의해 지탱됩니다. 이에 경쟁력을 높이는 자유로운 환경 조성을 저해하는 규율과 제도를 철폐하고, 경쟁을 추진하는 새로운 제도와 규율을 만들어 나가는 것이 “산업경쟁력회의”의 목적입니다. 이 회의는 이런 자유로운 경쟁이 가능한 토양 정비 역할을 담당하고, 그 토양에서 활약하는 것은 민간 기업이라는 사상입니다.

일본 기업의 과제와 도전

일본 기업은 과거에 닌쇼 쇼크, 석유 파동, 1990년대의 엔고 쇼크 등의 어려움을 극복했을 때의 적극적이고 대담한 경영 자세를 다시 되찾을 필요가 있습니다. 기업은 과잉설비의 폐기, 비채산 자원의 전략적 재배분과 더불어 모든 예지를 결집하여 고객 만족도를 높이고 매력적인 상품·서비스 제공에 힘쓸 것이 요구되고 있습니다. 정보통신, 환경, 의료, 복지, 교육 등 새로운 분야에 도전해야 합니다. 이를 위해서도 경영자는 상황 변화에 즉각 대응할 수 있는 유연한 경영 시스템을 구축하고, 신속하고 대담한 의사결정을 해야 한다는 점을 잘 알고 있습니다.

또 “산업경쟁력회의”의 주요 테마이기도 한 고용의 원활한 유동화는 커다란 과제입니다. 지나친 고용 유지 정책은 새로운 산업구조로의 변화를 저해하여 문제해결이 되지 않습니다. 중요한 점은 일본 전체의人材 유효 활용과 적재 적소 배치를 실현하기 위하여 정부와 기업간의 역할 분담이라든지 정책 전환에 관하여 구체적 검토를 시작해야 한다는 것입니다.

정부는 직업훈련 기간 중의 실업보험 급부 확충과 기간 연장, 직업 능력개발 지원 등 고용 이동에 따르는 불안감 해소를 위한 사회적 안전망을 가능한 한 빨리 정비할 필요가 있으며, 기업은 종래의 인사제도에 연연하지 말고 종업원들의

능력을 최대한 발휘시킬 수 있는 환경과 적정 배치, 평가제도에 대해 진지하게 생각해야 할 때가 온 것입니다.

또한 정보 공시와 accountability에 입각한 기업 경영이 필요해졌습니다. 일본에서는 2000년 3월기부터 연결회계·市價회계를 중심으로 한 국제 회계 기준의 본격적 적용을 예정하고 있어 그 실시가 목전에 다가왔습니다. 이에 따라 기업은 투명한, 있는 그대로의 모습이 시장에 공개되어 평가받게 되며, 평가자산에 의존하여 문제 해결을 뒤로 미룬다든지 애매모호한 형태로 그룹경영을 하는 것은 불가능해집니다. 경영자는 이에 적극적으로 대응하고 엄격한 corporate governance 하에서 경영의 규율성을 제고하고 책임을 명확히 하여 기업 체질을 강화해야 한다고 생각하고 있습니다.

글로벌화와 아시아의 전통·문화

옛 것을 소중히 여기고 종래의 질서를 존중하며 미덕의 계승을 소홀히 하지 않는 기풍, 역사와 전통과 문화를 존중하고 공경하는 문화와 사회 환경을 갖는 아시아에서 경영자는 변화와 개혁을 전제로 한ダイナミク한 경제 개혁을 어떤 식으로 실현시킬 것인가. 일한 양국은 글로벌화를 수용하고, 경제 개혁을 추진할 때 문화·관습 등과 알력이 생긴다고 하는 서로 비슷한 어려움을 안고 있습니다.

그리고 종업원과 경영자간의 신뢰 관계가 이러한 변화 속에서 어떻게 변화, 발전되어 갈 것인지 경영자의 고민은 끝이 없습니다. 이러한 점에서 한국과 일본의 경영자들이 아시아의 풍토, 아시아의 전통·문화구조와 시장경제의 개혁이 어떠한 相剋을 통하여 어떻게 하면 뛰어난 결과를 이룰 수 있는지, 또 어떻게 하면 우리들이 고통스러운 경험을 극복할 수 있는지 등에 대해서 솔직하게 대화를 나누는 것이 아주 의미가 있다고 생각합니다.

이와 같은 경영자들이 생각, 思考方式의 교류와 연동시키면서 실시하는 국민적 차원의 문화 교류도 매우 중요해집니다. 金大中 대통령의 방일에 대중문화 개방 정책의 빗장이 풀리고 일한문화교류회의가 설치되는 등, 문화 교류는 한 걸음씩 앞으로 전진하고 있습니다. 또 2002년의 월드컵을 앞둔 기념행사와 일한산업문

화교류 페스티벌이 내년부터 매년 양국에서 개최되는 등, 그 기운은 고조되고 있습니다.

문화, 기술, 유학생을 포함한 청소년 교류 등의 면에 있어서는 우리 기업인들이 해야 할 역할은 적지 않을 것 같습니다. 특히 과학기술과 企業家の 활성화 문제에 대해서는 양국의 민간 베이스에서 구체적으로 논의할 가능성이 충분히 있을 것 같습니다. 유학생 교류문제에 대해서도 보다 나은 교류성과를 거두기 위해 개선해야 할 점을 민간 베이스에서도 솔직하게 대화할 수 있을 것입니다.

모든 국면에서 솔직하게 마음의 교류를 하는 것입니다. 과거에 대해 솔직하게 논의하고, 서로의 어려운 현실을 서로 인정하면서 새로운 미래를 향해 어떻게 신뢰를 쌓아 가야 할 것인가, 문화교류는 우리 경영자들에게도 또 국민들에게 있어서도 앞으로 중요한 테마가 되리라 생각합니다.

자유무역권 구상

또 앞에서 잠시 말씀드린 바와 같이 앞으로의 경제의 방향으로서 일본과 한국 간의 자유무역권 구상에 대해서도 충분히 연구할 가치가 있다고 봅니다. 우리들에게는 EU라는 선례가 있습니다. 물론 아시아의 행정은 유럽과는 다르지만 일국의 이해관계를 초월하여 유럽이 EC를 창설하고 유로의 단계까지 이룩한 것처럼 우리들도 동아시아의 발전과 안정을 시야에 넣고 유럽에서의 로마條約 시대와 같은 마음가짐을 가질 필요가 있다고 사려됩니다.

「일한 경제 Agenda 21」에도 제시되어 있듯이 모든 협력체제는 현장을 중심으로, 또 행정을 중심으로 미래를 향하여 한 걸음 다가갈 필요가 있습니다. 물론 그것을 실현하기까지는 해결해야 할 많은 난관이 있음은 잘 알고 있습니다. 그러나 늘 앞을 내다보며 꿈을 향하여 나아가는 마음가짐이 중요합니다. 자유무역에 대한 연구는 일본의 JETRO·아시아경제연구소와 귀국의 대외정책연구소의 「21세기 일한 경제관계연구회」가 연내에 보고서를 작성할 예정이라고 듣고 있는 바, 크게 기대하고 있습니다.

제가 대표를 맡고 있는 경제동우회에서도 늘 아시아 경제의 미래를 지향하면서 오늘 말씀드린 바와 같은 국내외 정책에 관하여 국제적, 장기적, 현실적 관점에서 논의를 하고, 필요에 따라 제언을 하고 있습니다. 경제동우회는 경단련과 상공회의소에 가입한 회원사의, 특히 정책 논의에 관심이 큰 경영자들이 개인 자격으로 참가하는 단체이며, 회원수는 도쿄에 1,500명, 전국 45개의 지방 경제동우회를 합하면 15,000명에 달합니다.

귀국에도 경영자가 개인 자격으로 참가하는, 저희와 같은 뜻을 지닌 단체가 생긴다면 경제동우회는 기꺼이 일한 양국의 미래에 관하여 자유로운 논의를 시작하고자 합니다.

맺는 말

거듭 말씀드립니다만, 아시아의 경제 재생을 위해서는 각국의 노력과 함께 상호 협력이 불가결합니다. 힘든 개혁을 이루면 그 저편에는 밝은 미래가 있음을 믿고, 일한 양국이 서로의 개혁을 배우고 절차탁마 하면서 개혁의 목표 지점을 향하여 경쟁하는 그런 관계를 구축해 가야 하지 않겠습니까.

일한 양국이 창조적 아시아모델을 착실히 실현할 수 있으면 중국을 비롯한 아시아 여러 나라의 참고도 되며 아시아의 안정과 번영에 크게 공헌함은 틀림이 없습니다. 특히 양국이 공통의 경제관계를 맺고 있는 중국에 대해서도 한일간 협력체제에 대해서 솔직하게 논의할 필요가 있을지도 모르겠습니다.

국가를 지탱하는 것은 경제이고, 경제를 지탱하는 것은 우리 기업인들입니다. 기업인들의 신뢰관계야말로 일한 양국, 나아가서 아시아의 번영을 지탱하고 있다는 의미에서 이 모임의 역할은 아주 크다는 것을 말씀드리면서 저의 발언을 마치겠습니다. 경청해 주셔서 감사합니다.

全體會議 ①

〈全體會議 ①〉

一 般 經 過 報 告



社團法人 韓日經濟協會
專務理事 申 德 鉉

작년 4월 日本國 宮崎市에서 개최된 第30回 韓日・日韓經濟人會議에서 합의된 각 사항의 실시상황 및 관련된 兩國間의 협력사업 등에 對해 보고 드리겠습니다. 그리고 本 會議 傘下 4個 專門委員會의 활동상황에 대해서는 잠시 후 각 전문위원회의 한국측 위원장으로부터 보고가 있을 예정입니다.

첫째, 訪日輸出促進團에 관한 사항입니다.

이 사업은 韓日・日韓 兩 市場協議會가 주관하여 실시하고 있습니다. 양국 시장협의회 사무국은 한국측은 韓日經濟協會가, 일본측은 日本貿易振興會가 각각 맡고 있습니다. 작년에는 3회의 촉진단을 일본에 파견 96개사 135명이 東京, 大阪을 비롯해 일본 각지 延 7개 도시에서 전시상담회를 개최하였습니다. 총 상담건수는 917건으로 양국 기업의 교류확대는 물론 국내 중소기업의 일본시장 진출에 공헌하였습니다.

둘째, 産業技術協力財團의 사업에 대해서입니다.

한일 양국간의 산업협력으로 한일 양국의 현안인 대일 무역불균형을 개선코자 1992년 9월 1일, 정부간 합의로 설립된 韓日・日韓産業技術協力 兩財團은 양국의 정부, 그리고 관계 경제단체 및 기업 등의 적극적인 지원과 참여 속에 각종 사업을 추진해 오고 있습니다. 작년에도 韓日財團에서는 인력연수사업, 부품산업협력

사업, 산업기술교류사업, 그리고 일본시장 진출지원사업 등을 역동적으로 추진했으며, 이밖에도 일본의 대규모 對韓投資環境調査團의 활동을 지원했으며, 특히 金大中 大統領의 방일기간에 맞추어 韓國投資誘致使節團을 東京과 大阪에 파견하여 韓國經濟 회복에 대한 기대와 신뢰도 향상에 크게 기여하였다는 평가를 받은 바 있습니다.

셋째, 韓日中堅經濟人交流促進團 事業에 대해서입니다.

本 事業은 1989년 제1회를 시작으로 작년까지 통산 9회 제가 개최되었으며, 그동안 명칭변경과 상호 교환파견 실시로의 전환, 그리고 벤처기업인의 참여 유도 등 인적교류 범위의 확대로 양국 젊은 경제인간의 실질적인 교류가 전개될 수 있도록 하였습니다. 작년 11월에 한국 전라남도 광양시(광양제철소)에서 일본측 25명, 한국측 34명이 참가한 가운데 개최된 第9回 韓日中堅經濟人交流促進團은 한국의 TOP경영인 초청 강연회, 경제전문가 초청 세미나, 산업시설 견학 등을 실시하여 양국 중견 경제인간의 상호이해와 교류증진에 큰 성과를 거두었습니다.

넷째로는 靑少年交流事業에 대해서입니다.

작년 여름방학을 이용, 7월 하순부터 8월초에 한국 대학생 40명이 일본을 방문하였으며, 일본에서는 8월 중순 21명이 방한하였습니다. 양국 대학생들은 7박 8일간의 체재기간 중 민박, 학생교류, 산업시설 견학, 교적지 답사 등의 다양한 활동을 통해 상대국의 산업·사회·문화를 직접 접하고 상호이해와 우호를 돈독히 하는 기회를 가졌습니다.

마지막으로 經濟人會議가 총괄하는 專門委員會 운영에 관한 再點檢 및 改革·改善內容에 대해서입니다.

작년 第30回 韓日·日韓經濟人會議에서 합의된 本 事項은 그 동안 독립적으로 실시해 오고 있는 각 전문위원회를 시대변화에 맞게 재정비하고 효율적이고 발전적으로 운영될 수 있는 방안을 중심으로 검토하게 되었습니다. 이에 대한 그 동안의 추진경위를 간략히 말씀 드리겠습니다.

작년 7월 일본측으로부터 시스템 재점검 활동의 일환으로서 新會議 設立案에 대한 제안서가 한국측에 전달된 것을 시작으로 한일 양측 사무국(韓國貿易協會,

韓國機械工業振興會, 韓日經濟協會, 日韓經濟協會)간에 수 차례의 實務會議를 가진 후, 양측 會長의 文書 交換으로 最終 合意가 이루어졌습니다. 그 요지는 貿易 投資委員會, 機械工業委員會, 産業一般委員會의 3개 전문위원회를 통합하여 「産業貿易會議」를 신설하고, 첫 회의는 1999년 10월 東京에서 개최하는 내용입니다.

이상 보고한 推進結果에 대한 新會議 設立 提案은 내일 있을 합동분과회에서 共同提案할 예정입니다.

이상으로 經過報告를 마치겠습니다.

感謝합니다.

〈全體會議 ①〉

韓日・日韓貿易投資委員會 報告

韓日貿易投資委員會

委員長 黃 斗 淵

韓日・日韓貿易投資委員會의 活動狀況에 대하여 報告 드리겠습니다.

第25回 韓日・日韓貿易投資委員會는 1998年 11月 19, 20日 兩日間 日本 東京의 日本貿易會 會議室에서 韓國側의 黃 斗淵 委員長과 日本側의 고지마 미끼오(小島 幹生) 委員長을 비롯 兩側에서 37名이 參加한 가운데 開催되었습니다.

議題 1 ; 韓日・日韓 貿易 및 投資 現況과 展望

議題 1 ‘韓日・日韓 貿易 및 投資 現況과 展望’에 대한 討論過程에서 兩側은 우선 1997年 以來 韓日間 貿易은 勿論, 兩國의 對아시아貿易도 減少勢를 持續하고 있음을 確認하였습니다. 또한 이러한 兩國 貿易의 減少勢를 克服하기 위해서는 韓日 兩國의 民間部門이 相互 緊密한 協助하에 앞장서야 한다는 데도 認識을 같이 하였습니다.

投資에 대해서는 韓國側이 韓國의 投資環境이 韓國政府의 果敢한 改革措置에 힘입어 눈에 띄게 改善되고 있음을 說明하였고, 大部分의 日本側 參加者가 이에 共感하며 더 한 층의 改善을 期待하였습니다.

議題 2 ; 新設 [産業貿易會議]에의 提議

韓日 兩側은 우선 日韓經濟協會側이 提示한 ‘貿易投資委員會’, ‘機械工業委員會’, ‘産業一般委員會’ 등 3個 專門委員會를 統合하여 [産業貿易會議]를 新設하자는 案에 對하여 贊成하였습니다. 다만, 韓日間 經濟協力の 中心은 어디까지나 貿易과 投資임을 考慮하여 ‘貿易 및 投資’가 新設 [産業貿易會議]에서도 深度있게 論議되어야 함을 強調하였습니다.

議題 3 ; ‘아시아에 있어서의 日本과 韓國’ 講演 聽取 및 討論

이 밖에 東京工業大學 와타나베 도시오(渡辺利夫) 教授로부터 ‘아시아에 있어서의 日本과 韓國’이라는 題目의 講演을 聽取하고 討論하였습니다. 同 講演은 韓日 兩國 企業人들이 向後 韓日間 더 나아가 아시아에서 貿易 및 投資活動을 營爲함에 있어서 貴重한 方向提示를 하여 주었으며, 다시 한번 韓日 企業間 協力の 重要性을 切感하는 契機가 되었습니다.

마지막인 第25回 韓日・日韓貿易投資委員會는 위와 같은 議題別 發表와 討論을 마치고 新設되는 [産業貿易會議]의 委員構成과 開催時期에 對해서는 兩國 事務局에 一任키로 하고 終了되었습니다.

돌이켜 보면 韓日・日韓貿易投資委員會는 지난 23年間 25회에 걸쳐 開催되며 韓日間 貿易 및 投資 擴大에 크게 寄與하여 왔습니다. 비록 지난해 日本 미야자키(宮崎)에서 開催된 ‘第30回 韓日・日韓經濟人會議’에서의 合意에 따라 [産業貿易會議]로 統合되지만, 그 役割은 繼續되어야 한다고 생각합니다.

아무쪼록 新設되는 [産業貿易會議]가 그 役割을 이어 받아 보다 큰 寄與를 할 수 있기를 期待하며, 本 報告를 마치고자 합니다.

感謝합니다.

〈全體會議 ①〉

韓日・日韓機械工業委員會 報告

韓日機械工業委員會
委員長 秋 浩 錫

안녕하십니까? 지금 紹介받은 機械工業委員會의 韓國側 委員長을 맡고 있는 大宇重工業(株)의 秋浩錫입니다. 第24回 機械工業委員會의 經過報告를 드리겠습니다.

第24回 機械工業委員會 合同會議는 今年 2月 4日 日本의 東京에서 兩側 委員 55名이 참가한 가운데 개최되었습니다.

이번 會議는 보다 發展的인 會議를 위한 專門委員會의 시스템 再點檢에 兩國이 合意하여 “貿易投資委員會”, “機械工業委員會”, “産業一般委員會”의 3個 專門委員會를 統合한 『産業貿易會議』를 '99年度에 新設키로 함에 따라 마지막 會議로 개최되었습니다.

議題發表는 韓國側에서 基調演說을 포함한 2個의 課題를, 日本側에서도 2個의 課題를 發表하였습니다. 韓國側의 基調發表는 (株)水山重工業 朴柱鐸 會長이 「韓國의 機械産業動向과 展望」에 대하여 發表하였습니다.

IMF體制下에서의 國內景氣 不況에 따른 內需 激減으로 '98年度 機械産業은 生産이 25.5% 減少하였으며 內需는 41.3%, 輸入은 45.7%, 輸出은 3.8%가 減少하였으나, '99年度에는 生産이 5.4%로 小幅 增加할 것으로 豫想되며 內需는 11.6%, 輸出 2.9%, 輸入은 13.5%가 늘어날 것으로 展望되었습니다.

그리고 韓國의 部品産業은 짧은 期間 동안에 刮目할 만한 成長을 하였으나 아직도 生産基盤이 脆弱하며 大企業과 中小企業間 水平的 分業關係가 未洽하여 韓日間 部品 産業協力等 相互 補完的인 協力이 必要하다는 指摘이 있었습니다.

基調報告에 關한 意見交換 및 主題의 設定없이 兩側 委員이 個人立場에서 자유롭게 發言하는 자유 發表에서는 주로 兩國間的 投資協力, 部品協力, 技術協力 등에 대하여 發表되었습니다.

韓國側에서는 部品産業, 技術協力部門에서의 日本企業의 對韓投資擴大를 要請하였고 韓國産 部品の 日本企業 輸入擴大, 技術者 研修 및 日本 退役技術者の 對韓技術指導, 플랜트의 世界市場 共同進出 등에 있어 日本의 協력이 必要하다는 意見이 있었습니다.

日本側에서는 韓國企業이 部品の 品質, 納期, A/S 등에 있어 競爭力을 키우고 中小企業과 大企業間的 系列化 促進에 努力해야 하며 退役技術者の 對韓指導에 대하여 前向의으로 檢討한다는 意見이 있었습니다. 또한 廢棄物과 Y2K問題에 있어서도 韓日 兩國이 協力하자는 意見도 提示되었습니다.

다음으로 「産業貿易會議」의 新設에 關하여 機械工業委員會에서의 意見을 취합하는 것이었는데 日韓經濟協會의 村上弘芳(무라카미) 專務理事로부터 「産業貿易會議 新設經緯」에 대한 說明과 提案이 다음과 같이 있었습니다.

1976年 日本 東京에서 開催된 第8回 韓日民間合同經濟委員會 會議에서 韓日 兩國間的 貿易不均衡이 擴大됨에 따라 이의 是正을 위하여 韓國側에서 “貿易擴大均衡委員會” 設置를 提案하였고 日本側에서는 追後 兩國間的 具體的인 提携를 促進시키기 위한 機構 設立에 同意하였습니다. 이에 따라 1976年 以後 「貿易投資委員會」, 「機械工業委員會」, 「産業一般委員會」가 設立되어 오늘에 이르렀습니다.

冷戰構造 崩壞以後 市場經濟가 全世界로 擴大되고 韓日 兩國의 經濟的 位置가 커짐에 따라 兩國間的 貿易不均衡은 글로벌한 視點에서 對策 및 評價가 必要하다는 認識이 定着되었으며 兩國 各各의 經濟에 대한 現況認識과 共通의 關心事項 및 産業貿易에 關한 專門的인 事項에 대한 「情報・意見交換을 통한 認識公有 圖謀」를 目的으로 上記 3委員會를 統合한 「産業貿易會議」의 新設을 提案하였습니다.

「機械工業委員會」가 이번에 그 歷史的인 使命을 마침에 따라 지금까지의 歷史

를 되돌아봄과 同時에 새로운 會議에 대한 期待에 대하여 韓日 兩側에서 發表가 있었습니다.

日本側의 第2發表는 「機械工業委員會의 總括과 새로운 會議에 대한 期待」에 대하여 石川島播磨(IHI)重工業(株) 日立泰治(히다찌) 囑託께서 發表하셨습니다.

機械工業協力委員會는 19年間 23회에 걸쳐 約 1,100여명의 機械工業 代表가 參席하였으며 機械類의 交易擴大, 資本 및 技術協力, 플랜트 輸出協力, 밋션團 相互 派遣 등 100여건의 主要議題에 대하여 討論・協議하여 많은 成果를 거양하였습니다.

그러나 兩國의 努力에도 不拘하고 貿易逆調가 改善되지 못하였으며 會議가 오랜 期間 經過에 따른 메너리즘에 빠지게 되어 兩國의 相互理解・交流 以外에 成果가 不振함에 따라 새로운 解決策 摸索을 위하여 新會議 設立이 必要하다고 說明하였습니다. 아울러 새로운 會議는 공부・研究하는 研修型 會議運營으로 할 것을 提案하였습니다.

韓國側의 第2發表는 (株)大昊産業 李鉉道 代表理事의 「韓日機械工業協力會議의 成果와 向後 方向」이라는 主題였습니다.

그 동안 23회에 걸쳐 開催된 同會議는 兩國間 機械産業의 交易 擴大, 技術 및 資本 協力, 플랜트의 世界市場 進出協力, 機械産業 情報交流等 많은 成果를 거두었으며 第1回 會議가 開催된 '77年度에 兩國 機械産業의 交易는 約 15億弗에서 '98年度에는 約 72億弗로 機械産業 交易이 4.6倍 伸長되었다고 評價하였습니다.

아울러 新設되는 「韓日産業貿易會議」에서도 그 동안 다져진 兩國 機械産業의 協力기틀이 維持되기를 바라며 兩國 委員들의 持續的인 聲援과 協力を 付託하였습니다.

第24回 機械工業協力委員會는 新會議로 轉換되는 時點에서 兩側의 많은 委員님들이 參加하여 活潑한 意見交換이 있었으며 適切な 時期에 마지막 會議로서 有終의 美를 거두었다고 생각합니다.

앞으로 新設되는 『産業貿易會議』가 兩國의 貿易逆調 改善에 크게 寄與할 것으로 期待하며 「第24回 韓日・日韓機械工業委員會」의 報告를 마치겠습니다.

感謝합니다.

〈全體會議 ①〉

韓日・日韓中堅中小企業委員會 報告

韓日中堅中小企業委員會
委員長 李 源 浩

중견중소기업위원회의 1998년도 활동에 대하여 보고 드리겠습니다.

제17회 중견중소기업위원회 합동회의는 1999년 3월 9일 ~ 3월 10일 兩日間 일본 동경에서 개최되었으며, 한국측에서는 이원호 위원장을 비롯한 17명, 일본측에서는 관노 도시노리 위원장을 비롯한 15명이 참석하였습니다.

이 회의에서 1. 한국과 일본의 중소기업을 둘러싼 환경과 과제, 2. 향후 중견중소기업위원회의 바람직한 방향 등 2가지의 의제에 대하여 발표와 토론이 진행되었습니다.

첫번째 의제에 대하여 일본측에서는 「일본의 중소기업을 둘러싼 환경과 과제」라는 주제로 상공중금의 죠 가쓰도시 조사부장의 기조발표가 있었으며, 한국측에서는 「한국의 중소기업을 둘러싼 환경과 과제」라는 주제로 중소기업연구원의 유재원 선임연구원의 기조발표가 있었습니다.

주제발표 후 양국의 참석위원들과 질의응답 및 자유토론이 진행되었으며, 양국의 경제상황, 중소기업지원정책, 향후 한·일간 중소기업협력방안 등 현실적인 상황에 대하여 폭넓은 토론이 전개되어 양국의 경제 현안과 중소기업의 관련문제를 이해하는데 크게 기여하였습니다.

두번째 의제인 「향후의 중견중소기업위원회의 바람직한 방향」에 대한 토의를 하기 전에 경제인회의의 3개 전문위원회 통합에 관하여 일한경제협회의 무라카미 히로요시 전무이사로부터 경과보고가 있었으며, 이어서 일한산업기술협력재단의 나리파 요스께 상무이사로부터 일한산업기술협력재단의 개요와 사업실적에 대한

보고가 있었습니다.

일한경제협회의 무라카미 히로요시 전무이사는 중견중소기업위원회의 사업 중 연수 및 기술협력 분야를 산업기술재단의 사업으로 흡수할 수 있다면 통합되는 3개의 전문위원회의 진행 방향 등을 보아서 3개 전문위원회와 함께 통합시킬 수 있는 것이 아닌가 하는 의견 발표가 있었습니다.

이에 대하여 한일경제협회 申德鉉 전무이사는 중견중소기업위원회는 양국의 중소기업간의 협력이고 실천계획도 있기 때문에 통합되는 3개의 전문위원회와는 성격이 다르다는 의견을 발표하고, 3개 전문위원회 통합에 관한 협의 시에도 이러한 이유 때문에 통합에서 제외시켰다고 밝히고, 이번 회의에서 논의하는 것은 시간적으로 어려우므로 양국의 사무국과 관계자가 참여하는 실무협의를 통하여 검토하자고 제안하였습니다.

이 의제에 대한 양측의 의견에는 다소 차이가 있었으나, 제17회를 맞이하는 현 시점에서 향후 어떻게 운영할 것인가를 다음 회의시까지 양국 사무국을 통하여 여러 방안을 검토하기로 하였습니다.

또한, 이번 회의를 종료하면서 본인은 한일중견중소기업위원회의 일본측 파트너로서 대기업 그룹이나 정부 관계기관이 아닌 중견중소기업 그룹이 바람직하다는 의견을 덧붙였습니다.

한국측 참석자는 회의 다음날인 3월 10일 일한경제협회의 안내로 중소기업사업단이 운영하고 있는 중소기업대학교 동경교와 벤처 엔터 프라이즈센터를 방문하여 일본의 중소기업연수, 교육 시스템과 벤처기업 지원제도 등에 관하여 설명을 듣고 상호교류 및 협력방안 등에 관하여 의견교환이 있었습니다.

끝으로 이번 회의를 위하여 많은 협조를 해주신 일한경제협회 후지무라 마사야 회장님과 사무국 관계자 여러분, 양측 위원들께 다시 한번 감사말씀 드리며 중견중소기업위원회 활동경과 보고를 마치겠습니다.

감사합니다.

〈全體會議 ①〉

韓日・日韓産業一般委員會 報告

韓日産業一般委員會
委員長 趙 錫 來

韓國側 委員長 趙錫來입니다. 産業一般委員會의 활동상황에 對해 보고 드리겠습니다.

산업일반위원회는 한일 양국간의 공동된 경제문제 가운데 기존의 貿易投資委員會, 機械工業委員會, 中堅中小企業委員會의 3개 위원회 소관 이외의 韓日關係를 둘러싼 중요한 문제에 대해 토의·정보교환 등을 실시하는 것을 목적으로 설치되어 1990년부터 활동을 개시하였습니다.

그 동안 本 委員會에서 다루었던 주요 과제로는 ① 1992年, 「韓日産業技術協力の 方向」, ② 1993年, 「韓日環境問題의 現況과 産業界의 對應」, ③ 1995年, 「投資環境으로써의 韓國의 勞使關係」, ④ 1998年, 「韓國의 投資環境研究」(韓國側) 및 「日韓産業協力の 新展開와 課題」(日本側) 등으로, 韓日 위킹그룹에 의한 共同研究와 個別研究를 해 왔습니다.

以上の 활동 내용에 대해서는 그 동안 本 會議를 통해 매년 보고 드린 바 있으며, 각각의 조사활동 결과에 대해서는 報告書로 제작, 모두 배부해 드린 바 있습니다.

한편 産業一般委員會 合同會議는 '97年 이후 韓國의 IMF사태로 인해 개최되지 못하였지만, 兩側 委員長은 貿易投資委員會, 機械工業委員會, 産業一般委員會를 하나로 統合하여 「韓日産業貿易會議」를 신설하는 것에 대한 것을 문서로 合意, 확인하였습니다.

필요하면 兩國 委員會의 공동 위킹그룹을 편성하여 차분한 事實確認과 對策方

案의 發見에 노력하는 우리의 TASK FORCE 方式을 새로운 産業貿易會議의 활동에도 承繼하는 것을 전제로 생각하고 있습니다.

앞서 一般經過報告에서도 언급되었습시다만, 本 委員會는 그 동안의 활동을 마감하고 시대적 요청에 따라 새롭게 신설되는 「韓日産業貿易會議」를 통하여 활동을 계속해 갈 것인 만큼 앞으로도 여러분의 많은 협력과 지원을 부탁드립니다.

그 동안 本 委員會를 대표하여 활동해 주신 渡里杉一郎 일본측 위원장을 비롯해 韓日 兩國의 모든 위원님과 각종 조사·연구활동에 참여해 주신 TASK FORCE 위원 여러분께 다시 한번 감사의 말씀을 드리며, 이상으로 韓日産業一般委員會 활동에 대한 보고를 마치겠습니다.

감사합니다.

第 1 分 科 會

(貿 易 關 聯 分 野)

〈코디네이터〉

韓國側：李 漢 久 大宇經濟研究所 社長

日本側：麻生 泰 麻生시멘트(株) 社長

〈第 1 分科會 백그라운드 페이퍼〉
(貿易關聯分野)

韓日 自由貿易地帶 創設의 影響과 展望



LG 經濟 研究 院
經濟研究2室長 金道卿

* 이 原稿는 發表者의 指導 아래 李地平 副研究委員과 姜善求 責任研究員이 98年 12月에 執筆한 「韓日 自由貿易地帶 創設의 得失과 示唆點 : LG經濟研究院 이 슈分析 Vol. 37」의 內容을 修正・要約한 것임을 밝혀 드립니다.

I. 韓日 自由貿易地帶 創設의 論議 背景

1. 地域主義의 擴散

지난 50年 동안 締結된 地域統合協定은 모두 163個에 達한다. 그런데 이들 協定 中 절반 가량은 90年代에 들어 既存의 貿易協定을 再整備한 것으로 나타나고 있다. 이는 最近 들어 地域主義가 急速히 擴散되고 있다는 事實을 보여준다. WTO는 地域協定에 關한 條項을 갖고 있기는 하지만, 不分明한 側面이 많기 때문에 地域主義는 域外差別的인 性質에도 不拘하고 WTO의 容認 下에 全世界的으로 擴散되고 있는 것으로 보인다.

各 地域別 經濟統合體를 살펴보면 北美에는 美國, 멕시코, 캐나다가 參加한 北美自由貿易地帶(NAFTA)가 있으며, 南美에는 브라질, 아르헨티나, 파라과이, 우루

과이 등이 參加한 南美共同市場(MERCOSUR)이 있다. 美國은 窮極的으로 全美洲를 統合하는 美洲自由貿易地帶(FTAA)의 形成을 構想하고 있다.

유럽에는 15個 國家들이 參與한 유럽聯合(EU)과 一部 北유럽國家들로 構成된 유럽自由貿易聯合(EFTA)이 유럽經濟地域(EEA)이라는 自由貿易地帶를 形成하고 있다.

아시아에서는 느슨한 形態의 經濟協力體인 亞太經濟協力體(APEC)가 89년부터 創設되어 있으며, 이와는 別途로 東南亞 7個國이 2000年初부터 아세안自由貿易地帶(AFTA)를 出帆시키기로 合意한 바 있다. CIS國家들은 94年 4月 自由貿易地帶를 創設키로 合意한 以來 最近 들어 이를 具體化시키기 위한 實務作業班을 發足시켰다. 이밖에도 中東, 아프리카, 大洋洲 等에도 여러 形態의 地域統合協定이 締結되어 있다. [자료 1]

132개 WTO 會員國 가운데 地域協定을 맺지 않은 나라는 韓國, 日本, 홍콩 等 3個國에 지나지 않는다. 그러나 홍콩은 中國 및 臺灣과 中華經濟圈의 一部라는 利點을 지니고 있다는 點에서 韓國과 日本만이 地域統合을 통한 利益을 積極的으로 實現하지 못하는 狀態에 있다.

現在 WTO는 全世界的인 貿易自由化를 위해 努力하고 있지만, 會員國間에 異見이 存在하고 있으며, 現實의으로도 關稅와 非關稅障壁을 完全히 撤廢하기까지는 적지 않은 時間이 所要되기 때문에 個別 國家의 立場에서는 可視的인 貿易自由化의 成果를 거둘 수 있는 地域統合協定을 選好하고 있다. 一角에서는 地域統合協定(RIAs : Regional Integration Agreements)이 WTO의 內國民待遇 原則에 어긋난다는 反論을 提起하고 있지만, 相當數의 國家들은 自國의 實利追求 次元에서 地域統合協定을 締結하여 域內國間 特惠의인 貿易을 實施하고 있다.

地域統合協定은 會員國間 政治的 意圖가 맞아 떨어져야 成事되는 境遇가 많지만, 本質的으로는 經濟的 利害 增進을 위한 實利追求가 바탕에 깔려 있다고 할 수 있다. 地域統合은 短期的으로는 域內 貿易과 投資를 活性化시키는 效果가 있으며, 長期的으로도 市場 擴大, 競爭 促進, 資源配分の 效率性 提高 等으로 經濟成長率을 높이는 效果를 가져온다.

그럼에도 不拘하고 自由貿易을 指向하는 韓國과 日本은 그 동안 地域協定이 가져오는 政治·經濟的 利益에 無關心한 一面이 있었다. 그러나 90年代 下半期 以後 世界的인 地域主義의 擴散 및 國際金融 不安 속에서 兩國이 어려움에 處하면서 經濟的 實利 擴大를 위한 政策方案의 하나로 自由貿易地帶 創設을 보다 眞摯하게 檢討하고 있다.

2. 韓日 通商政策의 變化

1965年 韓日 國交正常化 以後 兩國의 貿易은 1996년까지 年平均 19%의 놀라운 伸張率을 記錄하였다. 1965년에 2億달러에 不過하던 兩國의 貿易은 1996년에는 472億달러에 達하였다. 그러나 韓國의 經濟危機와 日本의 景氣沈滯로 韓日 貿易은 1997년부터 減少勢로 돌아섰으며, 1998年에도 역시 減少勢를 記錄하였다. 兩國의 經濟의 어려움이 繼續되는 限 이와 같은 趨勢는 當分間 持續될 것으로 豫想된다. [자료 2]

韓日間의 貿易에 있어서 懸案問題는 韓國의 對日 貿易逆調이다. 韓國은 對日 貿易逆調가 發生하는 理由가 日本의 技術移轉 努力이 未洽하기 때문인 것으로 主張하고 있으나, 日本側은 日製 機械類 輸入依存도가 높은 韓國의 産業構造上 韓國이 投資를 늘리면 構造의으로 對日 輸入이 늘어날 수 밖에 없다는 立場을 보이고 있다. 따라서 韓國은 機械産業에서의 對日 輸入依存도를 낮추고 日本市場에 對한 韓國商品의 進出을 擴大하기 爲한 努力을 強化해 왔다. 그러나 中低價製品에서는 ASEAN과 中國에 밀리고 高級製品에서는 日本이나 歐美製品에 밀리는 韓國製品의 特性上, 對日 貿易逆調 問題의 解決이 쉽지 않은 實情이다.

이같은 狀況 下에서도 韓國과 日本은 90年代 들어 世界市場에서 自動車, 鐵鋼, 造船, 半導體, 家電 등의 部門에서 熾烈한 競爭을 展開하고 있다. 그러나 世界的인 디플레이션이 憂慮되고 있는 狀況에서 兩國은 消耗的인 競爭을 抑制하고 産業協力體制를 強化할 必要性이 있다. 더욱이 지난 97年末 韓國經濟가 IMF의 管理體制에 놓임으로써 韓國은 日本으로부터의 資金支援이 切實히 要求되는 狀況에 直面하게 되었고, 이로 因해 韓國과 日本은 通商側面 뿐만 아니라 金融側面에서의 協力도 必要하게 되었다.

이같은 脈絡에서 지난 98年 10月 7日 韓國의 金大中 大統領은 韓日間의 經濟協力を 強化하기 爲해 日本을 公式 訪問하여 ▲經濟閣僚 懇談會 開催 ▲官民 共同經濟協力協議會 設置 ▲民間投資促進協議會 設置 ▲電子·情報通信·科學技術 等 各種 産業分野의 交流視察團 構成 ▲韓日 農業協力委員會의 定期的 開催 等に 合意하였다. 이러한 努力이 結實을 거둔다면 韓日間의 經濟協力は 長期的으로 擴大勢를 回復할 수 있을 것으로 期待된다.

II. 韓日 自由貿易地帶 創設의 影響

1. 政治的인 側面

(1) 肯定的인 影響

韓日 自由貿易地帶가 創設된다면 兩國은 무엇보다도 對外協商力의 伸張을 期待할 수 있다. 過去의 例를 살펴보면 地域統合을 締結하여 보다 큰 市場을 가진 國家들은 國際社會에서 發言權이 強해지는 것으로 나타나고 있다. 美國은 지난 93년에 北美自由貿易協定(NAFTA)을 締結하여 EU의 警戒心を 刺戟하면서 UR協商을 매듭지을 수 있었다.

自由貿易協定 締結은 周邊 地域에도 影響을 줄 것으로 보이는데, 韓日 兩國은 中華經濟圈, 北韓, 러시아 등 東北亞 및 東南亞와의 協調體制를 強化할 수 있을 것으로 豫想된다. 만일 韓日間의 經濟的인 同盟關係를 基礎로 아시아 全體의 協調體制를 強化할 수 있다면 世界經濟 再編이 아시아의 利益에 反하는 方向으로 進行되는 것을 막는데 도움이 될 수 있을 것이다. 韓日 自由貿易地帶 創設은 特히 韓國에는 北韓과의 緊張關係 緩和 效果가 있을 것이며, 日本은 北韓과의 國交 正常化 및 러시아와의 北方領土問題 解決에 큰 도움을 받을 수 있을 것으로 보인다. [자료 3]

(2) 否定的인 要因

그러나 自由貿易協定 締結로 兩國의 産業基盤이 흔들린다면 相對國에 대한 反感이 높아져 兩 國民들 間의 感情的인 對立이 높아지고 兩國間의 各種 協力事業에 否定的인 影響을 미칠 수 있다.

또한 韓國과 日本의 協力 強化는 美國과의 關係에 微妙한 影響을 줄 수 있다. 美國은 韓日 自由貿易地帶 創設에 干涉할 수 있는 立場은 아니지만 만약 韓日間의 協力 強化가 自身의 國益에 否定的인 影響을 미친다고 判斷할 境遇 協商 進行 過程에서 間接的인 壓力이나 迂迴的인 報復을 加할 可能性이 있다.

韓日 自由貿易地帶 創設은 中國, 北韓, 러시아 등의 周邊國들이 이를 肯定的으로 본다면 周邊國과의 關係 強化에 도움을 줄 수 있겠지만, 이를 否定的으로 볼 境遇 周邊國들은 韓日 自由貿易地帶를 敵對的인 同盟으로 看做하여 東北亞의 緊

張이 오히려 높아질 可能性도 있다. 특히 經濟發展을 위해 日本의 資本을 必要로 하는 中國은 韓日間의 密着으로 自身の 立地가 弱화된다고 判斷할 境遇 自由貿易協定 締結을 反對하거나, 홍콩, 臺灣, 그리고 華僑資本과의 結束을 다지기 위한 움직임을 서두를 可能性이 있는 것으로 보인다.

2. 經濟的인 側面

(1) 貿易에 미치는 影響

自由貿易協定 締結을 통한 地域經濟統合이 미치는 影響은 完全競爭市場에서는 ▲貿易創出效果 ▲貿易轉換效果가 있으며, 不完全競爭市場에서는 ▲市場擴大效果 ▲競爭促進效果가 있다.

貿易創出效果는 關稅 및 非關稅障壁 때문에 沮害되어 왔던 潛在的인 貿易機會가 現實化됨으로써 貿易이 擴大되고 經濟的 厚生이 높아지는 것이다. 貿易轉換效果는 域外國 製品의 輸入이 地域內 生産으로 代替되는 것이다.

市場擴大效果는 地域統合에 隨伴되는 市場擴大로 因해 規模의 經濟가 存在하는 寡占産業 등에서 生産 擴大 및 最適立地가 進展되는 것이다. 競爭促進效果는 地域內的 寡占企業間 競爭이 보다 熾烈해지면서 價格支配力이 低下되어 經濟的 厚生에 肯定的인 影響을 미치는 것이다.

以上과 같이 地域統合의 經濟的 效果는 肯定的인 效果和 否定的인 效果가 同時에 發生하기 때문에 이들의 合計가 플러스가 될 것인지 마이너스가 될 것인지는 統合의 形態 및 兩國의 産業構造에 따라 달라질 것으로 보인다. 다만 確實한 點은 韓國企業들이 世界 最高水準의 競爭力을 지닌 日本企業과 競爭을 해야 하는 問題에 直面하게 된다는 점이다.

(2) 産業에 미치는 影響

韓日 貿易構造를 살펴보면 韓國은 食料品, 原料 및 燃料, 纖維, 半導體 集積回路 分野에서 黑字를 보이고 있으며, 日本은 工作機械, 電氣機械, 化學, 金屬, 鐵鋼, 精密機械, 輸送機械 등의 部門에서 黑字를 보이고 있다. 韓國의 全體貿易에서 食料品, 原料 등이 輸入超過品目이고, 電氣機械, 輸送機械 등이 輸出超過品目이라는 點을 參酌해 볼 때 韓國의 對日貿易構造는 韓國의 全體貿易構造와 큰 差異를 보

이고 있다.

各 品目別로 韓日間の 貿易構造를 살펴보면 먼저 韓國은 農産物, 食料品, 原料, 燃料 등에서 有利한 位置에 서 있다고 할 수 있다.

纖維類는 汎用 織物이나 衣類에 있어서는 韓國이 有利하지만, 高級 織物에 있어서는 日本이 有利하다고 볼 수 있다.

鐵鋼分野는 韓國이 日本으로부터 高級鐵鋼材를 輸入하고 있지만, 浦港製鐵이 中低級 鐵鋼材에서 강한 競爭力을 갖고 있기 때문에 韓國이 역시 有利한 位置에 서 있다고 할 수 있다.

化學分野는 韓國企業들이 少品種 大量生産의 利點을 追求해 왔기 때문에 汎用 製品에서는 韓國이 日本에 비해 코스트 면에서 競爭力을 갖고 있다고 할 수 있다. 그러나 尖端化學分野와 精密化學分野에서는 技術이 앞선 日本이 훨씬 有利한 位置에 서 있다고 할 수 있다.

電氣・電子分野는 韓國의 競爭力을 無視할 수 없지만 日本 消費者들의 韓國製品에 대한 이미지가 높지 않기 때문에 日本이 韓國보다 有利하다고 할 수 있다.

半導體分野는 日本과 韓國이 모두 競爭力을 가지고 있지만, DRAM 등 汎用製品에서는 韓國이 有利하며, 非메모리分野 등 尖端製品에서는 日本이 有利한 位置에 서 있다고 볼 수 있다.

自動車는 韓國의 競爭力이 強하기는 하지만 日本과 韓國間에는 技術 隔差와 生産性 隔差가 存在하고 있기 때문에 日本이 有利하다고 볼 수 있다. 특히 韓國은 日本內에서 營業 및 서비스體制를 構築하는데 어려움이 있다는 點을 看過할 수 없다.

韓國과 日本이 모두 競爭力을 갖고 있는 造船分野는 兩國 모두 海外受注에 置重하기 때문에 輸出 및 輸入 擴大效果가 크지 않을 것으로 보인다.

이 밖에 오토바이, 光學機械 등 精密機械, 工作機械, 土木機械, 事務用機器, 內燃機關, 通信機器 關聯部品 등에서는 日本이 韓國보다 有利한 位置에 서 있다고 할 수 있다. [자료 4]

(3) 投資에 미치는 影響

域內統合에 가장 앞서 있는 EU는 投資自由化를 통해 競爭 促進, 資源의 效率的 配分 등의 利點을 享有하면서 成長潛在力이 높아지고 있다. 韓日間の 自由貿易協定이 單純히 關稅 및 非關稅障壁을 撤廢하는 水準을 넘어서 投資自由化 措置

를 포함시킨다면 兩國 企業 및 域外國 企業들의 相互 投資가 늘어나 兩國의 經濟 成長率이 높아질 것으로 보인다. 뿐만 아니라 포트폴리오 投資의 自由化로 인해 國際營業 經驗이 豊富한 日本의 金融機關들과 企業들은 韓國의 金融市場에서 높은 收益率을 거둘 수 있을 것으로 豫想된다.

自由貿易協定 締結과 더불어 韓日 投資協定이 締結된다면 兩國 投資者는 內國 民待遇를 받게 되어 兩國 企業들은 非差別의인 待遇를 받게 된다. 또한 兩國間 規格과 認證의 相互 認定으로 技術障壁의 문턱이 낮아질 것으로 豫想된다.

이와 함께 外國 輸出業體들은 韓日 自由貿易協定 締結로 兩國間 關稅가 撤廢될 境遇 相對的으로 劣勢에 處하게 될 것을 憂慮하여 韓國이나 日本에 直接投資의 形態로 進出할 可能性이 높다.

自由貿易地帶 創設 以後 韓日間 直接投資의 變化를 展望해 보면 兩國 모두 製造業 分野에서는 現地 進出의 메리트가 적기 때문에 큰 幅의 直接投資 增加는 期待하기 어려운 것으로 보인다. 예를 들어 自動車, 半導體, 造船, 鐵鋼 등은 韓國과 日本 모두 供給過剩 狀態에 있기 때문에 直接投資가 늘어날 餘地가 크지 않다. 오히려 流通業과 貿易業, 그리고 서비스業 等에서의 直接投資가 크게 늘어날 것으로 보인다. 韓國은 日本 流通業體와의 提携를 통해 保護障壁이 처져 있던 일본의 시멘트, 鐵鋼 等の 市場에 進出할 수 있을 것으로 보이며, 日本은 韓國 流通業體와의 提携나 獨自의인 流通網 構築으로 韓國의 家電, 自動車 等の 部門에 進出할 수 있을 것으로 豫想된다.

(4) 韓國經濟의 日本經濟에 대한 依存度와 對日逆調 深化 可能性

韓日 自由貿易地帶 創設로 日本企業의 韓國市場 進出 與件이 改善된다면 短期的으로는 日本製品의 對韓輸出이 크게 늘어나 韓國의 대일 무역적자는 더욱 확대 될 가능성이 있다. 특히 發電設備 및 플랜트設備, 機械類 등 尖端製品의 對日 輸入擴大效果가 크게 나타날 것으로 보인다.

만약 韓國經濟의 尖端技術 開發을 위한 産業基盤이 崩壞된다면 日本과 競合關係에 있는 製品을 生産하는 韓國企業들의 淘汰가 이어져 韓國經濟는 生産 및 雇傭이 減少하는 狀況에 處할 可能性이 있다. 특히 幼稚産業段階에 있거나 國家의 保護로 因해 生存할 수 있었던 一部 韓國企業들의 生産基盤은 急激히 崩壞될 可能性이 있다. 實際로 지난 94年 멕시코는 NAFTA 創設로 對美輸出이 크게 늘어날 것으로 期待했지만, 96년까지 對美輸出이 늘어난 멕시코 企業은 50餘個에 不

過해 NAFTA의 效果가 멕시코經濟에 가져다 준 利益은 크지 않았던 것으로 나타났다.

더욱이 日本企業의 系列構造는 系列社의 數와 中小企業과의 紐帶關係 程度 등이 韓國企業의 系列構造보다 堅固한 것으로 나타나고 있기 때문에 韓國企業이 日本市場을 攻略하는 것 보다는 日本企業이 韓國市場을 攻略하는 것이 相對적으로 쉬운 것으로 보인다. 또한 資金 餘力이 큰 日本企業들은 不動産價格 등이 相對적으로 低廉한 韓國에서 流通 및 販賣網을 構築하기가 쉬운 反面, 韓國企業들이 日本內에서 流通網을 構築하기는 어렵다는 점에서 日本보다는 不利한 立場에 서 있다고 할 수 있다.

3. 綜合評價

韓日 自由貿易地帶가 創設되면 兩國은 輸入自由化로 因해 短期的으로는 消費者의 利益이 增大되겠지만, 一部 産業에서는 生産 減少, 技術開發與件 惡化, 失業增加 등의 副作用에 直面할 것으로 豫想된다. 따라서 韓日 自由貿易地帶 創設의 成功 與否는 이들 副作用을 얼마나 最小化하는 方向으로 이루어지느냐가 關鍵이라고 할 수 있다.

現在 韓國과 日本은 重化學工業 分野에서는 熾烈한 競爭과 部分的인 相互 協調關係에 있다. 向後的 國際競爭力이 規模의 經濟性과 技術集約性에 있다고 볼 때 地理적으로 近接한 韓日 兩國間의 通商障壁이 없어지면 많은 分野에서 特化現象이 나타날 것으로 보인다.

現時點에서 判斷해 볼 때 半導體 DRAM, 中低價 家電製品, 中低價 自動車, 汎用 石油化學製品, 中低級 鐵鋼材, 一般 纖維類 分野에서 韓國의 特化現象이 深해지는 한편, 情報通信, 高級 自動車, 精密化學, 非메모리 半導體, 尖端 素材, 機械類 分野에서는 日本이 特化할 可能性이 높다. 그러나 韓國도 一部 尖端技術 分野에서 相當한 成果를 보이고 있으므로 動態적으로 볼 때 兩國의 競爭은 더욱 熾烈해질 것으로 보인다.

한편 自由貿易協商과 關聯하여 勞動力의 自由移動이 許容될 것인가는 兩國의 産業에 相當한 影響을 미칠 可能性이 있다. 韓國의 勞動力이 日本으로 移住할 境遇 日本의 勞動市場은 一時的으로 攪亂效果가 있겠지만, 優秀하고도 값싼 勞動力을 쉽게 求할 수 있어서 勞動部門의 競爭力 強化가 豫想된다. 反面에 韓國側 으로서는 많은 投資를 통해 키워왔던 勞動力을 日本에 빼앗기게 되므로 相當한

損失을 입을 可能性도 있다. 따라서 自由貿易地帶 創設 以後에도 한 동안은 兩國間 勞動의 移動에 制限이 加해질 可能性이 높다고 할 수 있다.

이러한 點들을 考慮해 볼 때 韓日 自由貿易地帶의 創設은 兩國이 産業構造調整을 加速化하면서 漸進的으로 推進하는 것이 바람직할 것으로 보인다. [자료 5]

Ⅲ. 韓日 自由貿易地帶 創設 展望

1. 韓國의 立場

韓國의 立場에서 볼 때 日本은 地理的으로 가깝지만 國民感情이 좋지 않은데다가 對日貿易逆調에 시달리고 있으며, 産業의 相互補完性도 크지 않기 때문에 過去에는 日本과의 自由貿易地帶 創設에 否定的인 見解를 보여 왔다. 오히려 韓國은 自由貿易地帶 創設의 有望 對象國으로 濠洲, 뉴질랜드 등을 舉論해 왔다.

그러나 最近 들어 韓國政府는 世界的으로 擴散되고 있는 地域主義에 對應하기爲해 自由貿易地帶 創設을 보다 肯定的인 姿勢로 받아들이고 있는 것으로 보인다. 이의 一環으로 韓國政府는 南美的 칠레와 自由貿易協定 締結을 推進 中에 있다. 이는 韓國政府가 日本이나 美國과 같은 經濟大國과의 自由貿易協定 締結에 앞서 韓國과 相互補完的인 經濟關係를 유지하고 있는 나라와 試驗的으로 自由貿易地帶를 運用해 보고자 하는 意圖에서 나온 것으로 把握된다.

또한 韓國民들은 아시아 通貨危機를 契機로 아시아 域內 協力の 重要性을 認識하게 되었으며, 그 동안 消極적이었던 아시아 域內 金融協力에도 많은 關心을 갖게 되었다. 즉 韓國의 一角에서는 地理的으로 隣接한 韓國과 日本의 産業이 相互 利益을 創出하는 方向으로 分業構造를 再編할 境遇 規模의 經濟 擴大와 함께 新規市場 創出效果나 經濟的 厚生擴大 效果가 있을 것으로 보고 있는 것이다. 뿐만 아니라 日本企業과 日本資金을 積極 誘致하는 것이 韓國經濟의 先進化에 貢獻한다는 事實을 認定하기 始作한 것이다.

그러나 韓國의 또 다른 一角에서는 日製 資本財 및 部品, 그리고 技術에 對한 依存度가 가뜰이나 높은 狀態에서 自由貿易協定 締結에 의해 日本企業과 全面的으로 競爭하게 될 境遇, 對日貿易逆調의 深化와 尖端産業의 沈滯, 落後産業으로의 特化 등과 같은 副作用을 深刻하게 憂慮하고 있다는 事實을 看過해서는 안 된다.

2. 日本의 立場

韓日 自由貿易地帶 創設은 지난 98年 11月 13日 日本 通産省長官이 提案했지만, 이것이 政府次元의 公式的인 提案인지 個人的인 意見인지는 確實하지 않다. 또한 日本政府가 韓日 自由貿易地帶 創設 問題에 대해 어느 程度의 檢討와 研究를 進行시켜 왔는지 아직 不分明하다. 韓國과 日本은 兩國 次元의 經濟協力보다는 環日本海經濟圈(環東海經濟圈) 構想 等 東北亞 全體의 經濟協力에 關心이 많았기 때문이다. 個人的인 見解로는 日本政府는 世界的인 通商戰略 構想, 円貨 國際化, 아시아經濟의 安定化 等を 위해 韓日間의 經濟同盟에 關心을 갖고 있는 것으로 보이지만, 政界, 財界, 官界 모두가 韓日 自由貿易地帶 創設에 대한 共感帶를 形成하고 있는 것은 아닌 것으로 보인다.

그렇지만 日本으로서는 아시아通貨基金(AMF) 構想이나 기타 아시아 次元에서의 協力問題에 대해 다소 消極的인 態度를 보여 온 韓國과의 經濟的 同盟關係를 強化시킬 境遇, 아시아에서 보다 有利한 立場에 설 수 있다고 생각하는 것 같다. 日本으로서는 韓國과의 關係 強化를 통해 아시아의 中心國家로서 基盤을 다질 境遇, 世界的인 次元의 通商協商에서도 有利할 것으로 判斷하고 있는 것으로 보인다.

또한 2000年代를 바라보고 있는 지금 世界經濟는 美國으로의 資金集中 現象과 日本의 金融不實化로 資本主義體制의 矛盾과 不安定性이 高潮되어 왔다는 點에서 日本政府는 아시아를 中心으로 獨自的인 國際金融仲介 能力을 提高시킬 必要가 있으며, 이 境遇에도 韓國과의 協力이 必要한 것으로 判斷하는 것 같다.

3. 創設 展望

(1) 合意의 前提條件

韓日 自由貿易地帶가 創設되기 위해서는 다음과 같은 네 가지 條件이 充足되어야 한다.

첫째, 어느 한 國家라도 經濟的 利益이 損傷되어서는 안 된다.

둘째, 貿易自由化에 따른 全面的인 競爭을 避하고 均衡있는 競爭秩序를 構築하기 爲해서라도 主要 産業分野의 協力體制을 強化할 必要가 있다.

셋째, 兩國 企業間의 資本 및 技術交流를 바탕으로 한 分業體制을 強化시키면

서 漸次的으로 相互 市場開放化를 이룬 다음에 完全한 貿易自由化로 移行하는 段階的 接近이 必要하다.

넷째, 國民的인 合意가 前提되어야 한다.

自由貿易地帶를 創設하기 위해서는 兩國 政府가 個別産業 次元에서의 利害와 國家 全體的인 利害를 調整해야 하는 負擔을 안게 된다. 따라서 韓日 兩國은 이러한 어려움을 克服하면서도 서로 利益이 되고 國民들의 所得을 實質的으로 擴大시킬 수 있는 協力方案을 찾는 것이 重要하다. 準備가 未備한 狀態에서 自由貿易協定이 締結될 境遇, 兩國 모두의 利益이 增進되기 보다는 無差別的인 相互 輸出攻勢가 敢行되어, 각자 脆弱한 産業에 미치는 惡影響이 클 것으로 보인다. 이러한 狀況이 現實化된다면 國民들의 抵抗과 相對國에 대한 感情이 惡化되어 自由貿易地帶는 오래 持續할 수 없게 된다.

韓日 經濟協力을 어렵게 하는 理由 中の 하나가 韓國이 日本技術에 대한 依存度 深化를 憂慮하고 있기 때문이라는 點을 勘案할 때 兩國間의 實質的인 技術協力關係가 隨伴되어야만 眞情한 産業協力과 經濟的 同盟關係가 이루어질 수 있다고 할 수 있다. 自由貿易地帶의 創設로 한 나라가 다른 나라에 隸屬되는 結果를 가져온다면 이 역시 長期的인 協力을 期待할 수 없는 結果를 낳게 될 것이다.

(2) 展 望

① 短期 展望

自由貿易地帶 創設을 위해서는 검토해야 할 요인들이 많고 합의도출이 쉽지 않은 사안도 있기 때문에 韓日 自由貿易地帶가 短時日 內에 實現될 可能性은 낮은 것으로 보인다. 그렇지만 韓日 自由貿易地帶 創設을 위한 論議는 보나 可視化될 것으로 보이며, 兩國 政府와 財界間의 協力도 強化될 것으로 보인다. 특히 韓國은 企業의 過度한 債務 縮小, 外資 誘致, 金融市場 安定化, 信用 提高를 爲해 日本과의 協調가 切實한 立場에 處해 있다.

이러한 意味에서 韓日 自由貿易協定の 締結에 앞서 韓日 投資協定이 먼저 締結될 可能性도 있다. 또한 自由貿易協定 締結을 前提로 하지 않더라도 自由貿易協定 締結에 관한 論議를 交換하기 위한 全擔機構가 發足될 可能性이 있다. 이 全擔機構가 兩國間의 多樣한 問題를 檢討하고 通商紛爭이나 兩國의 地域開發 프로

젝트 등을連結시킨다면 自由貿易地帶 創設에 앞서 兩國의 經濟關係가 더욱 緊密해질 것으로 보인다.

② 中長期 展望

中長期的으로 韓日 自由貿易地帶가 創設될 것인가는 아직 斷定하기 힘들다. 이는 協商過程에서 兩國의 利害關係가 얼마나 一致되는가에 달려 있다. 더욱이 美國 等 周邊國들이 韓日 自由貿易地帶를 贊成할 것 인가도 不分明하며, 北韓이 어떻게 될 것 인가도 主要 變數의 하나로 登場할 可能性이 있다. 따라서 個人的인 견해로는 韓日 自由貿易地帶가 創設될 可能性과 創設되지 않을 可能性은 各各 50%씩 이라고 생각된다.

만일 韓日 自由貿易地帶 創設이 決定될 境遇 地域統合體 中에서는 가장 낮은 段階로 出發할 것으로 보인다. 이는 域外 地域에 對한 統一的인 關稅政策이 없으며, 勞動의 移動에도 制約이 加해지며, 稅制 및 各種 經濟政策도 各 政府의 自律에 맡기는 形態가 될 것으로 보인다. 韓日間의 賃金隔差 때문에 勞動 移動을 自由化할 境遇, 日本의 勞動市場이 動搖할 可能性이 있다.

協商過程에서 論議될 關稅 撤廢 및 縮小 品目에는 APEC에서 選定한 早期 自由化部門(EVSL : Early Voluntary Sectoral Liberalization)이 主要 對象으로 登場할 것으로 豫想된다. 農産物, 林産物 等 兩國에 敏感한 品目들은 早期 輸入自由化 對象에 包含되지 않을 것으로 보인다.

韓日 自由貿易地帶가 어떠한 時間表에 의해 創設될 것인지를 展望하기는 힘들지만 99년부터 檢討作業에 들어간다는 것을 前提로 한다면 個人的인 見解로는 大略 2014년까지 4단계로 나누어 進行시키는 方案을 考慮해 볼 수 있다.

▲ 第1段階 (可能性 檢討期 : 1999年~2000年)

: 各界의 意見을 收斂하면서 韓日 自由貿易地帶 創設이 가져올 影響을 研究하는 한편, 協定締結을 爲한 前提條件에 對한 兩國間의 合意 導出

▲ 第2段階 (協定 締結 및 制度 補完期 : 2001年~2003年)

: 自由貿易地帶 創設을 위한 各種 前提條件을 充足시키면서 協定案에 最終的으로 合意

▲ 第3段階 (關稅 및 非關稅 障壁 段階的 除去期 : 2004年~2013年)

: 合意된 範圍와 時間表에 따라 經濟制度의 自由化 措置를 段階的으로 實行

▲ 第4段階(새로운 關係強化 摸索期：2014年 以後)

：通商，産業，投資，技術，金融 等の 모든 分野에서 成熟된 韓日 經濟協力體制 構築

韓日 自由貿易地帶가 創設될지는 아직 確信할 수 없지만, 兩國이 經濟協力を 착실하게 強化해 나가면서 實質的인 經濟的 成果와 國際社會에서의 位相 強化에 成功한다면 實質的인 經濟統合 關係로 發展할 可能性이 크다고 할 수 있다. 이를 통해 韓日 自由貿易地帶가 形成된다면, 中華經濟圈, 北韓, 러시아 等を 包含하는 東北亞 自由貿易地帶를 推進하는 것도 可能하리라고 본다. [자료 6]

IV. 示唆点

現在 韓國과 日本經濟는 戰後 類例없는 景氣不況을 겪고 있는데다가 金融不安까지 겹쳐 매우 어려운 狀況에 놓여 있다. 兩國이 이러한 危機를 打開하고 萎縮된 아시아經濟를 再建하기 위해서는 緊密한 協力關係 構築이 必要하다. 따라서 지금은 兩國間의 信賴關係를 持續的으로 強化하면서 相互互惠的인 協力 擴大에 注力해 나가야 할 時點이라고 할 수 있다.

이러한 意味에서 韓日 自由貿易地帶 創設은 바람직한 代案의 하나라고 할 수 있다. 그러나 兩國은 産業發展段階와 産業構造가 다르기 때문에 自由貿易地帶 創設을 서두르기보다는 充分한 時間을 갖고 否定的인 面을 事前에 除去한 후 段階的으로 推進하는 것이 百年大計를 위해 바람직할 것으로 보인다. 이를 위해서는 協定 締結이 政府의 一方的인 日程에 이끌리기보다는 兩國 企業人들과 專門家들의 意見을 充分히 反映한 후 이루어져야 한다. 그리고 貿易自由化가 投資 및 技術協력과 連繫性を 가지고 이루어져야 한다.

韓日 自由貿易協定 創設時에는 關稅障壁의 撤廢 以外에도 非關稅障壁 및 文化的 障壁 등이 重要な 關心事가 될 것으로 보이므로 이들 事項에 대한 論議도 關稅撤廢 못지 않게 重要하게 다루어야 할 것이다. 나아가 金融部門에서의 協力에도 積極 나서야 한다. 이를 위해서는 円貨 및 元貨의 相互 決済通貨 活用 認定, 中央銀行間의 通貨스왑體制 強化, 通貨價值 安定化를 目的으로 하는 韓日 通貨金融協力基金 造成 等の 協力體制도 構築되어야 한다.

韓日 自由貿易協定 締結을 爲한 論議時에는 NAFTA協商 等 다른 나라들의 自

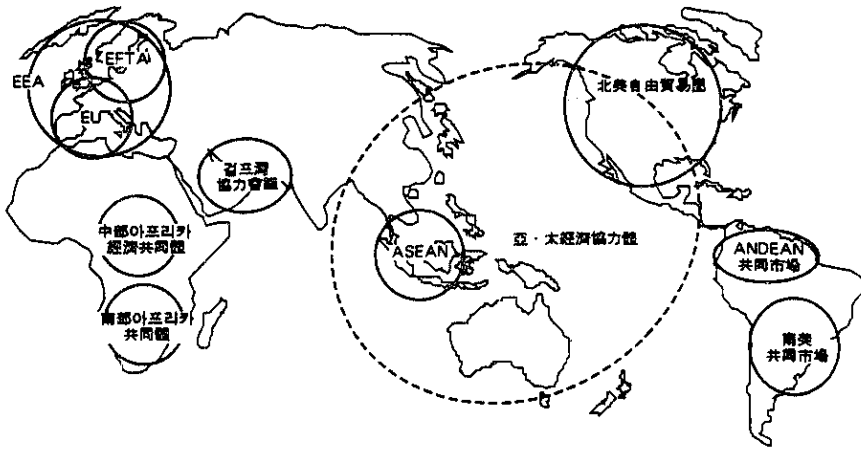
由貿易協商이 어떻게 進行됐는지를 綿密하게 살펴 볼 必要가 있다. 美國은 當時 反對意見이 深했던 農業, 勞動, 環境問題 等に 對해서는 附屬協定을 締結하여 國內에 미치는 影響을 最小化하였고, 特定 部門에 對해서는 履行期間을 20年으로 두는 境遇도 있었다. 韓國과 日本도 敏感한 事案에 對해서는 協定內容에 充分한 猶豫期間을 갖도록 할 必要가 있다.

또한 協商을 進行하는 동안 美國, 中國, 北韓 等 隣接國들이 韓日間의 密着에 對해 지나친 警戒心이나 反感을 갖지 않도록 外交 및 通商 側面에서 事前에 注意를 기울이는 것이 바람직하다. 이를 위해서는 韓日 自由貿易地帶 創設이 汎아시아 次元의 利益 增進에 도움이 되는 方向으로 이루어져야 할 것이다. 즉 韓國과 日本은 兩國만을 위한 自由貿易地帶 創設에 滿足해서는 안되며, 아시아地域 全體의 發展을 위해 努力해야 할 것이다.

마지막으로 韓日 財界는 韓日 自由貿易地帶 創設에 앞서 産業協力을 통한 分業關係를 高度化하고, 資本交流 및 技術交流 側面에서도 信賴關係를 蓄積해 나가야 한다. 韓日 財界는 이러한 相互利益을 바탕으로 政策이 實效性을 가질 수 있도록 兩國 政府에 대한 支援을 아끼지 말아야 할 것이다.

[자료 1]

世界の主要 経済圏 現況



[자료 2]

韓國의 對日交易 推移

(單位: 億달러, %)

	1980	1990	1996	1997	98
輸出	30	126	157	147	122
輸入	58	185	314	279	168
貿易收支	-28	-59	-156	-131	-46
韓・日貿易(A)	88	312	472	427	291
總對外貿易(B)	397	1,348	2,800	2,808	2,256
韓・日貿易比重(A/B)	22.4	23.1	16.9	15.2	12.9

資料: KOTRA, KOTIS

[자료 3]

韓・日 自由貿易地帶 創設에 對한 政治的 考慮事項

- | | |
|----------------|---|
| 對外協商力 | - 韓・日 共同의 立場 確立으로 其他 勢力에 對한 通商協商力 強化 可能性 |
| 反日 感情 | - 國民들이 經濟的 實益을 떠나 韓・日 經濟協力에 否定的 視角을 갖게 될 可能性
- 韓・日 自由貿易協定 締結로 相對的으로 不利益을 받게 될 勢力의 抵抗 |
| 韓半島 政勢에 미치는 影響 | - 韓・日 資本의 東北亞 進出으로 北韓의 開放 促進
- 韓半島 및 東北亞의 緊張 緩和 |
| 英國의 視角 | - 英國의 牽制의 立場과 地域經濟安定化 效果에 對한 判斷 與否 |

[자료 4]

韓·日 自由貿易地帶 設置에 따른 産業別 影響

韓國	日本
食料品	- 農産物 輸出 擴大 - 加工食品 輸出 擴大
原料	- 棉油 等 輸出 擴大
纖維	- 高級 패션衣類 輸出 擴大
家電	- 情報家電 等 新製品 輸出 擴大 - 高級 音響·映像 機器 輸出 擴大
半導體	- 注文型 半導體 等 高附加價值 製品 輸出 擴大
化學	- 情報化學, 醫藥品 等 高附加價值 分野 輸出 擴大
鐵鋼	- 高級鐵鋼材 輸出 擴大
自動車	- 販賣據點을 爲한 日本企業投資 擴大
一般機械類	- 工作機械, 纖維機械, 土木機械 等 多様な 品目에서 輸出 擴大

註: 現在 時點에서 關稅 및 關稅障壁 側面에서 兩國間 貿易이 完全 自由化되었을 場合인.

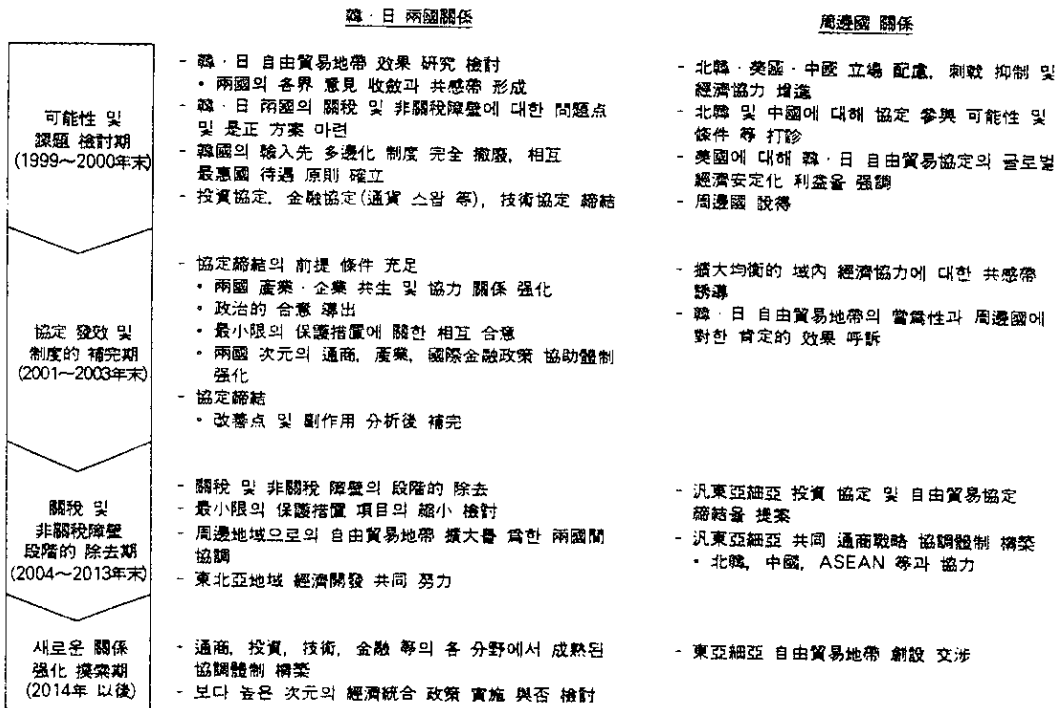
[자료 5]

韓·日 自由貿易地帶 設置의 效果

政治的 側面	<ul style="list-style-type: none"> - 對外的인 通商協定力 擴大 - 北韓·中國의 協調時 東北亞 緊張 緩和 - Asian Standard 有利化 - 國家信託度 提高 	<ul style="list-style-type: none"> - 美國의 牽制와 通商報復 可能性 - 北韓·中國을 刺激, 이들의 協助가 없을 場合 東北亞의 緊張 高潮
貿易	<ul style="list-style-type: none"> - 纖維, 農産物, 半導體 集積回路, 家電, 凡用 化學製品, 鐵鋼材, 雜製品 等의 對日 輸出 擴大 效果 - 非關稅 障壁, 日本 消費者의 韓國 製品에 對한 이미지 等이 限界 	<ul style="list-style-type: none"> - 日本은 一般機械, 自動車, 高附加價值 化學製品, 情報家電, 發展設備 等 高附加價值 製品이나 新製品의 輸出 擴大 - 韓國은 低附加價值 分野 特化現象 深化로 次世代 有望産業 育成에 負擔
經濟的 側面	<ul style="list-style-type: none"> - 對日投資 誘致 效果와 日本 및 韓國市場을 겨냥한 域外投資 擴大 效果 發生 - 韓·日間 産業協力과 構造調整 促進 效果 	<ul style="list-style-type: none"> - 外國人 投資企業 擴大와 함께 一部 國內企業 淘汰 - 投資擴大로 門貨 및 通貨換率의 強勢 壓迫 直面
投資		
綜合的인 評價	<ul style="list-style-type: none"> - 韓·日 産業競爭力 隔差, 非關稅 貿易障壁 等을 考慮해서 關稅 引下 等의 自由化 措置를 段階的으로 實施하지 못할 場合 韓國産業에 及지 않은 被害가 豫想됨. - 周邊國과 美國을 刺激하지 않도록 留意해 韓國의 産業育成 環境과 日本의 農業保護 等의 擔當措置를 講究하면서 相互 貿易擴大 및 對外協定力 提高 等의 利點을 極大化할 수 있는 方向으로 韓·日 自由貿易地帶을 設置하는 것이 有利함. 	

[자료 6]

韓·日 自由貿易地帶의 段階別 實踐計劃 試案



註: 各種 前提條件의 充足과 함께 韓·日 自由貿易地帶의 創設이 決定될 때의 試案임.

韓國側 백그라운드 페이퍼에 대한 自由討論

李 漢 久 韓國側 코디네이터

이 발표는 어디까지나 김도경 박사님 개인의 의견을 정리한 것입니다. 그렇지만 여기서 나오는 여러 가지 효과 분석이나 부작용을 설명한 부분은 한국측 입장에 서서 진행이 되었다는 점을 일본측 단원 여러분께서는 양해해 주시기 바랍니다. 그리고 지금 설명이 있었습니다만, 이 자유무역협정 체결에는 정부만의 스케줄에 따른 추진으로는 될 일이 아니고 산업계에서 충분히 실무적으로 백업을 해주어야 제대로 효과를 발휘한다고 하는 점을 강조했고, 또 자유무역협정 내용 중에는 관세장벽 철폐 이외에 사실은 특히 한국과 일본간의 거래에 있어서는 많은 작용을 하고 있는 비관세장벽을 어떻게 정리해 내느냐 하는 것이 매우 중요한 내용이 될 수밖에 없다는 점을 지적해 주셨습니다.

그리고 금융의 중요성을 많이 강조하셨습니다. 특히 이것은 일본측의 엔화가 어떻게 아시아지역 전반적으로 잘 받아들여 질 수 있는가, 소위 말하는 엔의 국제화와 매우 밀접한 관련이 있는 부분이 되겠습니다. 그리고 또 한가지 여기서는 충분히 언급이 안되었습니만, 사실은 양국 국민간의 감정 내지는 과거의 역사라는 것이 있기 때문에 이것을 극복하는 것이 매우 중요하다, 그래서 지난번에 우리 한국의 金大中 대통령이 일본을 방문한 후에도 매우 열심히 추진하고 있는 정책 중의 하나가 한일간의 문화 교류를 얼마나 촉진시킬 것인가 하는 데에 지금 많은 노력이 기울여지고 있습니다. 그래서 그 노력하는 결과가 한일 자유무역협정 체결에도 매우 중요한 의미를 가질 것이라는 점이 시사되어야 할 것으로 생각합니다.

그리고 또 한가지 염두에 두어야 될 부분은 역시 노동과 환경문제, 농업문제 등 과거 미국과 멕시코간에 자유무역협정이 체결되었을 때 가장 풀기 어려웠던 매우 정치적으로 민감한 분야에 관계해서 양국이 몇 가지 특별한 경과조치를 두고 지나가야 할 것이다 라는 점을 지적하셨습니다. 그래서 이 지적이 상당한 설득력을 갖고 있다 라는 생각이 듭니다.

또 하나는 역시 한일 양국간에만 합의된다고 되는 일이 아니고 아마도 미국이나 중국에서 오해가 있어서는 안되겠다 하는 점을 강조했기 때문에 별도의 외교적인 노력이 결들여져야 될 문제다 라는 점이 눈길을 끌었습니다. 그러나 역시 여러 가지 어려움이 있음에도 불구하고 양국 모두다 그야말로 환골탈퇴 해야 되는 시기를 맞고 있고, 또 마침 그러한 측면에서는 서로 이해가 합치되고 있고 능력이 있기 때문에 우리는 아마 재계를 중심으로 해서 이것을 제대로 추진해 낼 수 있지 않을까, 그것을 하기 위해서는 체결되기 전이라도 자본교류나 기술교류 측면에서 과거보다 훨씬 나은 신뢰관계를 구축해야 할 필요가 있겠다 라는 것을 새삼 느낀다고 말씀을 드리고 싶습니다.

그럼 일본측 코디네이터이신 아소 사장님께 코멘트를 부탁드립니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

김도경 실장님 대단히 감사합니다. 한일 자유무역지대 창설이라고 하는 것은 특히 일본도 거품경제라고 하는 여러 가지 힘든 상황을 겪었고 이런 힘든 상황에 한국과 같이 이런 구상을 추진해 나가자고 하는 내용이 金大中 대통령의 방일 이후에 중요한 관심사가 되고 있습니다. 여러 가지 말씀하셨던 것처럼 여러 부분에 대한 배려, 양국간에는 시간을 두고서 진행한다든지 미국과 중국에도 배려를 해 나갈 필요가 있다 라는 등 이러한 배경을 시사하시면서 지금까지는 볼 수 없었던 한일 자유무역지대라고 하는 구상을 앞으로의 어떤 의제가 되는 배경에 대해서 충분히 설명을 해 주신 것 같습니다. 일본측에서도 이 내용을 바탕으로 해서 여러 가지 의견 내지는 코멘트를 해 나갈 수 있었으면 합니다. 대단히 감사합니다.

李 漢 久 韓國側 코디네이터

그럼 지금부터 자유토론을 시작하겠습니다. 한국측으로부터 『한일 자유무역지대 창설의 영향과 전망』에 대해서 발표가 있었습니다만, 이 발표를 베이스로 여러분의 의견을 듣고자 합니다. 서두에서 말씀드린 바와 같이 발표테마를 중심으로 자유스럽게 의견을 개진해 주셔도 좋고 반드시 이것에 한정할 필요는 없습니다. 사무국에서 마이크가 준비되어 있으니 회사명과 성명을 말씀하신 후에 의견을 말씀하시면 되겠습니다. 어느 분이 먼저 하시겠습니까?

저는 아태기업자문의 이윤호 대표입니다. 방금 발표문도 잘 들었고, 코디네이터의 코멘트도 감명 깊게 잘 들었습니다. 제가 조금 전의 발표문을 근거로 해서 말씀드리자면, 아시아지역에서의 한일 자유무역지대 창설에 대해서 언급을 할까 합니다. 아시아 지역에서 자유무역지대 창설은 한일 양국의 상호협력과 이익의 증대를 위해서는 절대적으로 필요한 것은 제가 인정합니다. 제 사건입니다만, 조금 전에도 지적해 주셨던 것과 같이 만일 한일 양국의 자유무역협정에 반대를 할 경우에 한국과 일본을 제외한 다른 아시아 국가들이 지금까지 쌓아온 경제협력이 악화될 위험이 있기 때문에 이 부분은 상당히 정치적으로나 경제적으로 상호이익 영향을 엄격하게 따져서 단기적으로는 한국과 일본의 경제협력이 강화될 수 있겠습니다만 장기적으로는 중국이라든가 다른 아시아 국가들이 더 많기 때문에 그 부분은 철저하게 검토가 되어야 하지 않을까 생각을 해 봅니다.

그 다음으로는 한일경제인회의를 지도 여러 번 참석을 했습니다만, 항상 한국과 일본간은 필수적으로 산업협력의 동반자라는 얘기를 여러 차례 듣고 있습니다. 하지만 실질적으로 어떻게 하면 어떤 한 분야라도 협력을 강화하기 위해서 실질적인 방안을 한가지 제안하고자 합니다. 제 개인적인 생각입니다만, 저는 외국과의 무역 투자 분야에 한 15년간 자문해 오면서 느낀 점을 말씀드리겠습니다.

한국과 일본간에는 수출과 수입 면에서 상호 경합되는 품목이 상당히 많습니다. 한국과 일본은 이러한 한일경제인회의를 통해서 항상 동반자라고 말씀하고 계시지만 실제로 비즈니스에서는 경쟁자입니다. 한국과 일본의 경합품목의 수출 현황을 보면 해외시장에서 양국간 수출경합이 치열한 품목이 보통 24개 품목 정도 됩니다. 그 중에서 전기·전자분야가 특히 심해서 15개정도 품목이 됩니다.

예를 들면 자동차 분야, 선박 분야, 산업용 전자, 전자 중에서 컴퓨터, 유무선 통신기기, 가정용 전자, TV, VCR, 음향기기, 전자부품, 반도체, 철강, 타이어 등 한국과 일본의 산업비중이 상당히 큰 부분에 있어서 경합이 치열합니다. 이런 부분을 어떻게든 해소를 하지 않으면 진정한 협력의 동반자가 되기는 어렵지 않을까 생각합니다. 그래서 그런 부분은 추후에 다시 전문적인 연구를 통해서 어떻게 하면 실질적으로 한국과 일본의 산업부문에 있어서 경합부문을 해소할 것인지 전문가의 연구가 있었으면 좋겠습니다.

이상입니다.

李 漢 久 韓國側 코디네이터

감사합니다. 그러면 반드시 제안할 필요는 없습니다만, 혹시 이번에는 일본측 참가자로부터 코멘트가 있으시면 부탁을 드리겠습니다.

三好 正也 (社)經濟團體聯合會 參與

정단련의 미요시라고 합니다. 앞서서 이한구 사장님도 말씀을 하셨습니다만, 자유무역지대, 관세 등이 가맹국에게 이익을 준다는 것, 이것은 이론적으로는 맞는 얘기입니다. 지금부터 30년 정도전에 저는 유럽공동체가 어떻게 진행되었는가를 산업차원에서 어떻게 통합이 이루어지는가에 대한 논문을 썼었습니다. 지금부터 30년 전이기 때문에 유럽이 아직 EC라는 형태로 형성되었을 때였습니다.

프랑스의 유명한 경제학자가 대시장이론이라는 것을 전개했던 적이 있습니다. 대시장이론이라는 것은 나라가 따로따로 분리되어 있고 그 국내시장을 상대로 산업활동이 이루어지는 것보다는 그것이 3~4개 또는 5~6개 국가들이 합쳐져서 거대시장이 형성되어 관세장벽 등이 해소된다면 수요가 역내 안에서 상당히 높아질 것이라는 점, 그리고 경쟁이 치열하게 되지만 전체적으로 보았을 때 철강, 조선 등 역내수요가 고조되기 때문에 이익이 그만큼 증대될 것이다 라는 것이 이 시장이론의 골격입니다. 대시장을 만들기 위해서는 세 가지 이론이 있는데 그 하나는 정부가 계획을 해서, 어떻게 관세를 인하하면 얼마만큼의 니즈가 창조될 것인가를 계산해서 이 나라의 철강은 이만큼의 효율이 있기 때문에 이쪽으로 이전을 하면 되겠다 라는 계획을 세운다는 것입니다. 그 반대로는 정부가 전혀 개입을 하지 않고 철저하게 경쟁시장을 강화해 나간다 라고 하는 것입니다. 경쟁을 통해서 효율이 나쁜 것은 퇴출시키고 효율이 좋은 쪽에 집중시킨다는 방법으로 산업의 재편을 이용한다는 양쪽의 극단적인 경우가 되겠습니다. 그리고 그 중간에 관계업계가 모여서 경우에 따라서는 적절한 규모를 유지하는 이 세 가지 이론을 제기한 바가 있었습니다.

저도 앞서 김실장님으로부터 아주 훌륭한 논문을 소개받았는데 이와 관련해서 질문하고 싶은 것은 이 자유무역지대는 시간을 두고 진행시켜야 한다고 하는 이한구 사장님의 말씀에 전적으로 동감을 합니다. 그래서 정부의 관여는 어떻게 해 나갈 것인가, 아니면 카르텔 차원에서 같은 업계의 사람들이 모여서 장래의 미래를 그려나가는, 그리고 공감대를 형성해 나가는 그러한 작업이 필요할 것인

가, 그리고 아무것도 하지 않고서 곧바로 관세 등을 제거해서 경쟁조건을 형성해서 진행할 것인가, EC라든지 지금은 EU가 되었습니다만, 유럽공동체가 어떤 프로세스를 거쳐서 진행되었었는가 라는 것을 지난 30년간 계속해서 지켜보았습니다만, 역시 세계적인 추세는 경쟁을 중심으로 해서 진행되어 오지 않았나 하는 인상을 받았습니다. 그렇지만 EU 각국 중에서도 프랑스라든지 이탈리아, 스페인 등에서는 약간 뒤쳐진 나라라고 할까요, 아니면 카르텔 같은 그런 체질을 가진 국가들에서는 업계들의 목소리가 상당히 반영되었고, 그것을 어떤 차원에서는 경쟁과 서로 조화를 이루었던 역사를 갖고 있습니다.

그리고 한국과 일본의 관계는 최근에 보다 더 긴밀해 지고 있습니다만, 앞서 지적해 주신대로 경제구조, 산업구조라고 하는 점에서 아주 유사한 점이 많습니다. 그리고 경쟁을 하고 있는 부분이 많이 있다라고 하는 점, 그래서 이것을 어떻게 통합시켜 나갈 수 있을 것인가 라고 하는 것은 아주 타당한 프로세스가 아닌가 생각합니다. 저는 어제 대사님께서도 말씀을 하셨습니다만, 시간을 두고 차근차근 진행을 시켜나가는 그 프로세스가 중요하지 않은가 생각되고, 그 과정 속에서 앞에서 말씀드린 정부의 관여를 최소화해 나가면서, 그리고 투명성이 없는 업체간의 카르텔을 제거해 나가면서, 예를 들어서 OECD라든지 WTO 같은 국제기관, 나아가서 금융측면에서는 IMF라든지 오일뱅크, 세계은행 등이 있습니다만, 이러한 국제기관이 설정한 규율에 위반되지 않는 형태로, 물론 여기에 문화적인 요소도 반영을 해야 되겠지만, 위반되지 않는 범위 내에서 경쟁을 베이스로 진행을 시켜나가는 것이 좋지 않을까 생각합니다. 그렇지만 경쟁만 하는 것은 아니라 어디까지나 상호이해를 바탕으로 경쟁원리를 이용하는 것이 바람직한 방법이 아닐까 생각합니다. 그래서 이러한 한일 스타일의 통합은 학자분들이나 여러분들이 그러한 비전을 구상해 주실 문제가 아닌가 생각합니다.

제 얘기는 아주 일반적인 얘기입니다만, 여러분의 의견을 듣고 이러한 점을 느꼈습니다. 저는 제2분과회에 등록을 했었습니다만, 여기에 와서 이렇게 아주 좋은 얘기를 듣게 된 것을 대단히 기쁘게 생각을 합니다. 그리고 몇 가지 질문을 하고 싶습니다.

이러한 커다란 프레임워크 속에서 역시 문제를 제기할 여러 가지 산업이 있을 것입니다. 조선이 그 한가지가 되겠지요. 그리고 반도체 부분, 석유화학이라든지 철강 등 기간산업이라고 불릴 수 있는 부분에서 양국이 서로 경쟁하고 있는 산업이 자유무역지대 창설을 통해서 단순히 관세뿐만이 아니라 비관세장벽, 수입다변화 조치라든지 이러한 것을 제거했을 때, 일본과 한국이라고 하는 이러한 한

정된 지역에서 과연 수요가 높아질 수 있을 것인가, 서로의 포지션은 어느 정도가 될 것인가 라고 하는, 이것을 한꺼번에 하기보다는 유럽이 했던 것처럼 철강과 석탄에 탄철공동체를 먼저 만들었고, NAFTA의 경우에도 자동차산업 중에서 특히 부품제조, 원산지증명 등을 바탕으로 해서 미국과 캐나다, 미국과 멕시코 사이에서 부분적인 협정을 먼저 성공적으로 이루어냈듯이 이러한 섹터별로의 통합을 먼저 진행하는 방법을 하나의 예로서 검토해 보면 어떨까 하는 생각을 합니다. 대단히 감사합니다.

李 鐘 允 韓國外國語大學校 教授

지금 코멘트 하신 말씀 잘 들었습니다. 경쟁을 통해서 접근해 가자는 말씀으로 들립니다. 그런데 그 문제와 관련해서 평소 일본경제에 관심 있는 저로서 한 말씀 드리면, 지금 주제인 자유무역지대 창설과 긴밀한 관계가 있는 것으로 생각됩니다만, 지금 한일간에 자유무역지대를 창설한다고 할 때 가장 문제가 될 수 있는 부분이 일본의 산업조직과 한국의 산업조직의 차이가 아닌가 생각합니다. 예컨대 자주 지적되고 있는 것처럼 일본이 모기업을 중심으로 한 하청조직 같은 아주 튼튼한 성이 쌓여있는 조직이고, 이에 비해서 우리는 적어도 일본에 대해서는 상대적으로 자유무역이라고 표현하기에는 상당히 엉성한 조직으로 되어있는 상태에서 우리가 가령 지금 지적한 것처럼 경쟁을 토대로 한다라고 하셨는데 이대로 하면 결국은 압도적으로 대일 역조는 심화될 것이라고 생각할 수 있습니다. 다만 여기서 일본의 경우에 일본 스스로도 인정하고 있는 것처럼 바로 이러한 산업조직의 차이가 내외 가격차를 크게 발생시키고 있다, 일본제품과 동일한 제품들이 해외에서 가격차가 상당히 크게 존재하고 있다, 예컨대 이것은 이런 산업조직을 성립시키는 과정에 결국 상당한 비관세장벽의 존재에서 이런 점이 성립되고 있다 라는 점입니다. 예컨대 지금 우리나라의 상품과 일본의 상품을 비교해 보면 여러분들이 당장 한국의 생활 속에서 일본이 한국 보다 훨씬 싸구나 하는 점을 느끼실 수 있을 것입니다. 그것은 무엇을 의미하느냐 하면 한국의 싼 제품이 일본에 자유스럽게 흘러가게 하지 않게 하는 무언가 존재가 있다, 말하자면 이것을 우리가 앞으로 어떻게 해결할 수 있을 것인가 하는 부분이 제가 보기에 지금 이 자유무역지대 창설과 관련해서 지금 아까 자유경쟁이라고 말씀하셨는데 이 조직의 문제를 우리가 빼고 자유경쟁이라는 이야기를 할 수 있겠는가 하는 점입니다.

그래서 이 문제와 관련해서 곁들여 얘기할 수 있는 부분이 환율조정이 되겠습

니다. 환율은 이미 우리가 프라자합의 이후 엔화가 40% 절상되는 과정에서 엄청나게 한국의 수출이 증가되었는가 하면 역으로 '95년 4월 이후 일본이 소위 저환율정책을 추구했고 그 결과 한국은 IMF 관리체제로 넘어가는, 예컨대 한국의 대외적자를 급속하게 확대시키는 결과를 만들어 냈습니다. 이러한 관계를 어떻게 합리적으로 조정해서 일본과 한국이 자유무역지대가 되어서 양국간의 가격차이가 없어질 정도로 만들어 나갈 수 있을 것인가, 이 부분에 대해서 우리가 좀더 진지하게 논의해야 할 포인트가 아닌가 생각합니다. 아까 코멘트 하신 분께서는 자유경쟁을 통해서 이것을 해결해야 하는 것이 원칙이 아니냐 하고 말씀을 하셨는데 사실은 그렇습니다만, 지금 우리가 이러한 산업조직의 문제, 또 내외 가격차이가 존재하고 있다 라는 점을 아울러서 생각해 볼 때 단순한 표면적인 경쟁만이 아닌 양국간의 경제구조에서 가지고 있는 이 문제에 대한 논의가 중요한 대목이 아닌가 생각합니다.

그리고 이 문제와 관련이 됩니다만, 제가 여러분들에게 말씀드린 '95년 4월 이래로 일본의 소위 엔저정책을 추구하기 위해서 일본은 적어도 초저금리정책을 추구했습니다. 거의 일본은 제가 알기로 금리가 없는 것이나 다름없을 정도로 아주 금리가 극히 낮은, 이것이 결과적으로 미국과 일본간의 금리 차이를 확대시키고 일본의 유동자본이 거의 미국으로 흘러가버린, 이것이 결국은 한국을 위시한 아시아국가에 상당한 타격을 가져와서 지금 IMF 관리체제에 들어간 것입니다. 그런데 이것이 과연 일본에게 이익을 가져다주는가에 대해서는 다시 한번 생각을 해보면, 적어도 EU, NAFTA가 튼튼한 지역경제를 만드는 것에 비해서 우리 동아시아는 상당히 허술한 체제가 되어 버리고 있는, 또한 일본의 대외 수출을 적어도 동아시아 국가에 관한 한 급속하게 하락시키고, 또 더 나아가서는 일본이 이들 국가에 자금 지원한 부분에 대한 상환문제에 있어서 조차도 어려움에 직면하게 되는, 이러한 문제의 고리를 우리가 어떻게 끊고 우리가 가지고 있는 생산요소를 유무상통함으로써 소위 이 지대를 EU나 NAFTA와 마찬가지로 좀더 활기 있는 경제권으로 만들어 갈 것인가, 이것이 과제가 아닌가 이렇게 생각합니다. 감사합니다.

李 漢 久 韓國側 코디네이터

감사합니다. 조금 전에 발언하신 분은 한국외국어대학교의 경제학과 교수로 계시는 이종윤 교수였습니다. 한국에서는 일본에 관계되어서 유명한 일본통 학자라고 평가받고 계십니다. 다음에는 일본측에서 발언해 주시기 바랍니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

예, 그러면 큐슈여객철도의 쇼아미 전무님, 의견 있으십니까?

長網 良晃 九州旅客鐵道(株) 専務取締役

큐슈여객철도의 쇼아미라고 합니다. 김실장님의 발표는 그야말로 많은 점을 시사해 주는 그런 내용이라고 생각합니다. 여기에 대해서 먼저 경의를 표하는 바입니다. 지금 김실장님께서 발표하신 바와 같이 양국간에 이미 시스템화되어 있는 금융, 무역, 자본 등 여러 측면에서의 협조체제를 한꺼번에 추진하는 것은 곤란하지 않을까라는 의견에 대해서는 지도 전적으로 동감하는 바입니다. 이러한 것들을 순차적으로 단계적으로 추진하자는 제안이 아니셨나 생각이 되지만, 저는 큐슈의 입장에서 일본의 큐슈라는 지역은 한국과의 관계에 있어서는 일본에서도 가장 특색을 가지고 있다고 할까요, 아니면 이점을 많이 갖고 있는 지역이 되겠습니다. 그래서 큐슈라고 하는 일개 지역의 입장에서 지금까지 논의된 포인트와는 조금 다른 점도 있지 않을까 생각되지만, 그러한 어프로우치에 대해서 잠깐 말씀드리고자 합니다.

아시는 바와 같이 큐슈와 한국은 지리적으로나 역사적, 심리적으로 아주 밀접한 관계에 있습니다. 큐슈에서는 지금 크게 분류해서 세 가지의 큰 골격을 중심으로 한일 교류 촉진을 위해 여러 가지 노력을 거듭하고 있습니다. 먼저 하나는 시민차원에서의 교류를 보다 더 가일층 추진한다는 것입니다. 두말할 나위도 없습니다만, 시민차원의 교류라고 하는 것은 국제정치, 문화 등 여러 가지 교류의 어떤 기초가 된다고 하는 것은 틀림이 없습니다. 큐슈는 일한친선협회 등 시민교류단체와 경제단체, 또는 행정부문이 일치단결하여 여러 가지 각종 교류를 통해서 한일 상호이해를 증진시키기 위한 노력을 거듭하고 있습니다.

그리고 두 번째 골격이 되는 부분은 실행성 있는 경제교류에 대한 노력 자세라고 할 수가 있겠습니다. 큐슈에는 큐슈통상국, 그러니까 동산성의 지방조직이 되겠습니다. 큐슈통상국을 중심으로 해서 일본 정부의 이해를 바탕으로 독자적으로 한국과의 상호 경제발전 방안을 검토하고 있는 중에 있습니다. 매년 큐슈·한국경제교류회의를 개최하고 있으며, 지금까지 기술자연수라든지 상호 비선단 파견 등 여러 가지 시책을 실시하고 있습니다. 이번 회의는 경제교류 주체가 어디까지나 기업이라고 하는 점을 강하게 인식하고 있으며, 관민 합동회의로서 지금 현재 구체적인 프로그램을 검토하기 위한 연구회를 발족시켰습니다. 이 연구

회를 통해서 여러 가지 논의를 열심히 진행 중에 있습니다.

그리고 나머지 세 번째는 큐슈와 한국이 협력해서 추진하고 있는 관광교류 활성화 문제가 되겠습니다. 한국의 金大中 대통령이 출선해서 관광산업 육성을 강조하고 계십니다. 이처럼 관광객 유치가 가져다주는 경제적인 효과는 아주 크다고 생각을 합니다. 큐슈와 한국은 모두 아름다운 경치와 테마파크 등 아주 풍부한 관광자원을 가지고 있습니다. 그렇지만 관광객의 증가 부진이라고 하는 문제에 있어서는 역시 양국이 똑같은 고민거리를 안고 있는 것 같습니다. 그래서 서로 상호간에 관광객을 보낸다고 할까요, 세계적인 관점에서 보았을 때 한국과 큐슈가 동일 관광권이 될 수 있도록 서로 민간주도 회의를 개최하여 이를 위한 실행작업을 진행하고 있는 중에 있습니다.

이상 세 가지 골격을 바탕으로 진행되고 있다고 말씀을 드렸습니단만, 여러분 잘 아시겠지만 큐슈와 한국은 상호이해와 협력에 대한 어떤 의욕이라고 하는 차원에서는, 아니면 그러한 협력의 여지가 아주 높다는 차원에서 진행이 되고 있습니다. 그래서 이러한 협력의 소지를 이용해서 큐슈와 한국이 먼저 앞장서서 경제교류권을 형성한 뒤 한국과 일본의 시범적인 자유무역권을 만들어 나가는 것은 어떨까 하는 생각을 가지고 있습니다. 앞으로 저희들은 보다 더 구체적인 검토를 진행시켜 어제도 여러 번 얘기가 있었습니단만, 21세기 한일경제관계연구회도 이 내용을 제안 드리고자 생각을 하고 있습니다. 아무쪼록 지금 말씀드린 구상에 대한 여러분들의 많은 이해와 지원을 받을 수 있기를 부탁드립니다. 대단히 감사합니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

감사합니다. 목표구상 지역을 큐슈로 설정하자는 분위기를 느낄 수가 있었습니다. 대단히 감사합니다.

權 寧 敏 韓國經濟研究院 研究委員

안녕하십니까? 한국경제연구원의 권영민이라고 합니다. 저희 한국경제연구원은 전경련의 자매기관이고 전경련의 회장이신 김우중 회장님께서 저희 한국경제연구원의 회장도 겸임하고 계셔서 저희 연구원에서도 한일 자유무역협정에 관한 관심을 많이 가지고 연구를 진행하고 있습니다. 제가 말씀드리고 싶은 것은 연구에 직접 참여하고 있는 연구실무자로서 제가 갖고 있는 어려움을 말씀드리고,

거기에 따라서 한국이나 일본 기업인들의 협조나 상호협력이 매우 필요하다는 점을 말씀드리고 싶습니다.

이론적으로 보면 자유무역협정이 관세장벽이나 비관세장벽, 그리고 투자장벽 같은 것을 낮추기 때문에 양국 경제에 모두 도움을 준다고 하는 것은 반론을 제기할 필요가 없겠습니다. 특히 관세장벽 같은 것은 한국이나 일본이 이미 WTO의 회원국으로서 상당히 낮은 관세율을 유지하고 있습니다. 참고로 말씀드리면 수입의 가중세율을 기준으로 해서 한국의 평균 관세율은 6.0%이고, 일본은 4.6%입니다. 그러나 이것은 전체적인 관세율을 평균을 낸 것이고, 실제로 관세율을 좀더 들어가서 살펴보면 일부 종목에서는 아직도 높은 관세율을 유지하고 있는 것이 많습니다. 예를 들어서 석유화학 제품을 보면 몇%라는 관세율이 적용되는 것이 아니라 가격에 따라서 관세를 매기는 종량세를 매기고 있습니다. 예를 들어서 폴리에스틸렌은 kg당 45엔 같은 식으로 관세를 매기고 있는데 실제로 이것을 따져보면 지금 국제시세가 많이 낮아져 있고 환율이 많이 떨어져 있는 점을 감안한다면 굉장히 높은 관세율입니다. 그래서 좀더 깊게 살펴보면 한일 양국간에 아직도 관세장벽이 많이 남아 있다는 것을 알 수 있는데 이러한 관세장벽은 저희 연구자들이 찾기가 쉽습니다. 왜냐하면 관세율표 상에서 데이터를 뽑아서 관찰할 수 있으니까요.

하지만 문제는 비관세장벽입니다. 저희 연구원에서 한일 자유무역협정에 대한 연구를 위해서 지난달에 일본을 방문했었습니다. 그래서 일본의 많은 기업들, 그리고 연구소, 경제단체 등을 방문했었는데, 비관세장벽이 있다고 하는 것은 서로 동의를 합니다만, 과연 그렇다면 어떤 비관세장벽이 있는가 하는 점을 잘 모른다는 것입니다. 참고로 어떤 일본에 주재하는 모기관을 방문했었는데 그 기관에서 일본의 비관세장벽에 대해서 서너차례 조사를 시도했었다고 합니다. 그러나 모두 조사가 실패로 돌아갔는데 그 이유를 살펴보면, 실제로 무역에 종사하고 있는 기업인들 자체가 한국이나 일본에서 무역활동을 하면서 비관세장벽이 무엇인지 알 수가 없다는 것입니다. 왜냐하면 한국의 기업의 예를 들면 일본의 복잡한 통관절차가 있기 때문에 이것을 자신들이 직접 하는 것이 아니고 일본의 통관사들을 통해서 대행시켜서 통관을 하고 있는데, 그러다 보니까 본인들은 어떠한 비관세장벽이 있는지 알지를 못합니다.

저희들이 그렇다면 비관세장벽을 알기 위해서 이 통관사들에게 가서 물어봐야 하느냐, 통관사들은 자기들의 업무가 그것이고 그것으로부터 수입을 얻는 분이기 때문에 저희에게 비관세장벽을 알려줄 이유가 없는 것이지요. 그리고 기업체의

입장에서도 어떤 기업이 만약에 비관세장벽을 알게 되었다면 그 비관세장벽을 알게 된 것을 해결하기보다는 기업인들은 비관세장벽을 기본컨디션으로 보고 그것을 우회하는 전략을 세우게 됩니다. 그리고 그 우회하는 전략을 성공하게 되면 어떤 비관세장벽은 자기만 아는 노하우이기 때문에 다른 사람들에게 알려줄 필요가 없습니다. 왜냐하면 그 비관세장벽 자체가 자신에게는 어떤 보호장치가 되기 때문입니다. 그래서 이러한 점에서 저희가 비관세장벽을 조사하는 데에 많은 어려움을 느끼고 돌아왔습니다.

저희가 일본측에 가서 일본의 통관제도를 봤습니다만, 일본의 기업인들도 여기 와서 활동을 하실 때 똑같은 문제를 느끼리라고 봅니다. 그래서 저는 이런 면에서 관세와 비관세장벽을 서로 조사하는데 양국 기업인들이 자유무역이라는 것이 실제적으로 도움이 된다는 대의에 동의한다면 그러한 기조의 문제, 관세장벽이나 비관세장벽을 발굴하는데 있어서도 서로 협조를 해야 한다고 생각을 합니다. 감사합니다.

李 漢 久 韓國側 코디네이터

감사합니다. 일본측 의견 부탁드립니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

住友(스미토모)상사의 아끼야마씨, 어떻습니까? 의견 있으십니까?

秋山 富一 住友商事(株) 相談役

住友(스미토모)상사의 아끼야마입니다. 지금 김실장님의 훌륭한 발표 감사합니다. 아주 유익한 내용을 들을 수 있었습니다. 저는 실장님의 발표를 들으면서 최근 1년간에 어떤 일이 있었는가, 그리고 1년 전 작년 한해가 어떠했었나 하는 것을 회상하게 되었습니다. 1년 전에는 물론 한국도 일본도 파란가지입니다만, 특히 한국의 경우에는 아주 어려운 상황 속에 있었고, 미야자키에서 열렸던 작년 회의에서도 여러분들이 좀처럼 기운이 없었지 않았나 하는 생각이 들었고, 내용 자체도 조금 어두웠던 것 같습니다. 그리고 지난 1년간 한국 정부의 노력에 의해서 구조개혁에 많은 힘을 기울이고 있습니다. 작년 회의에서도 이미 그러한 발언이 있었습시다만, 저는 그런 어두운 분위기 속에서도 그런 점을 발견할 수가

있었습니다. 지난 1년 동안 여러 외국의 한국에 대한 평가가 높아졌다는 점에 대해서 저는 다시 한번 경의를 표하는 바입니다.

그리고 또 하나 커다란 사건은 작년이래 여러분으로부터 여러 가지 얘기가 있었던 부분인데요, 金大中 대통령의 방일이 아주 대단히 성공적이지 않았나 생각이 됩니다. 대통령의 일본에서의 여러 가지 연설, 발표 등을 통해서 어떤 확고하고도 건설적이면서 풍부한 지도력을 갖춘 영도력 있는 대통령이 아닌가 하는 인상을 받았습니다. 아마 그 이후에 일본의 신문기사 등을 보더라도 일본 국민이 모두 한결같이 그런 마음을 느꼈을 것으로 생각이 됩니다. 그야말로 金大中 대통령의 방일은 한일관계를 20세기를 마감 짓고 21세기를 맞이하는 새로운 문을 열어 가는 그러한 장을 마련했다고 저는 생각합니다.

그래서 구조개혁, 대통령의 지도에 의한 여러 가지 구조개혁으로 토양을 만들어 주셨는데 그런 내용들을 모두 포함해서 지금은 그야말로 한국과 일본이 어떤 것을 추진하고 어떤 것을 목표로 해 나갈 것인가 라고 하는 새로운 관계, 그리고 그것을 바탕으로 해서 구체적으로 어떠한 내용이 있을 것인가, 어떠한 것을 실천해 나가야 될 것인가 라는 것을 검토할 시기가 왔다고 생각합니다. 앞서서 김실장님의 발표를 들으면서 지금 현재 앞으로 새롭게 추진해야 할 과제으로써 아주 적절한 대형 프로젝트가 아닌가하는 느낌을 받았습니다. 특히 김실장님의 말씀에서는 아주 구체적인 산업별부문에 까지 언급을 하셨다는 점, 그리고 또 한가지는 이것은 여러분들도 동감을 하셨으리라 생각되는데, 시간을 두고 단계적으로 추진해 나가자는 것, 특히 30년이라고 하는 구체적인 시한을 설정하고서 진행한다고 하는 상세한 포인트를 말씀해 주신 점, 그리고 또 한가지 말씀을 드리자면 역시 아주 중요한 것이 아닌가 생각이 됩니다만, 아시아 차원에서 그런 이야기를 전개하셨다는 부분, 그래서 저는 아주 감명 깊게 그런 발표를 들었습니다.

전세계적으로 이러한 지역공동체에 가입하지 않고 있는 나라는 4개 나라밖에 없다는 얘기를 들었습니다. 그래서 이러한 것을 중심으로 해서 나아가서는 글로벌한 차원에서까지 자유무역을 추진해 나가는 것이 중요하다고 생각합니다. 이러한 구상을 중심으로 해서 아시아 차원까지 끌어올리고, 또 그러기 위해서는 역시 오픈된 형태가 아니면 안될 것이다, 개방적인 형태가 되어야 할 것이라는 점도 중요하리라고 봅니다. 그래서 김실장님의 발표를 통해서 제 소감을 말씀드립니다. 시간이 얼마 없기 때문에 일반론적으로 간단하게 설명을 드립니다만, 대단히 좋았습니다. 감사합니다.

미쓰비시의 사쿠라이입니다. 이전에 질문이 있으면 준비를 하라는 부탁을 받았기 때문에 어제부터 여러 가지 여러분들의 발표를 듣고 오늘도 김실장님의 발표, 그리고 참가하신 여러분들의 의견을 듣게 되었습니다. 특히 여러분들의 말씀에 대해서는 전혀 이견이 없습니다. 그래서 특별한 질문은 없습니다. 그렇지만 모처럼 기회를 주셨기 때문에 뭔가 말씀을 드리고자 합니다.

저는 크게 세 가지 제안을 드리고 싶습니다. 저는 사실 한국에 처음 온 것이 '86년입니다. 제가 처음 한국에 왔을 때 1달러당 360엔으로 270원 시대였습니다. 제가 처음 부임했을 때는 서울을 자동차로 회사까지 다니던 시절이었는데, 그 이후 지금 제가 한국에 부임한지 30년이 됩니다만, 그 동안에 한국과 일본은 아주 많은 관계의 변화가 있었고, 한국도 많이 변화된 모습을 나타내고 있습니다. 한국과 일본의 alliance라고 하는 것, 제가 한국에서 일을 하는 가운데 역시 한국과 일본은 협력해서 일을 하지 않으면 안되겠다 하고 하는 것, 저는 이것을 비교적 일찍이 느꼈습니다.

그것을 추진해야 되겠다고 생각했습니다만, 당초 저는 제철관련의 일을 했습니다. 여러분들의 지도하에 한국의 제철업이 거의 전무상태에서 그런 작업에 참여했었습니다. 그래서 오늘날의 포항종합제철이 일본의 신일본제철을 누르고 실제 생산 면에서는 그야말로 세계 최고 수준의 생산력을 자랑하는 규모로 성장하였습니다. 그래서 일본도 여러 가지 기술을 이전했고, 일본도 열심히 그것을 공부했습니다. 그리고 일부에서는 이것이 일본에 있어서 경쟁자를 키워내는 것이 아닌가, 부메랑효과를 우려하는 목소리가 당시에는 있었습니다. 그래서 기술지도에 대해서 그렇게 열심히 해서는 안될 것이다 라는 생각이 있었습니다. 저희 미쓰비시상사에서는 업무관계상 그런 반대 의견이 나오면 상당히 곤란해집니다. 그래서 그것을 해결해 나가기 위해 여러 가지 노력을 기울이면서 오늘까지 왔습니다만, 역시 동합을 위해서는 이런 선생님과 제자라는 관계가 언제까지고 지속되는 것은 바람직하지 않다고 생각합니다. 그래서 서로 상호 보완관계를 유지할 수 있는 동반자라고 하는 그런 점이 필요하다고 생각합니다.

일본에서도 구미 각국으로부터 여러 가지 기술을 도입을 했었고, 결국 오늘날의 독자적인 길을 걷고 있는 것입니다. 독립할 수 있었던 것이죠. 그러나 일본 IBM 같이 서로 상호 보완관계를 확고하게 구축하고 있는 기업이 있는대요, 또 어떠한 기업이 있을까요? 캐터필러미쓰비시라는 것이 있습니다. 글로벌한 시점에서 일본의 조인트벤처, 아니면 이러한 위상은 아주 분명히 상호 파트너로서 존

재가치가 있지 않은가 라는 의식이 확립되어 있습니다. 그래서 아주 우호적인 관계를 지금까지 유지하고 있습니다.

아마 일본과 한국의 산업계에서도 여러 가지 우여곡절 끝에 최근에 한국에서는 통화위기, 외환위기, 그리고 일본의 경우는 금융위기에서 촉발된 여러 가지 어려운 상황이 발생했었습니다. 양국이 똑같은 위기에 직면했었습니다만, 결과적으로는 아주 극심한 불황, 또는 똑같은 상황을 맞이하고 있습니다만, 그렇지만 기본적인 원인에는 양국이 약간의 차이가 있습니다. 여하튼 양국이 이러한 위기에 동시에 직면했었다는 것, 그렇지만 비운 뒤에 땅이 굳는다는 말이 있듯이 어떻게 보면 좋은 기회가 도래하지 않았나 라고 생각을 합니다. 역시 그러기 위해서는 서로가 솔직하게 의견을 교환해야 하겠고, 그리고 역시 제가 느끼는 것은 마음속에는 다 털어 내지 못하고 뭔가 담고 있는 부분이 있지 않은가 생각합니다만, 지금은 그럴 여유가 없습니다. 그래서 할 수 있는 부분부터 하나하나 진행시켜 나가야 하겠다는 것, 그리고 여기에 나와 있는 것 같이 김실장님의 발표는 1989년에 처음 발표가 있었고, 그리고 작년 11월에 일본의 통산대신으로부터 제안이 있었고, 그리고 이것이 과연 일본 정부차원의 제안인가, 아니면 일본 통산대신의 개인적인 의견인가 라고 하는 점, 그러나 한국과 일본의 이 경제인회의에서 이러한 것을 제안하고 토의해 나가는 것이 바람직하지 않은가 생각합니다.

아시는 바와 같이 강력한 지도력을 가지고 있는 한국의 관에 비해 일본의 관은 규제완화에 나타나 있는 것 같이 총론에 대해서는 찬성하지만 구체적인 부분에 대해서는 아주 복잡해서 아무런 행동을 하지 못하는 실행력이 없는 관입니다. 그래서 물론 비교할 수는 없습니다만, 상호 주권국가이고 역시 국가 차원의 노력이 필요할 것이라고 생각합니다. 물론 경제계에서 뭐라고 얘기할 수는 없습니다만, 이러한 내용의 제안은 할 필요가 있지 않은가 생각합니다. 그래서 이러한 제안을 통해 양국의 관을 움직여 나가서 적절한 조치를 실행해 나간 필요가 있습니다. 그리고 구체적인 행동계획이 아주 중요하지 않은가 생각됩니다.

이 내용을 통해서 제가 느낀 것은 한국측의 의견은 역시 연구소에 계신 분들의 의견이 많은데 산업계나 기업에 계신 분들의 의견은 어떤가 저는 궁금합니다. 그래서 산업계, 경제계에 계신 여러분들의 의견을 듣고 싶습니다. 또 하나 단계적으로 진행시키자는 것에 대해서 저는 찬성을 합니다만, 가능한 부분에 대해서는 시간을 두지 않고 계속적으로 빨리 추진해 나가는 것도 중요하지 않나 생각합니다. 총괄적으로 진행하는 것보다는 역시 할 수 있는 부분부터 착수를 해 나가는 것, JR큐슈에서 제안하셨던 큐슈와 한국의 일체화라고 할까요, 그러한 구상을

아주 흥미롭게 들었습니다.

거듭 말씀을 드립니다만, 역시 동반자관계를 구축할 수 있는 부분은 어떤 것인가, 그것을 하나하나 발굴해서 하나하나 다져나가는 것이 중요하고, 어제 기조연설에서도 말씀이 계셨습니다만, 역시 경쟁자가 아니라 파트너로서의 동반자관계를 구축해야 할 것이다 라고 하는 제안이 있었습니다. 전적으로 동감을 하고 그것을 구체적으로 살펴 볼 때 일본기업 A와 한국기업 B가 어느 한 제품을 가지고 수평분업을 했다고 하더라도 거기에 관세장벽이 존재한다면 좀처럼 분업 상태가 어려워집니다. 코스트가 제대로 성립되지 못한다 라고 하는 실제 사례가 있습니다. 그래서 양국 산업간에 구체적으로 성립되어 나갈 수 있는 그런 보완적인 관계는 분명히 존재할 것입니다. 그것을 찾아내서 중점적으로 추진해 나가는 것이 필요할 것이라고 생각합니다. 그리고 경제인회의에서 보다 강력하게 양국 정부에 대해서 보다 여러 가지 시책 등을 장려해 나갈 필요가 있다고 생각합니다.

감사합니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

잠깐 제가 코멘트하겠습니다. 저도 한 10년 정도 이 회의에 참석해 왔습니다만, 이번 회의의 특징은 사쿠라이 전무가 말씀하신 것처럼 아주 자유로운 분위기라고 할까요, 아까 뭔가 마음속에 숨겨둔 것이 있다고 말씀하셨습니다만, 그러한 것을 전혀 느끼지 못하는, 정말 자기 진심을 털어놓는 그러한 이야기가 회의석상에서, 또 원고 속에서도 그러한 것이 나타났다고 생각합니다. 이것은 金大中 대통령의 방일 이래 앞으로의 양국의 미래를 염두에 둔 그런 관계를 구축하자고 하는 것이 커다란 힘이 되었다고 생각이 됩니다.

아까 철도 얘기가 있었습니다만, 저희 시멘트 업계도 한국 서해안으로부터 서울까지 가져가는 것보다 큐슈가 오히려 더 가깝다라고 하는, 그래서 동일시장이 나라고 하는 그런 인식이 매우 확산되어 있습니다. 그래서 서로 업체들의 공급과잉 상태라고 하는 것은 역시 양국이 똑같이 직면해 있는 문제이고, 양국 정부도 이러한 형태로 자유무역지대를 지원하는 것, 백업해 나가는 것도 보다 더 강력하게 추진하고 지원해 나갈 자세이기 때문에 앞으로 보다 구체적인, 예를 들어서 민간부분에서부터의 활동이라든지 그야말로 저희들이 보다 친근하게 느낄 수 있는 그런 테마로서 그것이 성장했다 라고 생각이 됩니다.

제 코멘트를 마치겠습니다.

李 漢 久 韓國側 코디네이터

다른 의견이 없으시면 시간관계상 여기서 자유토론을 종료하겠습니다. 커피브레이크 시간을 갖고자 합니다. 후반회의 재개는 10시 40분부터 시작하겠습니다. 감사합니다.

〈第 1 分科會 백그라운드 페이지〉
(貿易關聯分野)

今後の 日韓 Business alliance에 대하여



SEOUL JAPAN CLUB
理事長 中村 喜起

방금 소개받은 SEOUL JAPAN CLUB 이사장 나카무라이입니다. 미쓰비시상사의 현지법인 한국미쓰비시상사의 사장을 맡고 있습니다.

SEOUL JAPAN CLUB은 종래에 각기 별개 조직으로 활동하던 일본인회·일본인 상공회·JV회라는 3개 조직을 통합하여 '96년 5월에 발족되었으며, 서울 주재 일본인들의 생활상의 문제를 비롯하여 기업 활동상 필요한 한국 관청이나 기업과의 의견 교환 등 일본인과 일본 기업에 관련되는 문제를 해결하기 위한 활동을 전개하고 있습니다. 오늘은 한국에 진출한 일본 기업이라는 시점에 중점을 두고 말씀을 드리겠습니다.

1. 日韓關係의 변화

31회의 역사를 지닌 본 회의의 무역분야의 주제를 거슬러 올라가면 일본과 한국의 경제 관계 및 양국 기업을 둘러싼 경제 환경이 최근 수년동안 크게 변화되었음을 알 수 있습니다.

예를 들면 일본의 거액의 對韓 무역흑자, 이른바 “무역불균형(한국에서는 ‘역

조')” 문제를 여하히 해결할 것인가에 관하여 토의한 적이 있었습니다. “일본은 한국제품 수입을 늘리고 무역흑자를 줄이기 위해 노력해야 한다”는 한국측 문제 제기에 대하여 “일한간 무역불균형의 원인은 한국의 경제구조 때문”이라고 일본 측이 주장하는 식으로 이른바 양국간 문제가 주된 주제였던 적이 있습니다.

또한 90년대 중반에는 “세계 속의 일한 경제협력”, “세계 경제 속에서의 일한 기업의 공존 공영” 등의 주제가 다루어졌습니다. 이는 WTO체제의 발족과 급속도로 진전되는 경제의 글로벌화를 반영한 것이라 사려됩니다.

또한 그 세계경제의 글로벌화라는 거친 파도의 여파로 한국은 IMF 관리체제 하에 들어가게 되었으며, 또 일본은 거품경제 붕괴 이후의 경기침체 장기화로 말미암아 작년에는 양국 경제가 마이너스 성장을 기록했습니다. 따라서 일한 양국은 지금 우선 자국의 현황을 재검토하여 각기 구조개혁을 실시, 재차 세계로 비약할 수 있도록 경제기반을 재구축하고 글로벌화된 세계시장 속에서 어떻게 일한 경제협력을 할 것인가가 커다란 과제로 대두되고 있음을 통감하고 있습니다.

2. 일본 기업의 한국과 아시아 각국에서의 활동

우선 투자 측면에서 종래의 실태에 대해 한국과 다른 투자 대상국을 비교 분석해 보면 다소의 차이점이 느껴집니다. 예를 들면 동남아시아로 제조업 분야가 진출한 경우,

- 일본 기업은 출자의 Majority를 갖거나 혹은 주도적 역할을 수행하며,
 - 일본이 수입 기자재를 베이스로 사업을 기동시켜서
 - 제품은 국내 시장용을 주체로 하되 일부 국외로 수출하는 경우는 일본 기업이 창구가 된다
- 는 식으로 사업 육성에도 일본 기업이 크게 관여해 왔습니다.

한편 한국에서는 많은 경우에 있어서

- 한국 기업이 Majority 혹은 경영 주체가 되고,
- 일본 기업에게는 일부 자본 참여와 기술 협력이 요구되며,
- 기동 단계를 지나면 서서히 한국 기업의 주도권 하에서 육성되며,
- 제품 판매 면에서도 일부 국내시장에도 판매되지만 대부분은 한국 기업을 통하

여 해외시장으로 수출되어

일본 기업과 경쟁관계가 되는 결과를 초래해 왔습니다.

즉 다른 아시아 국가에서의 사업 투자는 일본 기업의 당초 기업전략상의 시나리오대로 효과적으로 수행된다고 평가되는 경우가 많은 반면, 한국에서의 사업 투자는 제반 사정으로 인해 당초 뜻했던 대로 진행되지 않고 결과적으로는 “알짜배기만 빼앗기고 말았다”는 인상이 남는 것 같습니다.

물론 그 배경에는 국가 건설과정에서 한국 정부가 내국기업 육성책을 추진할 수 밖에 없었다는 점, 그리고 기업 경영자로서 시운을 포착하여 사업을 확대하려면 다소의 알력을 각오하고라도 앞으로 전진할 수 밖에 없었다는 점 등의 이유가 있었고, 역설적으로 말하면 그 결과 “한강의 기적”이라는 급성장을 이룩할 수 있었다고 이해할 수도 있습니다.

3. 규제 완화의 흐름

그러나 현 정부로 바뀌면서 한국의 경제환경은 그야말로 대변혁을 이룩하려 하고 있습니다. 즉 IMF의 지원 조건이라는 수동적 요소뿐 아니라 한국경제 전체를 국제적으로 경쟁력 있는 체질로 개선한다는 능동적인 정책이 수립됨에 따라 규제 완화책이 대담하게 실시되고 있습니다.

상세한 내용에 대해서는 이미 여러 형태로 보고되고 있습니다만, 일부 예를 들면 산업자원부는 667개의 소관 규제 중 4분의 3 이상에 해당되는 519개 규제를 폐지 또는 개선했습니다. 그 결과 무역 절차는 간소화되었고 실질적인 대일 수입 규제였던 수입선 다변화제도가 올해 6월말에는 완전히 철폐되게 되었습니다. 또 투자에 대해서는 종래의 “외자 규제” 원칙으로부터 적극적인 “외자 유치”로 180도 정책 전환을 했으며, 외국 투자자를 위한 지원 체제도 정비, 추진되고 있습니다. 그리고 산업자원부 관계 이외에도 재정경제부 관계 외환법 개정, 일한조세조약 개정이 이루어졌으며, 나아가서 노동 문제에 관해서도 종전의 노동자 보호적 색채가 농후했던 노동관계법이 개정되어 정리해고제가 도입되는 등 국제 수준을 달성하기 위해 노사정이 삼위일체가 되어 노력을 경주하고 있습니다.

이처럼 한국 정부는 외자 유치를 위한 법제 정비를 진지하게 추진하고 있으며, SJC를 비롯한 한국 주재 경제단체의 제안, 지적도 적극적으로 수용한 개혁을 대담하고 빠른 속도로 실시하고 한국경제의 “글로벌 스탠더드화”를 강력하게 추진하고 있다는 인상을 강하게 받고 있습니다.

한편 일본은 외국 입장에서 보면 여전히 규제가 많은 나라로 보이지 않을까 싶습니다. 미국의 연구자에 의하면 일본의 법령에는 “허가”, “인가”, “면허”, “확인”, “등록”, “신고” 등 규제에 관한 용어가 20개 이상 있다고 합니다. 게다가 상거래 관습이라든지 유통 경로 등 법제는 아니지만 눈에 보이지 않는 “벽”도 있어 “글로벌 스탠더드화”라는 면에서는 앞으로 일본이 뒤지게 되지 않을까 염려됩니다.

4. 새로운 일한 경제 협력관계

이러한 외자유치 정책의 결과 IMF체제 이행 이후 1년 동안 승인베이스로 약 90억불의 외국 기업에 의한 對韓투자가 보고된 바 있습니다만, 일본으로부터의 투자는 기존의 조인트 벤처 파트너 지분을 매입하는 등의 형태의 투자가 대부분으로 일본 기업의 신규 진출은 구미 기업에 비하면 훨씬 적은 상황입니다.

이는

- 일본의 거품경제 붕괴 후의 경기침체로 일본 기업의 체력이 떨어진 점,
 - 지리적으로 지나치게 가까워 일본 국내 업계의 재편성 없이는 한국에 대한 투자 전략을 세우기 힘들다는 점,
 - 일본의 경영자가 과거에 한국 시장에서 겪은 쓰라린 경험에 기인한 부정적 이미지를 불식하지 못하고 있는 점
- 등을 그 이유로 꼽을 수 있습니다.

그러나 세계경제는 각국의 특수 사정은 아랑곳 않은 채 격심한 변동을 겪고 있습니다. 만약 일본의 규제 완화와 구조 개혁에 시간이 걸린다면 우선은 바로 이웃나라, 그것도 대변혁을 이룩하고 있는 한국과의 관계를 새로 재검토해 보고, 우선 일한간의 비즈니스 제휴 강화를 위해 무엇을 해야 할 것인가를 진지하게 검토하고 실천하는 것이 중요하다고 확신하고 있습니다.

세계경제 추세는 이미 경제 블록화 방향으로 나아가고 있습니다. 유럽에서는 EU가 구성되었으며, 단일 통화도 올해 1월부터 정식으로 도입되었습니다. 북·중미에는 NAFTA, 남미에는 MELCOSUR, 동남아시아에는 ASEAN을 중심으로 한 AFTA 등의 경제권이 이미 형성되어 있거나 혹은 확립되어 가고 있습니다. 이러한 세계적 추세 속에서 일본과 한국, 중국 등 동북아 국가는 그 어떤 경제권에 속해 있지 않다는 현실에 여하히 대처할 것인가가 앞으로의 커다란 과제라고 생각합니다. 참고로 이 3개국 간의 무역은 일본은 한국에 대해 흑자, 한국은 중국에 대해 흑자, 중국은 일본에 대하여 흑자라는 構圖를 갖고 있습니다.

5. 21세기의 日韓 관계의 모습

현재 일한 정부 차원에서는 올 연말까지를 목표로 일한투자협정 체결을 검토하고 있으며, 또 일한자유무역지대 구상에 대해서도 그 실현 가능성을 양국이 공동연구할 예정입니다. 오부치 총리가 지난 달 방한시에 제창한 “일한 경제 Agenda 21”에도 이러한 내용이 포함되어 있습니다.

그러면 민간 차원에서 무엇을 해야 할 것인가에 관한 사건을 말씀 드리겠습니다. 우선 일한 양국이 각기 상대국 시장을 단순한 시장으로서 “종적 분업” 형태로 바라보던 종전의 사고방식을 바꾸어 “횡적 분업”의 가능성을 검토할 필요가 있다고 봅니다. 즉 일본과 한국이 모두 이른 바 “加工貿易立國”이며, 게다가 국제시장에 대한 공급력 면에서 서로 대등한 분야가 많아지고 있습니다. 이대로 양국이 같은 시장에서 수출 경쟁을 계속하게 되면 서로에게 상처만 주고 마는 결과로 끝나는 것이 아닌가 우려됩니다.

한국은 지금까지 말씀 드렸듯이 이미 철저한 구조조정에 착수하여 대담하게 규제 완화를 실시함으로써 적극적으로 외자 유치를 추진하고 있으며 歐美로부터의 투자가 급증하고 있습니다. 따라서 앞으로 일본 산업계의 구조 개혁을 검토, 실시함에 있어서는 일본 국내 지역의 업계, 설비만을 대상으로 할 것이 아니라 이웃나라인 한국의 상황까지 함께 시야에 넣어서 한국과의 비즈니스 제휴 구축에 의한 전략적 효과를 염두에 두고 검토해야 하리라고 생각합니다. 또 한국에서는 현정부 하에서 “글로벌 스탠더드”에 부합된 법령과 제도가 정비되어 가고 있습니다만, 한국 기업 입장에서는 경영자들의 의식도 이에 걸맞게 바뀌어 가고 나아가

서 그 의식을 종업원들에게까지 침투시키는 것이 향후 과제가 될 것입니다.

한편, 일본 기업의 경우는 아까도 말씀 드린 바와 같이 과거의 비즈니스 경험에 기인된 한국에 대한 부정적 이미지가 일본 기업 경영자들에게 존재하며, 특히 한국에 대해 잘 아는 사람일수록 그러한 경향이 많은 것 같습니다. 이는 우리 한국 주재 일본 기업에게는 본사와 현장 간의 사고방식 갭을 생기게 하여 한국에서의 비즈니스 전개를 도모함에 있어서 장애 요소가 되는 경우가 많습니다. 따라서 일본 기업의 경영자들은 이러한 이미지를 불식하고 크게 변모하고 있으며, 과거와는 판이하게 다른 한국의 모습을 왜곡되게 모로 보지 말고 정면에서 다시 살펴 봐 주시기 바랍니다.

그리고 현재 한국에서의 일본 문화 개방이 화제가 되고 있으며, 한국 정부는 이를 단계적으로 추진하려 하고 있습니다. 이런 움직임은 한국의 일본 이해를 심화시킨다는 점에서 유익하다고 생각합니다. 한편 일본으로부터 한국으로의 관광객 수는 IMF 이후 급증하였습니다. 작년 한해 동안 한국을 방문한 일본인 관광객 수는 약 200만명이었으며, 지금까지 수위였던 하와이의 관광객 수를 능가, 1위가 되었다고 합니다. 최근에는 젊은이들의 리피터도 늘어나고 있다고 들었습니다. 어떠한 이유건 이 정도로 많은 일본인들이 실제로 한국을 방문하여 좋은 인상을 갖고 돌아가고 있어, 특히 젊은 세대에게 있어서 한국에 대한 이미지를 크게 바꾸는 효과가 있으리라 생각합니다. 이러한 풀뿌리 차원의 양국 교류는 2002년 월드컵을 향하여 더욱 활성화될 것입니다.

이런 방법을 통하여 상호 신뢰관계를 심화시킴으로써 새로운 일한 비즈니스 제휴로 연계시켜 나갈 수가 있을 것입니다. 서로를 잘 이해할 수 있을 때 비로소 좋은 비즈니스도 가능하며, 비즈니스를 신장시켜 나갈 수도 있을 것입니다. 그리고 본 회의를 일한 상호간의 신뢰관계 구축을 위한 유익한 논의 전개의 장으로서 더욱 알차게 발전시켜 나가야 한다고 생각합니다.

경청해 주셔서 감사합니다.

〈第 1 分科會 自由討論〉

(貿易關聯分野)

日本側 백그라운드 페이지에 대한 自由討論

麻生 泰 日本側 코디네이터

대단히 감사합니다. 나카무라 이사장님으로부터는 실제 현장에서 일하신 경험을 바탕으로 느끼신 여러 가지 문제점이라든지 한국의 어떤 극적이고 신속하고 과감한 정책전환, 구조개혁이라고 하는 새로운 움직임이 있었다는 내용을 소개해주셨습니다. 그리고 이에 반해 일본의 대응은 조금 걱정스러운 부분이 있지 않느냐, 외국에서 체재하고 있는 입장에서 살펴봤을 때 걱정이 된다 라는 말씀을 하셨습니다. 그리고 수평 분업적인 활동을 해 나가야 된다는 제안을 하셨습니다. 그리고 일본 젊은이들 사이에서도 한국에 대한 여러 가지 심적 변화가 나타나고 있다는 말씀을 해 주셨습니다.

그리고 역시 시사하는 바는 일본이 한국에 대한 어떤 부정적인 인식은 비즈니스를 하는 분들 사이에는 존재를 하지만 오히려 이것을 정면으로 발언을 하고, 여기 서울에 있는 일본인뿐만 아니라 동경에서부터 그런 발언을 함으로 인해서 양국 차원의 사업 기회를 보다 더 창출해 나가기 위한 노력이 필요할 것이다 라고 하는 지적을 해 주신 것이라고 생각합니다.

그런 의미에서 봤을 때 서울에 있는 일본인 비즈니스사회를 중심으로 해서, 지금까지는 세 개 모임이 있었습니다만, 이 세 개 모임을 통합해서 서울재팬클럽을 형성하게 된 것이고, 이 서울재팬클럽에서 여러 가지 의견을 수렴하고 보고서를 작성하셔서 그것을 동경으로도 보내 주시고 있기 때문에, 동경에서 일하고 있는 비즈니스맨들은 그것을 사용해서 여러분들이 보다 많은 비즈니스찬스를 한번 확보해 달라는 부탁도 아울러 포함된 것 같습니다.

이상입니다. 이한구 사장님, 코멘트를 부탁드립니다.

李 漢 久 韓國側 코디네이터

우선 나카무라 선생님께서 과거 한일 일계간의 여러 가지 진행되어 왔던 상황

과 부족했던 부분의 지적에 대해서 저도 전적으로 동감을 하는 바입니다. 그리고 여러 가지 다른 제안에 대해서도 동감을 표합니다.

부연해서 조금 말씀을 드린다면, 양국간의 관계 개선에 대해서는 저는 비교적 낙관적인 생각을 갖고 있습니다. 왜냐하면 우선 일본인을 포함한 외국인투자를 제도적으로 확대를 하고 있기 때문입니다. 심지어는 한국 기업인 사이에는 외국인에 대해서 한국 기업을 역차별한다고 하는 얘기가 나올 정도로 과감하게 제도를 변경시키고 있고, 이것은 시간이 가면서 관행으로 정착을 하리라고 봅니다. 다만 일반 국민들 사이에 문화가 아직은, 특히 일본에 대한 과거의 인식이 문제가 되리라고 생각되나만, 이 부분에 대해서도 아까 제가 말씀드렸듯이 문화 차원에서 어떻게 하면 간격을 줄여 나가느냐 하는 노력이 정부 차원, 문화와 관계되는 여러 기관이나 단체 사이에 지금 진행이 되고 있기 때문에 빠른 속도로 문제가 풀려 나갈 것으로 기대합니다.

마침 과거 일본에 대한 그릇된 인식이 주로 일제치하에 살았던 나이 많은 세대의 세대에서 연유한다고 본다면, 젊은 세대가 지금 여러 곳에서 주도권을 행사하는 추세에 있고, 또 일부 한국이 외환위기를 맞으면서 소위 말하는 글로벌스탠더드를 강요당하는 과정에서 영리형제도에 대한 반감 같은 것이 또 한편에서는 싹트고 있습니다. 이것이 상대적으로 일본에 대한 친밀감이라고 할까 이런 형태로도 많이 작용할 수도 있다 하는 점을 우리는 활용할 필요가 있다고 봅니다. 그래서 여건은 많이 훨씬 빠르게 좋아지고 있다, 그래서 이 기회를 활용하는 것이 중요하나 하는 생각입니다.

또 구체적으로 지적하신 것 중에서 한국이나 일본이나 모두 가공무역입국의 전략을 갖고 있기 때문에 부딪칠 수밖에 없다는 것은 인정을 합니다만, 제시하신 대로 제조업의 경우에는 수평분업의 정신을 발휘를 하는데 개인적인 생각으로 특히 한국의 업체에서 소유권을 일본의 업체와 나누는 형태로 나가면 그런 문제에서도 많이 해소가 되지 않을까 생각합니다. 또 협력할 분야가 제조업만이 있는 것이 아니고 농업과 서비스업 분야에 상당히 넓다, 이것은 서로 마찰될 이유가 많지 않다 하는 점을 우리는 착안할 필요가 있다고 봅니다.

그리고 마침 일본이나 한국이나 다같이 글로벌라이즈되는 추세 속에서는 기존의 제조업 기반을 다시 정비해야 하는 필요성이 있기 때문에 그것을 서로 묶어서 정비를 해보자 하는 식으로 접근을 한다면 아마 상당 정도 협력할 분야가 파악될 수 있을 것입니다. 그래서 오히려 저는 중국까지도 고려를 하자는 생각을 갖고 있습니다. 이것에 대해서는 추가로 연구와 기업계 내부에서의 전향적인 자세

가 요청되지 않을까 하는 생각이 듭니다.

그리고 여기 지적해 주신 것 중에서 문화가 일본에 대해서 편향된 인식을 갖고 있다 보니까 일본 기업에 대해서 하는 종업원들의 행태가 일본 기업인들로 하여금 거북스러움을 느끼게 하는 그런 잘못이 있었습니다만, 이 문제는 문화적인 접근이 진행이 되고, 또 한가지 우리가 다같이 기업계에서 느끼고 있는 고민이 글로벌스탠더드에 맞추다 보면 심지어는 경영자들이 종업원들을 다시 설득해야 하고, 또 종업원뿐만 아니라 사회 지도자들이 경영을 모르고 경제에 대해서 익숙하지 않기 때문에 오는 여러 가지 어려움이 있는 것이 사실입니다. 이런 문제에 대해서 한국 경영자들이 아마 일본 경영자들보다는 훨씬 많은 부담을 안고 있다 하는 점을 이해해 주시기를 부탁드립니다. 그래서 이런 분야도 해결을 해야 합니다만, 역시 경험이 많으신 일본 기업계에서 조금 협력을 해주시고 여유를 보여 주실 필요가 있다 하는 생각을 저는 갖고 있습니다. 감사합니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

그럼 나카무라 이사장님의 발표에 대해서 일본측의 코멘트를 듣고자 합니다. 마루베니의 이이다 전무님, 어떠십니까?

飯田 邦彦 丸紅(株) 専務取締役

지명을 받았기 때문에 제 개인적인 의견을 말씀드리도록 하겠습니다. 지금 나카무라 이사장님의 매우 솔직하고 아주 많은 점을 시사해 주는 발표를 감명 깊게 들었습니다. 그 중에서도 언급하신 바와 같이 미국을 중심으로 한 NAFTA, 그리고 중남미의 MELCOSUR, 그리고 EU, 어제 유럽중앙은행이 경기침체를 해소하기 위하여 금리를 인하했다는 적극적인 움직임을 보이고 있습니다만, 그러한 움직임 속에서 아시아 환태평양지역에 있어서의 여러 가지 어려운 상황을 한국과 일본이 먼저 협력해서 견인차 역할을 해 나간다고 하는 것은 상당히 중요하다고 생각합니다. 그래서 나카무라 이사장님께서 지적하신 바와 같은 여러 가지 문제를 안고 있는 것은 사실입니다만, 그것을 충분히 극복할 수 있는 상황이 갖추어져 있지 않나 생각합니다.

여기서 제가 한가지 주목하고 싶은 것은 무역균형 측면에서 중국시장에 대해서, 한국이 중국에 대해 흑자, 또 중국이 일본에 대해서 흑자를 기록하고 있고, 일본이 한국에 대해 흑자를 기록하고 있다고 하는 트라이앵글 형식의 구조가 비

즈니스 사업을 해 나가는데 있어서 각 산업분야에서 보다 적극적으로 반영해서 공동작업 형태로 중국이라고 하는 시장에 양국의 협력관계를 구축해 나가는 기회를 적극적으로 발굴해 나갈 필요가 있지 않은가 생각합니다. 지금까지 어떤 쌍무간에서 보다 적극적인 다자간 형태로의 트라이앵글 형식의 공동작업이 심화될 수 있는 그런 가능성이 보여지는 것 같습니다. 예를 들어서 제가 관여하고 있는 화학산업분야에서 한국의 석유화학 설비는 압도적으로 우수한 수출능력을 갖고 있습니다. 설립 당초부터 그러한 것이 기존의 일본의 수출시장으로 계속 수입되고 있는 것입니다. 이것은 피할 수 없는 현실적인 모습이 되겠습니다. 예를 들어서 일본의 1년간 생산력이 7만톤이라고 했을 때 중국에서 나오는 합성수지 수입량은 약 7만톤 이상이 됩니다. 이것을 단순히 경쟁을 하는 것이 아니라 양국이 협력해서 대저함으로 인해서 양국에서 있어서 아주 우호적인 협력관계를 구축할 수 있을 것이라고 생각합니다.

그리고 유통에 있어서도 여러 가지 규제나 제약에 있어서 미국이 제시하는 클로벌스탠다디제이션이 과연 제대로 일본에 적용이 될 수 있을 것인가 라고 하는 점입니다. 그래서 아시아는 아시아 차원에서, 아시아가 할 수 있는 부분에서 공동협력을 통해 이러한 훌륭한 시장을 스스로 먼저 확보해 나가고자 하는 자세가 필요하다고 봅니다. 제 얘기는 이상입니다.

李 鐘 允 韓國外國語大學校 教授

이 자리는 솔직하게 의견을 교환하는 자리라고 생각하고, 평소 생각하는 점에 대해 말씀드리는 것을 양해 받고 싶습니다. 우선 지금 현재 우리가 인식하고 있는 것처럼 동아시아가 상당히 서로의 무역규모가 축소되고 있다는 사실입니다. 적어도 이것을 어떻게 하면 우리가 극복해서 종래와 같은 확대균형으로 갈 수 있을 것인가 하는 문제를 생각해 볼 때, 역시 가장 적극적인 역할을 해야 할 입장이 바로 일본이라고 생각합니다. 일본 스스로도 인정하고 있는 것처럼 소위 내수가 상당히 적다, 어떻게 하면 내수를 확대시킬 수 있을 것인가, 그러기 위해서 제가 알기로 일본은 상당히 많은 내수부양정책을 쓰고 있는 것으로 알고 있습니다. 그런데 여기서 우리가 외람되게 말씀드립니다만, 왜 일본이 내수가 적은가를 제가 말씀드린다면 일본은 적어도 1970년대 이래로 계속된 엔고를 극복함에 있어서 계속해서 초합리화정책을 추구해오는 과정 자체가 결국은 내수를 축소시키는 과정이 아니었는가 생각합니다. 거기에 더해서 소위 아까도 잠시 말씀을 드렸습니다만, 초저이자율 자체가 말하자면 보통국가에서 이자소득 하나의 수요 자체를

거의 축소시켜 버렸다, 그러니까 우리가 보통 말하는 부가가치 중에서 소위 임금, 이자, 이윤, 그리고 지대, 이렇게 구성되는 중에서 소위 이자소득을 극히 축소시켰기 때문에 결국은 아까 말씀드린 그 부분에 더해서 결국은 내수가 축소될 수밖에 없는, 그리고 역으로 가령 수출과 관련해서 생각해 보면 아까도 말씀드린 것처럼 이자가 극히 낮고 또 저환율정책이 결합되어서 결국은 수출경쟁력을 높이고 있는, 그런데 지금 일본경제는 이제는 조금 내수를 넓히고 조금 더 지금부터 더 잘살 수 있는 그런 여건을 확립하는 것이 어떤가 하는 외람된 말씀을 드립니다. 그것이 결국은 일본을 위해서 뿐만이 아니라 한국을 위시한 동아시아 국가들의 활성화에 가장 핵심적인 과제가 아닌가 하는 생각을 하기 때문에 감히 말씀드리고 있는 것을 이해해 주시기 바랍니다.

결들여서 아까 나까무라 이사장님께서 몇 가지 제안해 주신 부분에 대해서 말씀드리면, 한일관계에서 좀더 적극적인 Business alliance를 해보자 라고 말씀을 하셨는데 조금 구체적인 내용이 빠지지 않았는가, 그 점에 관해서는 아까 코멘트해 주신 분이 보완하는 설명을 하시지 않았나 생각합니다. 예컨대 우리가 일본, 한국, 중국을 포함한 속에서 한일이 공동진출하는 것을 통해서 Business alliance의 방향을 제시한 것으로 생각됩니다만, 저는 바로 동아시아적인 차원에서 좀더 NAFTA나 EU와 같은 수준의 동아시아 공동체를 강화시키는 과정, 그것을 강화시키기 위해서는 상당한 SOC 축적이 이루어져야 하는데 그 과정에 저는 한일이 Business alliance를 적극적으로 추구할 수 있는 부분이 아닌가 생각을 하고 있습니다.

더 나아가서는 최근 여러 가지 형태의 기업간 제휴가 일어나고, 특히 기술개발 과정에서 그러한 것들이 일어나고 있는데 저는 한일간에도 바로 이 기술개발 중심으로 한 양국 기업의 제휴, 이런 기술개발 과정에서 Business alliance가 확대될 수 있는 소지가 있지 않은가, 이런 부분을 중심으로 해서 이사장님께서 좀더 구체적으로 한일간의 Business alliance를 더 획기적으로 확대시킬 수 있는 방안이 무엇인지 조금 더 설명을 해 주시면 감사하겠습니다.

그리고 두 번째는 아까 나까무라 이사장님께서 한일간의 종래까지의 종적분업에서 횡적분업으로, 다시 말해서 수직적분업에서 수평적분업으로 가야되겠다는 말씀을 하셨습니다. 저는 아주 좋은 방향 제시라고 생각합니다. 그런데 우리가 시장메커니즘에 맡길 때 왜 수평적분업이 잘 되고 있지 않은가 하는 부분에 대해서 좀더 우리가 깊은 연구가 있어야 되지 않느냐 하는 생각을 하고 있습니다. 분명히 그런 여건이 형성이 되었는데 잘 되고 있지 않다고 한다면 그 원인을 규

명하고 그렇게 될 수 있는 여건을 우리가 적극적으로 추구해야 되는 것이라고 생각합니다.

그 점에 관해서 외람되게 말씀드린다면 결국은 여건은 성숙되었으면서 구체적으로 하는대는, 다시 말해서 일본 입장에서 한국 기업들을 이퀄파트너로서 수평적분업의 대상으로 되게 하기 위해서는 결국 한국측에서 빠져 있는 부분을 어떻게 채울 것인가, 저는 그 부분과 관련해서 평소에 제가 생각하는 것은, 예컨대 일본이 오랫동안 경쟁력 강화 과정에서 축적한 생산기술 부분을 어떻게 한국 기업속에 접목시킬 수 있을 것인가 하는 것이 과제가 아닌가 생각합니다. 적어도 일본경제는 이제는 생산 기술의 단계에서 핵심적 기술 단계로 가고 있고, 그런 의미에서 생산 기술을 좀더 한국에 적극적으로 트랜스퍼시켜서 한국기업들이 좀더 일본하고 수평적분업이 가능할 수 있는 조건을 만드는 이것이 과제가 아니냐, 적어도 이 부분에 관한 한 일본이 한국에 좀더 생산 기술을 적극적으로 트랜스퍼시키더라도 일본에는 상관없다, 일본은 이제는 좀더 고도화된 부분으로 가는 길목에서 한국기업에 접목시키는 자체가 일본의 보다 더 고도화된 산업구조로 진행하는 하나의 조건일 수도 있다는 측면에서 일본이 좀더 전향적으로 생산 기술을 한국에 제공하는 것을 통해서 수평적분업을 확대시키는 조건을 만들어야 된다는 것이 제가 평소에 생각하는 점입니다. 물론 아까 이한구 코디네이터께서도 말씀하신 것처럼 결국 그러기 위해서는 우리나라 기업을 얼마나 일본과 공유할 수 있는가 하는 그런 조건을 좀더 적극적으로 우리 기업들도 그런 환경을 제공해야 한다는 것은 말할 필요도 없겠습니다. 그 부분에 대해서 나카무라 이사장님의 의견을 듣고 싶습니다.

세 번째로 생각해야 될 것은 어제와 오늘 많이 나오고 있습니다만, 한일 양국 다같이 지금 과잉설비 문제를 안고 있고, 결국 이 문제를 어떻게 할 것인가, 말하자면 한일간의 산업 조정의 문제가 되겠는데, 여기서 우리가 제일 중요한 것은 어떤 원칙에 입각해서 한일 산업 조정을 추진할 것인가, 우리가 부분적으로는 소위 흡수합병도 하나의 방향이 될 수 있고, 또 우리가 경제의 논리, 아까 앞 섹션에서 말씀하셨던 것처럼 자유경쟁을 통해서 자연스럽게 합리적분업이 이루어지도록 해야 한다는 양자의 관계, 한쪽에서는 적절하게 양국간의 특정산업의 오버캐피스트를 어떻게 조정할 것인가 하는 문제, 또 한쪽에서는 우리가 자연스럽게 시장기구에 의해서 어떻게 균형을 만들 것인가 하는 문제, 이런 것들을 우리가 적절하게 합리적으로 만들어 낼 것인가, 다시 말씀드리어서 양국간의 상당히 큰 과제로 제기되고 있는 산업구조 조정을 어떤 원칙에 입각해서 균형으로 만들어 가고,

또 이렇게 하는 자체가 나까무라 이사장님께서 제시한 Business alliance라는 측면에서도 극히 중요하다는 측면에서 이 문제에 대한 이사장님의 의견을 듣고싶고, 좀더 연구해야 될 분야가 아닌가 생각합니다. 이상입니다.

李 漢 久 韓國側 코디네이터

감사합니다. 나까무라 이사장님께 질문이 많이 있었는데 답변하시겠습니까?

中村 壽起 SEOUL JAPAN CLUB 理事長

아주 귀중한 코멘트를 주셔서 대단히 감사합니다. 전부 다 대답 드리기에는 시간상으로 제약이 있으리라고 생각되기 때문에 제가 다 말씀드리지 못했던 부분, 또 제가 여러분들에게 이해를 구하고 싶었던 부분에 대해서 좀더 보충 설명을 드리도록 하겠습니다. 기본적으로는 오늘 오전 중에 말씀해 주셨던 김실장님의 발표 내용, 즉 자유무역지대 구상이 최종적으로는 가장 바람직한 형태가 아닌가 저는 생각합니다. 단지 김실장님이 지적하셨던 것처럼 그렇게 되기 위해서는 상당한 시간이 걸릴 것이고 해결해야할 과제가 많다고 하는 것, 그리고 지금 각 기업인들이 무엇을 할 수 있을 것인가 라고 하는 것이 제가 지금 가지고 있는 중요한 관심사항입니다. 즉 국가를 전제로 했을 때에도 지금 현재 경제구조 개편이라든지 이러한 국가라는 틀 속에서도 경제정책이 서로 국가가 보호를 하고 국가를 발전시켜 나가는 과정에서 만들어 나가는 것이기 때문에 한국과 일본의 경제정책이 완전히 일치되는 상황을 있을 수가 없을 것입니다. 그래서 양국 정부가 각기 자기 나라를 보호해 나가면서 보다 더 커다란 지역이라는 차원에서 검토를 해 보면 어떨 것인가 라고 하는 것, 연구해 보면 어떻겠는가 하는 것이 지금 양 정부가 제시하고 있는 커다란 틀이 아닌가 생각합니다.

그렇지만 그 틀을 짜는데는 상당한 시간이 걸릴 것이고, 경제라고 하는 것은 살아있는 생물입니다. 이러한 살아있는 경제상황 속에서 이런 것을 극복해 나가는 것은 일개 기업의 문제이긴 합니다만, 역시 기업 차원에서는 어떤 주식배당이라든지 종업원의 생활 등 여러 가지 사회책임을 갖고 있는 그런 입장에 있습니다. 그래서 그런 기업들이 이러한 여러 가지 복잡한 상황에서 어떻게 생존할 수 있을 것인가 라고 하는 점, 또 그리고 이웃나라인 한국과 협력관계를 유지해 나갈 수 있을 것인가 하는 점이 되겠습니다. 저는 여기서는 역시 경제원칙이라고 할까요, 경제논리를 바탕으로 서서히 저절로 해결이 되지 않을까 생각합니다.

마루베니의 이이다 전무님께서 말씀하셨습니다만, 사업이라고 하는 것은 원료가 있고 중간제품이 있고 최종제품이 있듯이 어떤 하나의 체인형태, 사슬형태가 되어 있다고 볼 수가 있겠고, 그러한 과정 속에서 한국과 일본의 경제구조는 자국의 내수구조만을 대상으로 하는 형태는 되지 못하고 있습니다. 역시 그렇게 본다면 중요한 것은 외국과의 관계가 될 것이고, 그리고 이웃나라에 있는 일본과 똑같은 기업의 사업활동을 추구할 수 있을 것이고, 그리고 출혈경쟁으로서 과연 얻을 수 있는 것이 무엇인가 하는 점입니다. 제가 경제인 입장에서 가장 커다란 관심을 두고 있는 것은 바로 그 부분입니다. 역시 정부가 검토하고자 하는 커다란 틀 속에서 과연 우리 기업인들이 무엇을 할 수 있을 것인가, 마지막에 나왔던 과잉설비라고 하는 문제도 역시 각국의 과잉설비 문제를 해결했다고 해서 양국을 더해 봤을 때 과연 과잉설비라고 할 수 있을 것인가, 이것은 내수에 대해서 과잉설비라고 얘기하는 것이냐, 아니면 경제권 이외를 대상으로 해서 과잉설비라고 하는 것인가, 과연 무역이 존재하느냐, 여러 가지 견해가 있을 수 있으리라고 생각합니다만, 한국과 일본이 힘을 합쳐서 같이 자국 사정을 베이스로 한 과잉설비 정리를 논의하는 것이 아니라 한국과 일본이 가지고 있는 설비를 토탕적으로 보면서 어떤 형태가 가장 효율적이면서 또 그것을 활용해서 보다 효율이 떨어지는 설비를 제거해 나갈 수 있을 것인가 하는 것을 업계 또는 기업 차원에서 협력해 나간다면 이것이 결과적으로 정부의 시책으로서 제대로 반영이 되고 그것이 세기 될 수 있을 것이라고 생각합니다.

저는 기본적으로는 경제 내지 비즈니스라고 하는데 그다지 정책 부분이 강력하게 반영이 되어서 추진하는 것보다는 기업가끼리 서로 이익을 누릴 수 있는 상호 메리트를 갖을 수 있고 상호 보완할 수 있는 alliance 형태가 충분히 추구될 수 있지 않은가 하는 의견이고, 그래서 구체적으로 경제인간에 보다 구체적인 해결책을 찾아 나가는 것이 지금 현재 양국에 있어서 가장 절실히 요구되는 것이라고 생각을 하는 것입니다. 감사합니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

일본무역회의 고지마 전무님께 부탁드립니다.

小島 幹生 (社)日本貿易會 専務理事

일본무역회 전무를 맡고 있는 고지마입니다. 오늘 나카무라 이사장님으로부터

한국 현장에서 평소 한일 기업의 사업 발전을 위해서 여러 가지 활동을 해 오시면서 느낀 점에 대해서 발표를 해 주신 것, 대단히 여러모로 참고가 되었습니다. 나카무라 이사장님이 Business alliance에 대해서 말씀을 하신다고 해서 그렇다면 옆에서 진행 중인 제2분과회의 테마가 아닌가 생각을 했었습니다. 그렇지만 어제부터 진행된 여러 가지 논의, 그리고 이 분과회에서의 내용을 들어보니까 그야말로 이것은 무역분야의 안전에서 여러 가지 문제를 해결해 주는 키워드는 바로 이 한일 Business alliance를 어떻게 추진해 나갈 수 있을 것인가 라는 점을 느꼈습니다. 그래서 나카무라 이사장님이 아주 시의적절한 테마를 선정하지 않으셨나 생각합니다.

덧붙여서 제 코멘트를 먼저 무역과 관련해서 말씀드리자면 항상 제기되는 것이 한일 무역불균형 문제가 되겠습니다. 지금 현재 한국경제가 마이너스를 기록했었고, 작년에는 수입이 축소되는 형태로 해서 양국간의 무역불균형이 축소되고 있습니다만, 여하튼 가까운 시일 내에 한국경제도 회복이 될 것이고 그렇게 된다면 일본의 수출도 늘어나게 될 것이고, 다시금 한일 양국의 무역불균형이 확대되지 않을까 라고 생각이 됩니다만, 이와 같은 무역불균형 문제를 해결하기 위한 키워드가 되는 것은 역시 양국의 Business alliance를 어떻게 확대시켜 나갈 수 있을 것인가, 기술제휴, 투자협정을 어떻게 발전시켜 나갈 수 있을 것인가가 관건이 된다고 봅니다.

지도 이번 회의에 소속되어 있는 한일무역투자위원회의 위원장을 6년간 맡아오고 있습니다만, 그 전에 한일경제포럼이라고 하는 모임이 있었습니다. 거기에서 전문위원을 역임한 적이 있기 때문에 한국의 무역불균형 문제에 대해서는 상당히 제 얘기가 길어지게 마련입니다. 그래서 처음에 제가 이 모임에 처음 참여했을 때에는 과연 이 불균형 문제가 어디에 책임이 있는가에 대해서 양국이 상당히 거세게 서로 반론을 제기하는 경험을 가지고 있습니다. 한 5~6년 전부터라고 할까요, 양국의 불균형 문제 기저에는 한국경제 발전에 필요한 자본재를 공급해주는 능력이 한국이 충분하지 않기 때문에 부득이 하게 일본에 의존할 수밖에 없다고 하는 공통의 인식이 서서히 자리잡고 있습니다. 그것은 물론 한국만의 문제가 아닐 것입니다. 일본도 역시 산업구조를 변화시켜서 한일 양국이 같이 양국의 산업구조를 조성해 나가는 형태를 통해서 문제를 해결할 수 있을 것이나 라고 하는 공감대를 형성해 오고 있습니다.

그리고 이러한 한일 문제를 단적으로만 다루는 것이 아니라 아시아 속에서의 한일 관계, 세계 속에서의 한일 관계라고 하는 보다 더 큰 틀 속에서 검토해 보

아야 할 것이라고 하는 종래의 여러 가지 논의를 통하여 그런 성과를 거두어 왔습니다. 이 산업구조 조정에 대해서 말씀드리면 여러 가지 논의가 있었습디만, 정부가 이렇다 저렇다 강요해서 변화시켜 나갈 수 있는 것은 아니라고 생각합니다. 투자 교류, 또는 기술제휴라고 하는 것은 어디까지나 경제원리, 시장원리, 비즈니스를 베이스로 해서 진행시켜 나가야 될, 이런 Business alliance가 축적되는 과정 속에서 서서히 그 나라의 각국의 산업구조가 바뀌어 나가는 것이 바람직하다고 생각이 됩니다. 그래서 한일 무역불균형 문제를 해결해 나가기 위해서는 그야말로 양국의 Business alliance를 어떻게 진전시켜 나갈 수 있을 것인가가 키워드가 된다고 보고, 키워드를 실현시키기 위한 기본조건을 어떠한 것이 있는가를 검토해 볼 필요가 있다고 생각합니다.

어제부터 모든 발표자들이 한일 자유무역협정, 무역지대에 관해서 말씀을 하셨습니다. 저 역시 한일 문제에 관여하고 있는 입장에서 본다면 상당히 감개무량하다고 생각합니다. 즉 한일 양국이 자유무역협정이라는 수준에까지 진지하면서도 아주 밀접한 관계가 이루어졌는가 라는 생각에서 감개무량합니다. 여러 가지 형태로 이야기가 있었습디만, 일본측은 아직까지 논의가 막 시작된 단계이고 그리고 아직까지 충분한 논의가 이루어지지 못하고 있는 실정이 아닌가 생각됩니다. 어제 오쿠라 대사께서 한일 양국이 공통의 비전을 내걸고 정부 차원뿐만이 아니라 기업, 민간 부문, 다양한 차원에서 협의를 하고 공동작업을 해 나가는 그 프로세스가 중요하다는 말씀을 하셨습니다. 저도 전적으로 그 의견에 동감하는 바이고, 한일 무역협정을 실현시키기 위해서 우리 기업인들 간에서도 보다 활발하게 서로 대화를 나눌 필요가 있다고 생각합니다.

제 개인적인 생각으로는 한일 자유무역구상이 최종적으로 한일 양국의 정책 프로세스를 거쳐서 성숙되어져 나가기 위해서는 몇 가지 조건이 필요하다고 봅니다. 그 중에서도 제가 특히 중요하다고 생각하는 것은 최근 양국 국민들의 관심인 고용문제입니다. 이러한 자유무역지대가 실현되면 양국 정부의 고용증대에 기여할 것인가, 국민들의 어떤 확고한 공감대가 성립되지 않는다고 하면 좀처럼 한일 양국의 자유무역지대로까지 진행되기는 어려울 것이라고 생각합니다. 여하튼 한 국가의 산업이 상대국가의 산업과 압도적으로 능가하고 그 종업원을 오히려 어려운 처지에 몰아 넣는 것이 된다면 자유무역지대 구상은 사실 어렵다고 볼 수 있습니다. 그래서 자유무역지대가 실현된다고 할지라도 양국은 서로 고용기회를 확보하면서 상호 발전이 가능하다고 하는, 정치적이고 경제적인 그런 분위기 조성이 필요하다고 생각되고, 이것은 아주 절대적으로 중요한 조건이 아닌가

생각을 합니다. 그래서 수평분업, 수직분업 등 여러 가지 형태가 있습니다만, 한일 양국의 Business alliance를 진행시킴으로 인해서 양국의 분업 형태가 보다 더 가시적인 형태로 나타나면서 비로소 이러한 자유무역지대 구상이 실현될 수 있을 것이라고 생각합니다.

좀 얘기가 길어졌습시다만, 나까무라 이사장님께서 이러한 Business alliance를 테마로 말씀해 주셨다는 것은 아주 시사점이 많고 시의적절한 테마였다고 생각합니다. 이것을 Business alliance로 추진할 때 무엇이 문제가 되는가에 대해서는 여러 가지 검토해야 할 테마가 많다고 생각합니다. 예를 들어서 투자보장협정이 있습니다. 한일 Business alliance를 추진하기 위해서는 양국간 산업 차원에서 검토하고 해결해야 할 과제가 아주 많을 것입니다. 다행스럽게도 앞으로 이 전문위원회가 단일화된 회의로 발족됩니다. 그곳에서 충분히 논의될 수 있는 자리가 마련될 것이라고 생각하고, 제 개인적인 의견으로는 나까무라 이사장님께서 아주 좋은 테마를 선정하셨기 때문에 이 테마를 다음 산업무역회의에서 더 시간을 들여 진지하게 집중적으로 논의해 볼 필요가 있을 것이라고 생각되고, 내년 이 회의에서는 그 성과를 바탕으로 다시 한번 진지하게 검토해 볼 수 있기를 기원하면서 이러한 자유무역지대를 실현시키기 위한 환경과 분위기 조성을 위해서 보다 더 노력을 해야 할 것이라고 생각합니다. 감사합니다.

李 漢 久 韓國側 코디네이터

시간이 많이 경과되었습니다만, 한국측에서 꼭 코멘트를 하고 싶다는 분이 계십니다. 신라호텔의 이길현 사장님, 부탁드립니다.

李 吉 鉉 (株)HOTEL 新羅 社長

신라호텔의 이길현입니다. 작년에 미야자키 회의 때 아소 사장님과 같이 제가 코디네이터를 맡았었습니다만, 오늘 회의가 더 순조롭고 많은 분들의 의견을 듣게 되어서 더욱 발전된 것 같아 축하드립니다. 이 모임을 저도 10여년 참석을 하나 보니까 좋은 중매하는 자리라고 봅니다. 양국 경제발전을 위해서 수고하신 분들이 모두 모여 재신데, 몇일 전에 여기서 로터리클럽을 했습니다만, 일본 손님 두 분이 들어오셨는데 오사카에서 사업을 하시는 분이셨습니다. 중견기업인데 250명중에서 한국 종업원이 8명 정도 있는데 얼마나 일을 잘 하는지 1960년대의 일본 사람처럼 일을 잘한다는 얘기를 들었습니다. 또 하나 예는 큐슈에 있는 마

쓰시마제작소라고 가나가다를 만드는 사장께서 여기 와서 가나가다를 만들고 계십니다. 그것이 일본에서 만드는 것보다 훨씬 싸고 좋다고 늘 말씀하십니다만, 이 회의에도 여러 번 나오시는 분입니다.

그런 것을 볼 때 우리가 고지마 전무께서 말씀하듯이 사람의 고용문제라든가, 나카무라 이사장이 말씀하신 것 같이 단계적인 교류 같은 것은 우리가 해야 할 임무라고 생각합니다. 2주전에 일본 정부의 대일투자회의에 제가 임원으로 참석했을 때, 여기 계신 조석래 회장님과 장관 등이 계신 테이블에서 일본 수상을 환영하는 자리에서 같이 말씀을 들었습니다만, 104세 또는 105세되신 할머니가 TV에 나왔는데 사회자가 할머니 그렇게 돈 많이 벌어서 무엇에 쓰시려고 하십니까 하고 여쭙었더니 노후를 위해서 저축한다고 하신 얘기를 했습니다.

일본이 아주 검약하고 절약하고 안쓰고 하지 말고 소비가 미덕이라고 어느 정도 소비를 해 주셨으면 하는 것, 제가 30년 가까이 여러 가지 사업을 하면서 이런 것은 좀 아쉽다, 이렇게 했더라면 지금쯤 양국 관계가 좀더 좋아졌을텐데 하는 아쉬움이 많이 남습니다. 과거를 돌이켜 보면 기술이나 자본 등 제때에 협력해서 했더라면 하는 아쉬움을 느끼면서 돌아봅니다.

앞으로도 마찬가지입니다. 현해탄 200km를 사이에 두고 양국이 같은 물건을 만드는 경쟁을 하고 있습니다. 또 같은 시장에 나가서 피를 흘리며 경쟁을 하고 있습니다. 과잉시설도 많습니다. 일본의 중소기업이 세계적으로 독특한 기술을 얼마나 많이 갖고 있습니까? 이런 것이 사장되어져 있지 않고 전부 활용할 수 있는 방법은 우리가 이 회의에서 적극적으로 중견 중소기업을 도와서 중매를 해야 한다고 생각합니다. 앞으로 이 회합이 단순히 이 자리에서만 논의되고 끝나는 것이 아니라 많은 미션들이 왕래하고 있으니까 많이 도와주어야 하지 않나 생각해서 말씀을 드렸습니다. 감사합니다.

李 漢 久 韓國側 코디네이터

감사합니다. 시간이 많이 경과되었음을 참고해 주시고, 혹시 일본측에서 꼭 말씀을 하실 분이 계시면 부탁드립니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

한 분 더 부탁을 드렸었는데 시간이 부족해 아주 짧게 말씀해 달라고 다시 한번 부탁드립니다 수밖에 없는 어려운 사정입니다. 이또츄상사의 서울지점 한국대표

로 계신 마쓰모토 대표님께 간단하게 부탁드립니다.

松本 明久 伊藤忠商事(株) 서울支店韓國代表

이또추상사의 한국대리점에 있는 마쓰모토라고 합니다. 작년 4월에 한국에 와서 아직 얼마 지나지 않아서 특별하게 말씀드릴 것은 없습니다만, 제가 한국에 온 뒤 2개월 지나서 21세기 한일관계를 생각하는 심포지움이 열렸었습니다. 그 자리에 참석하여 아주 인상깊었던 세 가지 점을 여러분께 소개하고자 합니다.

첫 번째는 21세기 한일관계를 생각한다는 논의 자체가 한일 관계자 사이에서 아주 솔직하게 진행이 되었다 라고 하는 점, 그리고 두 번째는 역시 일본측은 21세기를 향해서 새로운 환경을 만들어 나가자고 하는 논의가 중심이었었습니다만, 한국 대표분들은 과거 역사 문제가 역시 아주 중요하다고 하는 점을 지적하셨습니다. 그래서 이 역사 문제가 아직 뿌리깊게 남아 있다 라고 하는 것을 다시금 느꼈었습니다. 세 번째는 마지막으로 한국 대표분께서 말씀하셨던 내용입니다만, 좋다 싫다 얘기는 하지만 역시 이웃나라가 아니냐 하는 점, 그래서 서로 뻔뻔야 뻔 수 없고 다른 곳으로 이사갈 수도 없는 사이라는 점입니다.

그래서 제가 말씀드리고 싶은 것은 한국과 일본은 똑같은 동일한 시장 속에서 시간이 걸리더라도 상호 노력을 통해 관계를 개선해 나가기 위한 솔직한 논의가 앞으로도 더욱 더 필요할 것이라고 생각되고, 나까무라 이사장님께서 말씀하신 한일 Business alliance에 대해서도 역시 자유무역지대 구상을 철저하게 검토해 나가면서 이 Business alliance가 보다 더 가속화될 수 있을 것이라고 생각합니다. 저 자신도 서울 현지에 있으면서 자유무역지대 구상에 적극적으로 참여를 했었으며, 한일 Business alliance에 대해 조금이라도 제가 앞으로도 기여해 나갈 수 있기를 바랍니다. 감사합니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

무리한 부탁을 드려서 대단히 죄송합니다. 현재 서울 현장에서 활약하고 계시는 아주 귀중한 의견을 들을 수 있었습니다.

李 漢 久 韓國側 코디네이터

뒤에 발언을 요청하셨는데요 아주 짧게 부탁드립니다.

아침부터 계속 참석하는 기회를 갖게 되어서 감사합니다. 일본측에서 한국에서는 교수님이나 연구위원의 발표는 많은데 기업에 참여하는 사람들의 솔직한 의견을 듣고 싶다고 해서 제가 용기를 내서 기업을 맡고 일하고 있는 사람으로서 말씀드리고자 합니다.

제가 지금 한 예를 들면서 일본 분들에게 이렇게 하고 있는데 이러한 방향으로 좀더 진력을 해주시면 어떻겠습니까 하는 뜻에서 말씀드리고자 합니다. 저는 이번 회의에 처음으로 참가했습니다. 성문전자에서 일하고 있는데 전자부품을 만드는 회사입니다. 산업계에 발을 들인 것이 40년이 되었습니다만, 그 동안 일본과 여러 가지 거래가 있었고 일본의 상관습에 대해서도 비교적 잘 알고 있다고 생각됩니다만, 일본의 유통경로가 복잡하기 때문에 좀처럼 진입이 어렵습니다. 그래서 지금 하고 있는 부품을 일본의 대형 전자업체가 해외 이전하고 있는 곳으로 판매를 하러 갔습니다. 구체적으로 브라질인데요. 브라질 해외현지법인에서 사용을 해 보니 상당히 좋고 경쟁력이 있다 라고 판단해서 그것을 다시 스페인에 있는 현지법인에서 사용을 해봤습니다. 거기에서도 좋다는 판정을 받았습시다. 일본에 있는 본사 공장에서 한번 사용을 해보고 싶다 라는 의뢰가 있어서 견적과 샘플을 보냈었습니다. 그래서 해외이전을 시행하고 있는 브라질과 스페인에서 사용을 했었기 때문에 그 제품에 대해서 충분히 확신을 가지고 있었던 것입니다. 그래서 가격 문제만 있었습시다만, 일단 일본 본사도 사용해 볼 수 있는 형태로 애기가 진행되고 있습니다.

나카무라 이사장님께서 말씀하셨습니다만, 앞으로 한국과 일본의 Business alliance라는 테마라고 하는 것, 이것은 이미 실제로는 기업 레벨에서 진행이 되고 있지 않은가 라고 생각합니다. 오히려 일본의 대기업이 한국과의 교류를 보다 더 심화시키고자 하는 그런 마음이 더 강하다면 일본에서 유통경로가 복잡하기 때문에 외국에서 일단 한번 시험을 해보고 그것이 괜찮다고 확인이 된다면 그것을 일본에 적용을 해보는 것도 어떨까 생각합니다.

그리고 일본에 진입하는데 있어서 여러 가지 관세 문제, 반대로 일본에서 한국으로 들어오는 통관 문제 등이 있습니다. 1단계, 2단계, 3단계 이렇게 있는데 3단계에서 관세를 철폐해야 한다고 야카 발표가 있으셨습니다. 이러한 문제들이 가급적 빠른 시일 내에 해결이 되어서 서로 장벽을 두지 않은 상태에서 일을 할 수 있다면 보다 원활하고 보다 활발한 비즈니스 제휴가 이루어질 수 있을 것이라고 생각해서 이렇게 간단하게 코멘트를 하게 되었습니다. 감사합니다.

李 漢 久 韓國側 코디네이터

의견이 더 개실 줄로 생각합니다만, 한정된 시간 때문에 여기서 회의를 종료코자 합니다. 그 동안의 활발한 의견 개진에 대해서 감사 말씀을 드립니다. 끝으로 양측 코디네이터가 느낀 부분에 대해서 말씀을 드리도록 스케줄에는 되어 있습니다만, 시간 관계상 생략을 하기로 하겠습니다. 양측 백그라운드 페이퍼 발표자께 다시 한번 감사 말씀을 드리고, 또 적극적으로 참여해 주신 여러분들에게 감사 말씀을 드리겠습니다. 여러분들께서 말씀 드린 것은 정리를 해서 오후에 있을 전체회의 때 보고를 드리도록 하겠습니다.

한가지만 제가 말씀드리고 싶은 것은 여러 가지 좋은 방안도 나왔고 정부의 기대도 많고 민간에서 실천하겠다는 의지도 우리는 확인할 수 있었습니다. 다만 제가 조금 걱정되는 것은 농담 삼아 말씀드립니다만, 한국 사람들은 좀 서두르는 경향이 있는데 반해서 일본 사람들은 상당히 신중한 것이 과거의 예입니다. 그래서 양국이 박자가 맞지 않을까 싶어서 걱정입니다. 이번에는 박자를 양국이 맞춰서 제대로 일이 되도록 하는 계기로 삼았으면 하는 희망을 갖습니다. 그럼, 아소 사장님께 마지막으로 말씀을 부탁드립니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

협력해 주신 여러분들에게 대단히 감사드립니다. 덕분에 아주 솔직한 여러분들의 의견을 들을 수가 있었습니다. 저도 10년간 이 회의에 참석하고 있습니다만, 매년 더욱 더 솔직한 의견을 들을 수 있고 양국간의 관계가 보다 더 긴밀해지는 것 같습니다. 일한 교류가 진전되면서 현실적인 자유무역지대 구상이 실현될 수 있기를 기원합니다. 그리고 여러 가지 무리한 부탁을 많이 했습니나만, 여러분의 협력에 대해 정말로 감사드립니다.

李 漢 久 韓國側 코디네이터

마지막으로 그 동안 훌륭한 통역을 해 주신 통역 두 분께 박수를 부탁드립니다. 이상으로 제1분과회를 마치도록 하겠습니다. 대단히 감사합니다.